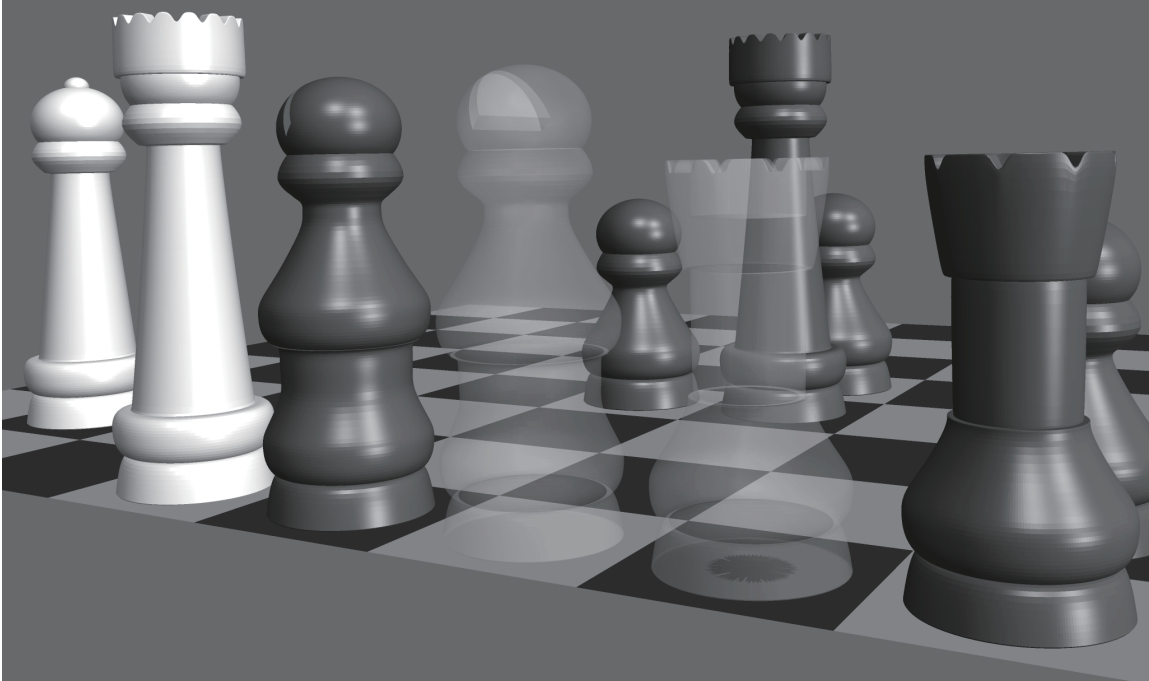


PROBLEM PARADISE

Issue 92

Vol.23

October-December 2020



Journal of Japanese Chess Problem Society

Contents

Orthodox1
Endgame4
Helpmate9
Selfmate24
Fairy27
Retro37
Shogi42
Informal Tourney Award Helpmate 2017 (Judge: Zoran Gavrilovski)47
Fairy condition Anticipated (by Eric Huber)59
Silence, on tourne! (by Sébastien Luce)62
Some special effects with the new type (by Günther Weeth)68
リレー・エッセイ 私のお気に入り (第4回)	
数式処理ソフトと換気扇の下 (吉野隆)71
Definitions76
第90号解答成績80
2021年度海外誌購読斡旋について3
第2回 Home Solving Tournament8, 26, 36, 46, 58
Book Sale67, 75, 80

各セクションごと、および全体で、1題5点として成績を集計します。オーソドックスの #2 以外の作品については、主要変化と思われるものをすべて記入してください。短評大歓迎。各セクションごとに別紙を使用し、それぞれに氏名を記入すること。締め切りは **2021年1月31日** 消印有効。宛先は Solution Editor の若島まで。また、作品の投稿は直接に担当者へ。

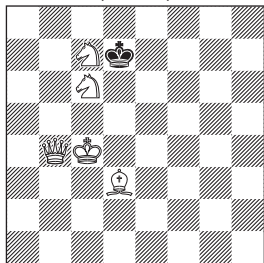
All solutions should be sent to the Solution Editor Tadashi Wakashima (Niina 7-8-13, Minoh-shi, Osaka 562-0005, Japan) before **January 31, 2021**. Please write down your solutions of each section in separate sheets. Solutions and comments by e-mail (tadashi@hcn.zaq.ne.jp) are most welcome. All originals should be submitted to the sub-editors. Their names and (e-mail) addresses are given on the back cover. Computer-tested problems are indicated by C+.

第92号をお届けします。今号も原稿満載で、なんと80ページ建て、過去最高になりました。お正月休みにどうぞゆっくりとお楽しみください。

いつもなら、この号にはISCのお知らせを載せるのですが、この編集作業をしている時点では、開催されるか正式に決定していません。もし開催される場合は、日本としては、レーティング付きの競技としてではなく、Zoomを使った非公式の競技を行う予定です。これまでの参加者の方々にはメールでお知らせをさしあげますが、新規に参加を希望される方は、若島までご連絡ください。

なお、それとも関係しますが、来年の2月から、Zoomを使った月例会を開催する予定です。第1回は、2月7日(日)の午後1時から6時まで(途中の入退室は自由)。内容は、プロブレムや詰将棋のレクチャーなど、およびフリートークです。くわしくはTwitter(アカウント名 propara)で情報を流します。ZoomのURLは固定にしますので、第2回HSTに参加された方は、そのときのものと同じです。こちらも、新規に参加を希望される方は、若島まで。URLなどをお教えします。

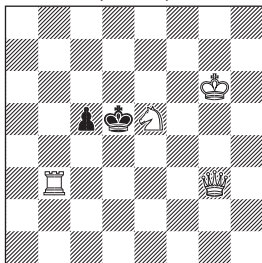
D547 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



#2

(5+1)

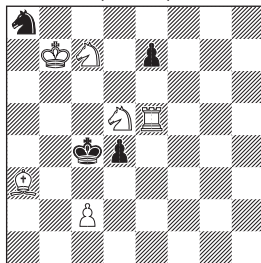
D548 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



#2

(4+2)

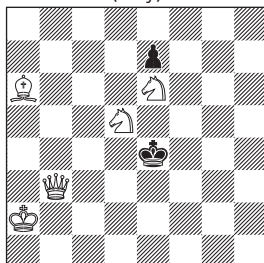
D549 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



#2

(6+4)

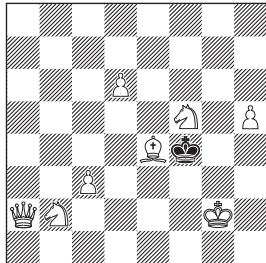
D550 Vito Rallo
C+ (Italy)



#3

(5+2)

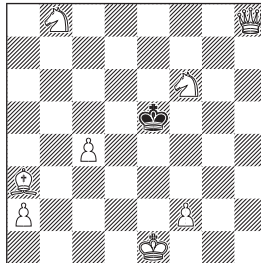
D551 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3

(8+1)

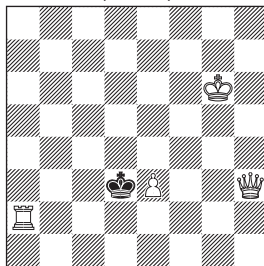
D552 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3

(8+1)

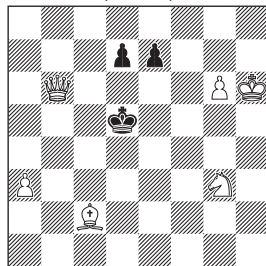
D553 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3

(4+1)

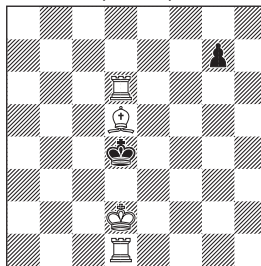
D554 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#3

(6+3)

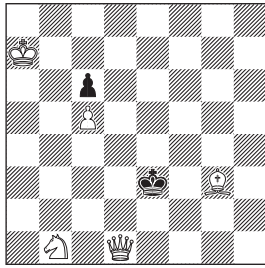
D555 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



#4

(4+2)

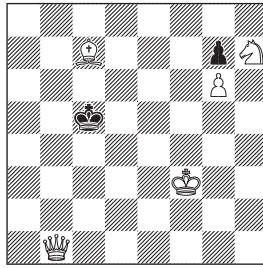
D556 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



#4

(5+2)

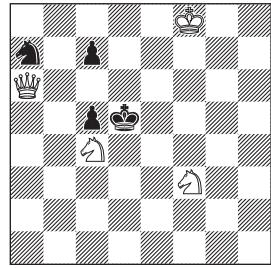
D557 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#4

(5+2)

D558 Petrasin Petrasinovic
C+ (Serbia)



#4

(4+4)

Orthodox

Orthodox Editor

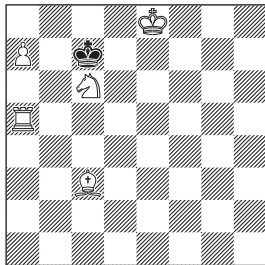
Yuji Kikuta (菊田裕司)

Judge 2020-2021

Valery Kopyl (Ukraine)

Issue 90 (D540-542)

D540 David Mealor
C+ (UK)



#2

(5+1)

1.Sd8! waiting

1...Kb6/Kc8/Kd6 2.a8=S/Rc5/Be5#

宮嶋：さわやかにプロモーション

神在：生まれて初めてのプロモーション。

黒川：ルークを動かす手から考えてしまった。

太刀岡：受けに応じてメイト駒が変わるのが面白い。

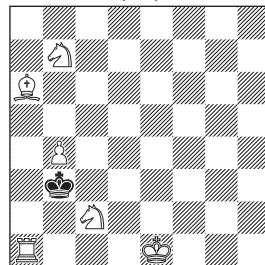
星野：白K以外、すべて動く。

九尾：すべての駒が1回ずつ動くのは好印象です。

☆入門用ですが、意外と好評でした。やはり詰キストとしては駒の働きとか効率を重視するんでしょうか。

[○ 11 △ 0 × 0 - 0]

D541 David Mealor
C+ (UK)



#2

(6+1)

1.0-0-0! waiting

1...Ka4/Ka2/Kc3 2.Sc5/Bc4/Rd3#

黒川：逃げ道が多いが塞ぎ方が全然浮かばなかった。

神在：生まれて初めてのキャスリング。

太刀岡：ミエミエのキャスリング。

星野：1段玉は、まずキャスリング。

内田：キャスリングの忘れもの

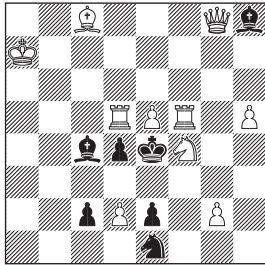
宮嶋：同じ作者でもう一題（アンパッサン）ほしかった。

☆キャスリングというだけですが、それができ

ることに気が付かなかった無解が 1 名。

[○ 10 △ 0 × 0 - 1]

D542 Aleksandr Pankratyev
C+ (Russia)



#2 (10+7)

- 1.Se6! (2.Sc5#)
- 1...Kxd5/Sd3/Kxf5/Kd3
- 2.Bb7/Sg5/Qg6/Rxd4

太刀岡：自ら遮断位置に飛び込むのが面白い。
 神在：生まれて初めての Orthodox 超難解作、詰将棋と同様に自駒の利きを止める手は難手。
 九尾：焦点が狙い目。

☆左右対称中央に手ありみたいなキーです。変化もまずまず。

黒川：g2 のポーンはなくとも成立はしていそうか。

☆確かに成立しています。ただそうすると 1...Kf3 の Set が unprovided になる（黒から指し始めるとして 1...Kf3 に対して詰ます手が無い）というのを気にされたのかもかもしれません。

[○ 10 △ 0 × 1 - 0]

2021 年度海外誌 購読斡旋について

2021 年度の海外誌購読を下記のとおり斡旋いたします。

希望の雑誌名と料金（予価）を明記して、郵便振替にて **1 月 29 日（金）まで（厳守）** に JCPS へお申し込み下さい。

なお、新規および住所変更の方は、必ず氏名・住所にローマ字表記を付して下さい。

The Problemist（英語）

イギリスで発行されている最も老舗の専門誌。全分野。年 6 冊。

pdf 版（ダウンロード）配布と、従来同様の紙媒体配布の、2 種類があります。後者は、pdf のダウンロードも無料です。

pdf 版……800 円

冊子版……3900 円（21 歳以下 2000 円）

Phénix（フランス語）

全分野。年 8 冊ほど。6400 円。

Die Schwalbe（ドイツ語）

これも老舗の専門誌。全分野。年 6 冊。5000 円。

feenschach（ドイツ語）

フェアリー専門誌。年 4 冊ほど。5700 円。

Probleemblad（オランダ語）

全分野。年 4 冊。5000 円。

StrateGems（英語）

全分野。年 4 冊。5200 円。

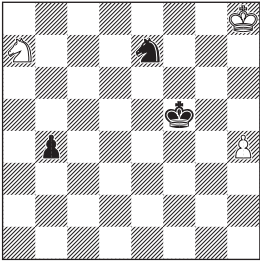
Definitions

Continued from p.79

Royal : K の代わりにする駒。チェックやメイトの概念を、K ではなく Royal 駒に適用する。

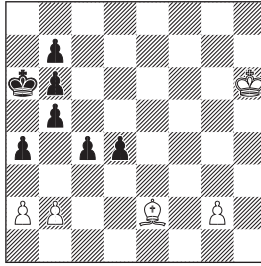
Vao : Chinese piece の一つ。B のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

E152 Pavel Arestov
Peter Krug
(Russia, Austria)



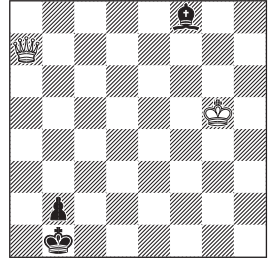
Draw (3+3)

E153 Jarl Henning Ulrichsen
(Norway)



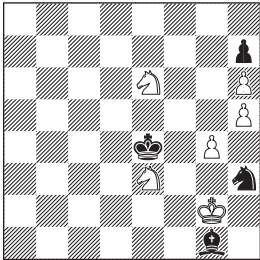
Win (5+7)

E154 Avedisian Alexander
(Uruguay)



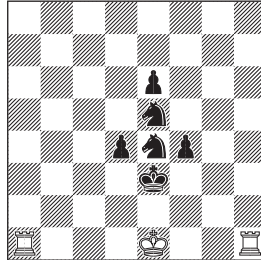
Win (2+3)

E155 Amatzia Avni
Yochanan Afek
(Israel)



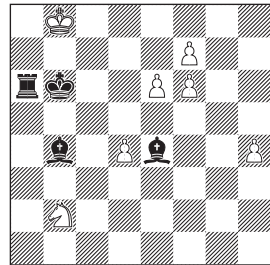
Win (6+4)

E156 Peter Krug
(Austria)



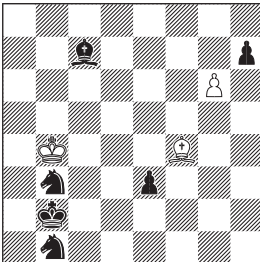
Draw (3+6)

E157 Michael Pasman
(Israel)



Draw (7+4)

E158 Michael Pasman
(Israel)



Draw (3+6)

Endgame

Endgame Editor

Hiroshi Manabe (真鍋 浩)

Judge 2020-2021

Mario G. Garcia (Argentina)

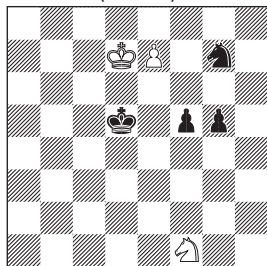
2020 年中の発表作は 24 作品となりましたので、当初のアナウンス通り、2020 年の発表作のみで受賞作を決定します。次号から新たなサイクルになります。

Since there were 24 studies published in 2020, the prizes will be decided within the single year 2020. A new tournament will start from next issue.

今号は 7 題です。E152 は取っ付き易い問題、自然な手から入ってください。E153 は奇異な初形ですが、手は限られているので、恐れずに挑戦してください。E154 は少ない駒数ですが難問、白 K の役割はメイトに加わることはありません。E155 は色々な駒が当たっていますが、駒取りに拘らず、作意を見つけてください。E156 は黒の駒の塊が手強そうですが、弱点を見つけてください。E157 は黒からのメイト筋に気をつけながら、ポーンをうまく進めてドローに持ち込んでください。E158 は導入部はわかりやすいので、その後どうやってドローに持ち込むか、筋を考えてみてください。

Issue 90 (E140-146)

E140 Marcel Dore (France)



Win (3+4)

1.Sg3! f4 2.Sf5 Sh5 3.Ke8 Ke6 4.Kf8 Sf6
5.Sg7+ Kd6 (5...Kd5 6.Sh5 f3 7.Sxf6+)
6.Kf7 f3 7.Kxf6 f2 8.Sf5+ Win

☆簡素な初形ですが、正解にたどり着くのは簡単ではなかったようです。

☆ 1.Se3+? Ke4 は黒勝ちなので、1.Sg3 f4 2.Sf5 は必然です。2...f3? 3.Sxg7 f2 4.Sf5! は簡単に白勝ちなので、黒は 2.Sh5! と躲すのが最善です。

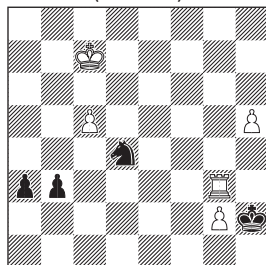
☆ここが考え所、3...Sf6+ のフォークを避けないといけません、3.Kd8? Sf6 4.Sg7 f3 5.Sh5 f2 6.Sxf6+ Kd4 はドロー。3.Ke8 Ke6 4.Kf8 と敢えて手数を掛け、4...Sf6 5.Sg7+ と進めます。

☆ 5...Kd6 に は 6.Kf7! (Try:6.Sh5? Sd7+ 7.Kf7 Se5+ Draw) f3 7.Kxf6! f2 8.Sf5+ で勝ち、5...Kd5 に は 6.Sh5! (Try:6.Kf7? f3 7.Kxf6 f2 8.Sf5 f1=Q Draw) で勝ちになります。

☆ 3.Ke8 の遠回り、5...Kd6/Kd5 の両ラインで作意と Try が入れ替わることがテーマの作品でした。

[○ 1 △ 3 × 0]

E141 Lubos Kekely Michal Hlinka (Slovakia)



Draw (5+4)

1.Rh3+ Kxg2 2.h6 a2 3.h7 Se6+ (3...Sb5+ 4.Kc6 a1=Q 5.h8=Q Qxh8 6.Rxh8 b2 7.Rg8+ Kf2 8.Rf8+ Ke2 9.Re8+ Kd2 10.Rd8+ Kc2 11.Rb8 b1=Q 12.Rxb5 Draw)
4.Kd6 Sg5 5.Rh2+ Kg3 6.Rh1 Sxh7 7.c6 Sf6 8.Ke6 Se8 9.Kd7 b2 10.Kxe8 a1=Q 11.Rxa1 bxa1=Q 12.c7 Draw

☆ 初手 1.h6? は 1...Kxg3 2.h7 a2 3.h8=Q a1=Q で黒勝ちなので、1.Rh3+ Kxg2 2.h6 a2 3.h7 まで必然で進んだところで、2つのラインに分岐します。

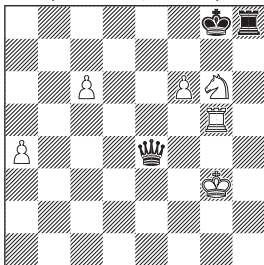
☆ 3...Sd6+ 4.Kd6 (4.Kc6? Sd8+ 5.Kb6 Sf7) Sg5! には 5.Rh2+! が うまい 手で、5...Kg3 6.Rh1! Sxh7 7.c6 Sf6 8.Ke6 Se8 9.Kd7 以下ポーンレースになり、c ファイルのポーンが残るのでドローになります。

☆ 3...Sb5+ 4.Kc6 a1=Q には、5.h8=Q Qxh8 6.Rxh8 b2 7.Rg8+ Kf2 8.Rf8+ 以下連続チェックを掛け、10...Kc2 まで追い込んでから 11.Rb8 b1=Q 12.Rxb5 とすればこの形はドローになります。

☆ 3手目の分岐で全く異なるドローへの手順がテーマですが、ドローポジションの知識が求められる問題でした。

[○ 0 △ 1 × 3]

E142 Steffen S. Nielsen
Pavel Arestov
(Denmark, Russia)



Win (6+3)

1.Se5+ Kf8 2.Sd7+ Kf7 3.Rg7+ Ke8 4.f7+ Kd8 5.f8=Q+ Rxf8 6.c7+ Kxc7 7.Sf6+ Qe7 8.Rxe7+ Kd6 9.Ra7 Rxf6 10.Ra6+ Ke5 11.Rxf6 Kxf6 12.a5 Win

☆ 1.Se5+ から 2.Sd7+ は自然な手。2...Ke8 は 3.Re5+ なので、2...Kf7 3.Rg7+ Ke8 (3...Ke6 4.Re7+) と進みます。

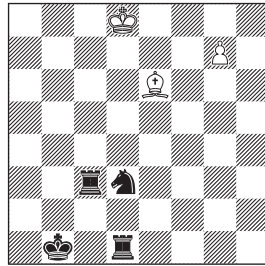
☆ここで4.Re7? Qxe7はドローなので、4.f7+! Kd8 5.f8=Q+ Rxf8 6.c7+ Kxc7 と、2回のポーン捨てでR+Nのバッテリーを作ります。

☆ナイトをどちらに開くかが問題ですが、7.Sc5+? は 7...Qe7! 8.Rxe7 Kd6 9.Re5!

Kex5 10.Sd7+ Kd6 11.Sxf8 Kc5 でドロー。正解の7.Sf6+ に対しても、7...Qe7! 8.Rxe7 Kd6 と粘りますが、9.Ra7 が決め手で、以下白勝ちです。

[○ 0 △ 1 × 3]

E143 Valery Kalashnikov
(Russia)



Draw (3+4)

1.g8=Q Sc5+ 2.Bd5 Rcd3 3.Qg6! Kc1 4.Qg5+ Kb2 5.Qg7+ Kc2 6.Qg6! Kc1 7.Qg5+ R1d2 8.Qg1+ Kb2 9.Qg7+ Kc2 10.Qg6! Kc3 11.Qf6+ Kc2 12.Qg6! Draw

☆ 必然の初手 1.g8=Q に対して、1...Sf4 は 2.Bd7 Rdc3 3.Kc8 で簡単にドローなので、黒は 1...Sc5 2.Bd5 Rcd3 と粘ります。

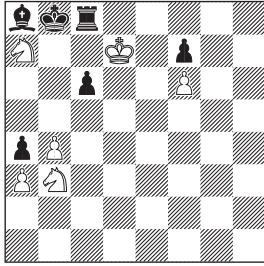
☆ビショップを取られてしまったのは負けなので、白はQでRをピンしますが、3.Qh7? は 3...Kc1! 4.Qh6+ R1d2! 以下、黒勝ちです。

☆ 正解は 3.Qg6! で、以下 3...Kc1 4.Qg5+ Kb2 5.Qg7+ (5.Qf6+? Ka3!) Kc2 (5...Ka3 6.Qa7+ Sa4 7.Qe7+ Kb2 8.Qb4+) と進みます。

☆ こ こ で 6.Qg2+? Kc3! 7.Qg7+ Kb4 8.Qb2+ Sb3 は続かないので、6.Qg6! と再度ピンし、以下 6...Kc1 7.Qg5+ R1d2 8.Qg1+ Kb2 9.Qg7+ Kc2 10.Qg6! と進んで、黒には打開策はなく、以下ドローとなります。

[○ 0 △ 1 × 3]

E144 Andrzej Jasik
(Poland)



Draw (6+6)

1.Sc5 Rc7+ 2.Ke8! Rxa7 (2...Kxa7 3.Kd8 Rb7 4.Ke8 Rc7 5.Kd8 Kb6 6.Sxa4+ Kb5 7.Sc3+ Kb6 8.Sa4+ Kb7 9.Sc5+ Draw) 3.Kd8! Rb7 4.Ke8 Ra7 5.Kd8 Bb7 6.Sd7+ Ka8 7.Sb6+ Kb8 8.Sd7+ Draw

☆ 必然の初手に対して、1...Rh8 2.Sxc6+ Bxc6+ 3.Kxc6 は白勝ちなので、黒は 1...Rc7+ とします。

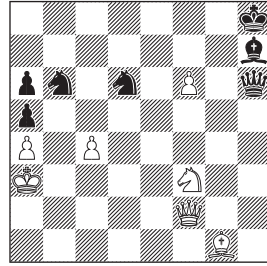
☆ 2.Kd8? Rxa7 はツークツワンクで黒勝ち。正解の 2.Ke8! に対して 2つのラインに分かれます。

☆ 2...Rxa7 3.Kd8 は先程の局面と手番が逆のツークツワンク。3...Rb7 4.Ke8 Ra7 5.Kd8 は同一局面の繰り返し。5...Bb7 と打開すれば S によるパーペチュアルチェックでドローです。

☆ 2...Kxa7 に対しては、3.Kd8 と R を取りに行きます。3...Rb7 4.Ke8 Rc7 5.Kd8 は同一局面、5...Kb6 と K で守る手は、6.Sxa4+ Kb5 7.Sc3+ Kb6 8.Sa4+ と進めて、これもドローです。

[○1△0×3]

E145 Andrzej Jasik
(Poland)



Draw (7+7)

1.f7! Sbxc4+ 2.Ka2! Sxf7 3.Qd4+ Qg7 4.Qxc4 Se5! 5.Sxe5 Bg8 6.Sf7+! Bxf7 7.Bd4!! Bxc4+ 8.Ka3! Qxd4 Draw

☆ 1.f7! に対して、1...Kg7 は 2.Ka2! Sbxc4 3.Se5! Bf5 4.Sxc4 Qe6 5.Qd4+ Kxf7 6.Kb3 Sxc4 7.Sxc4 でドローです。

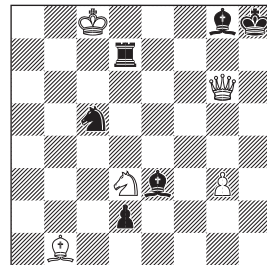
☆ 1.Sbxc4+ には 2.Ka2! (2.Kb3? Kg7 3.Se5 Qh3+) と遠ざかるのが正解で、2...Sxf7 (2...Kg7 3.Se5! Bf5 4.Sxc4 Sxc4 5.f8=Q+ Kxf8 6.Qxf5+) 3.Qd4+ Qg7 4.Qxc4 でようやく駒をひとつ減らします。

☆ 4...Qg2+ 5.Ka1 はドローなので、黒は 4...Se5! 5.Sxe5 Bg8 とクイーンを Skewer(串刺し)にします。

☆ 白は一見困っているようですが、6.Sf7+ と捨ててからの 7.Bd4!! がびつたりの手。7...Qxd4 8.Qxf7 の変化も、作意の 7...Bxc4+ 8.Ka3! Qxd4 のいずれもドローです。

[○0△0×4]

E146 Petr Kiryakov
Pavel Arestov
(Russia)



Win (5+6)

1.Se5! Rd8+! 2.Kxd8 d1=Q+ 3.Ke7 Bg5+!
 4.Qxg5 Qd8+! 5.Kxd8 Se6+ 6.Ke7 Sxg5
 7.Kf6 Sh7+ 8.Bxh7! Bxh7 (8...Kxh7 9.Sf7
 Win) 9.Sg6+ Kg8 10.g4 Win

☆ 初手 1.Sxc5? と取るのは d1=Q 2.Sxd7
 Qd4 でドローなので、1.Se5! とキングに迫
 るのが正解、1...d1=Q に対しては、2.Qf6+
 Rg7 3.Sg6+ Kh7 4.Qh4+ Bh6 5.Sf8+ Kh8
 6.Qxh6+ Bh7 7.Bxh7 で勝ちです。

☆ 黒は 1...Rd8+! 2.Kxd8 d1=Q+ とチェ
 ックで Q を作り、3.Ke7 Bg5+ 4.Qxg5 Qd8+!
 5.Kxd8 Se6+ 6.Ke7 Sxg5 と必死の抵抗で白
 Q を捕獲します。

☆ 7.Kf6 と 網 を 絞 る と、7...Bh7 8.Bxh7
 Sxh7+ 9.Kg6! Kg8 10.Sd7 Kh8 11.g4! Kg8
 12.Sf6+、7...Sf7 8.Sg6+! Kh7 9.Se7+ Kh8
 10.Ba2!、7...Sh3 8.Sg6+ Kh7 9.Sf4+ のい
 ずれのラインも白勝ち。

☆ 作意の 7...Sh7+ 8.Bxh7! に対する 2 種類
 の応手で、8...Bxh7 9.Sg6+ Kg8 10.g4 と
 8...Kxh7 9.Sf7 が、「白 S で黒の動きを封じ込
 めた形」が縦横の違いという Echo になってい
 ます。

[○ 0 △ 0 × 4]

<総評>

今月は 4 名から解答を頂きましたが、作意に落
 とし穴が多かったか、完全正解は少数に留まり
 ました。これに懲りず、また解答をお寄せくだ
 さい。

第 2 回 Home Solving Tournament (1)

12 月 5 日 (土) に、第 2 回の Home
 Solving Tournament (略称 HST) が行われま
 した。

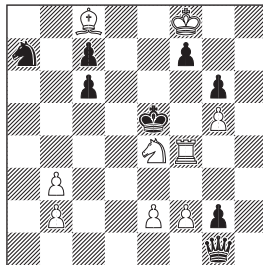
この催しは、コロナ流行後に世界大会をはじ
 めてとして解答競技のイベントをまったく持た
 なくなった、その穴を埋めるもので、レーティ
 ングには関係しませんが、与えられた問題の解

答を自己採点して本部に送るというシステム
 で、チーティングをしないのは各参加者の誠実
 さにまかされています。

ただし、この競技は一定のレーティングを
 持った者だけが参加できるという資格制なの
 で、ISC のように誰でも参加できるわけではあ
 りません。そこで、翌日の 12 月 6 日 (日) の
 午後に、Zoom ミーティングというかたちで、
 同じ問題を使って日本でも HSC をやってみま
 した。

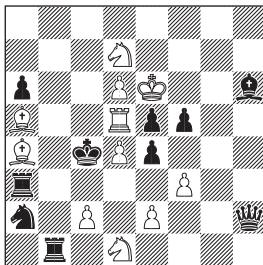
制限時間 2 時間で、出題数は 8 題。みなさん
 もお家の中で、のんびりと解いてみてください。

HST1



#3 (9+8)

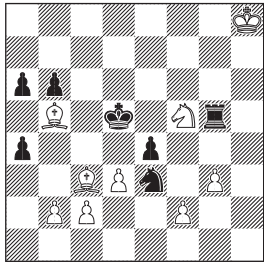
HST2



#4 (11+10)

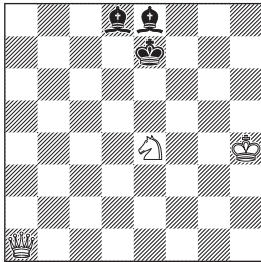
Continued on p.26

H1168 Abdelaziz Onkoud
C+ (Morocco)



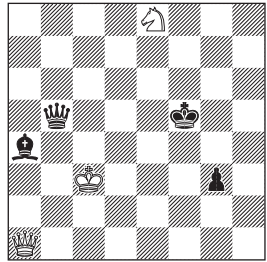
H#2 4sols (9+7)

H1198 Katsuhiro Fujiwara
C+ (藤原勝博)



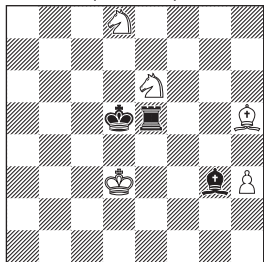
H#2 2sols (3+3)

H1199 Reinhardt Fiebig
C+ (Germany)



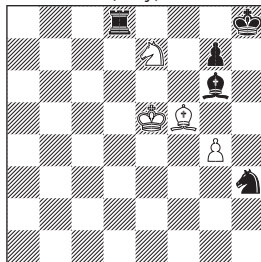
H#2 4sols (3+4)

H1200 Hiroaki Maeshima
C+ (前嶋啓彰)



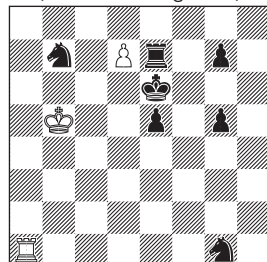
H#2 (5+3)
b) bKd5→h4

H1201 Vito Rallo
C+ (Italy)



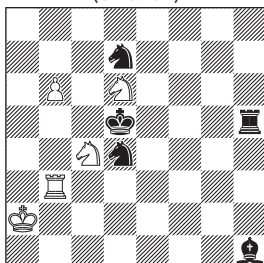
H#2 3sols (4+5)

H1202 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



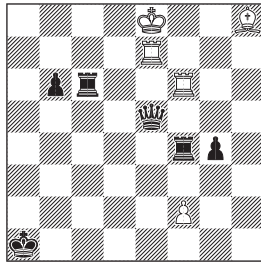
H#2 (3+7)
b/c/d) wRa1→a8/h8/h1

H1203 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



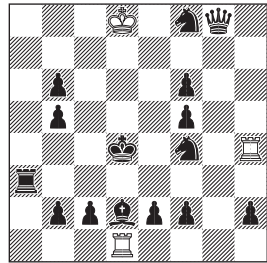
H#2 3sols (5+5)

H1204 Vito Rallo
C+ (Italy)



H#2 2sols (5+6)

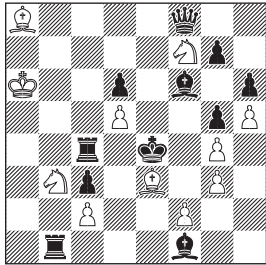
H1205 Jozef Lozek
C+ (Slovakia)



H#2 4sols (3+15)

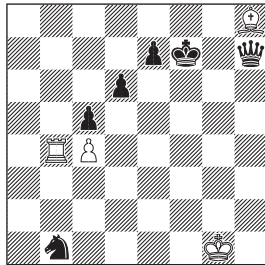
Christer Jonsson

H1206 Jorge Kapros
C+ (Sweden, Argentina)



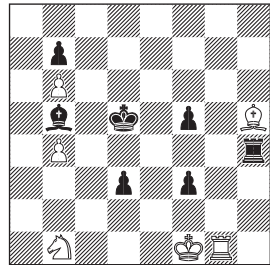
H#2 3sols (11+11)

H1207 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



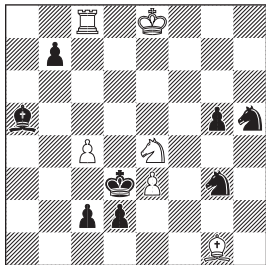
H#2.5 (4+6)
b) bKf7→a3

H1208 Toshimasa Fujiwara
C+ (藤原俊雅)



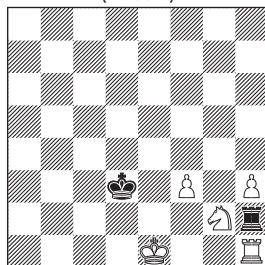
H#2.5 (6+7)
b) wSb1→c1

H1209 Abdelaziz Onkoud
C+ (Morocco)



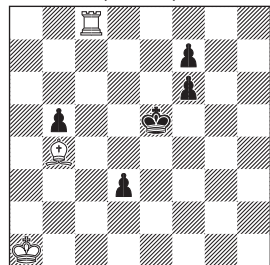
H#2.5 2sols (6+8)

Aleksandr Pankratjew
H1210 Aleksey Ivunin
C+ (Russia)



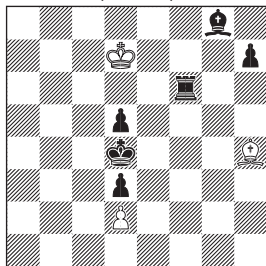
H#3* (5+2)

H1211 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



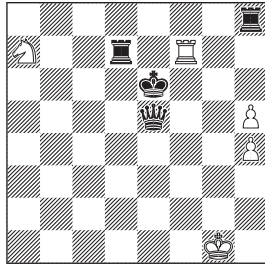
H#3 2sols (3+5)

H1212 Pierre Tritten
C+ (France)



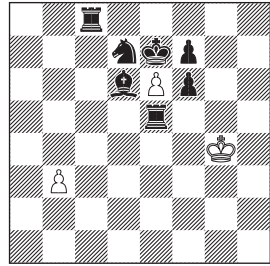
H#3 2sols (3+6)

H1213 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



H#3 3sols (5+4)

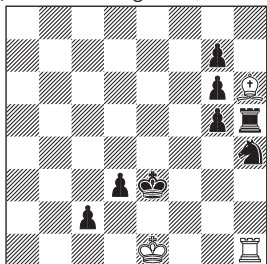
H1214 Ralf Krättschmer
C+ (Germany)



H#3* (3+7)

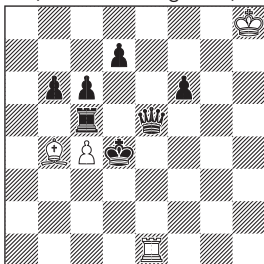
Fadil Abdurahmanovic

H1215 Gennady Chumakov
(Bosnia Hercegovina, Russia)



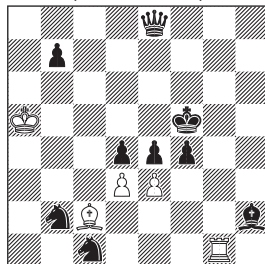
H#3*v (3+8)
C+

H1216 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



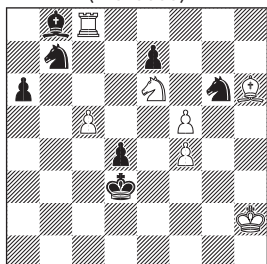
H#3 2sols (4+7)

H1217 Christopher J.A. Jones
C+ (Great Britain)



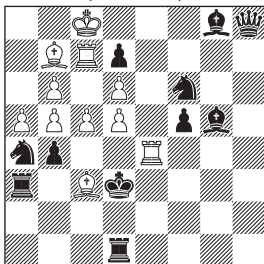
H#3 2sols (5+9)

H1218 Abdelaziz Onkoud
C+ (Morocco)



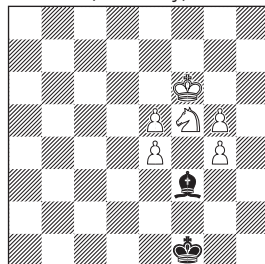
H#3 2sols (7+7)

H1219 Abdelaziz Onkoud
C+ (Morocco)



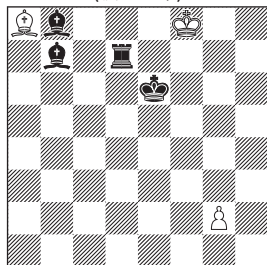
H#3 2sols (11+11)

H1220 Michael Schlosser
C+ (Germany)



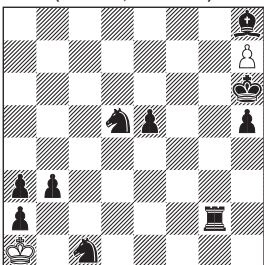
H#3.5 2sols (6+2)

H1221 Kazuo Watanabe
C+ (渡邊一雄)



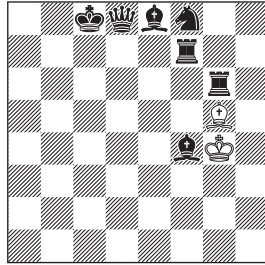
H#4 (3+4)

Alexander Pankratjew
H1222 Michael Gershinsky
C+ (Russia, Ukraine)



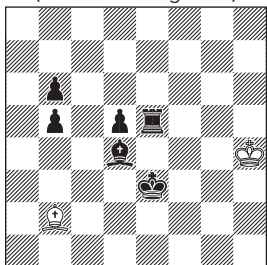
H#4 (2+10)

Aleksandr Pankratjew
H1223 Aleksey Ivunin
C+ (Russia)



H#5 (2+7)

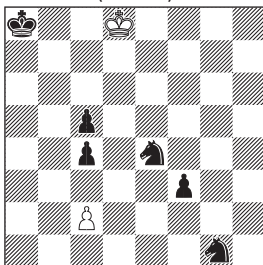
H1224 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#6

(2+6)

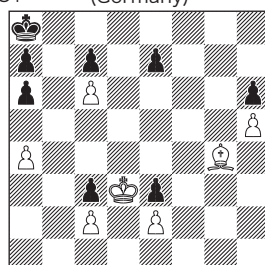
H1225 Stefan Milewski
C+ (Poland)



H#6 2sols

(2+6)

H1226 Mirko Degenkolbe
C+ Rolf Wiehagen
(Germany)



H#6v

ZeroPosition

a) wBg4→h3

b) +bPe6

(7+8)

Helpmate

Helpmate Editor

Masato Yoshii [吉井雅人]

Judge 2020

Zivko Janevski (North Macedonia)

○今号は新作大量 29 作の掲載です。初投稿を頂いたり、渡邊さんの復帰投稿もあり、嬉しい限りです。H1168 は図面を誤って出題してしまいましたので再出題になります。

注意点をいくつか。H1210、H1214 は SetPlay、また、H1215 は Setplay に加えて Try がありますのでご注意ください。H1226 は ZeroPosition です。出題図は解無し、a) と b) の条件で解いてください。作者によれば Try も意識しているということですので、余裕がある方は考えてみてください。

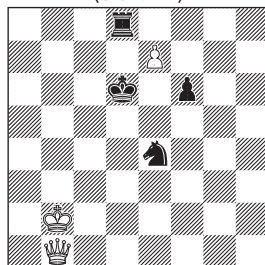
●は藤原俊雅さんの解説、○は吉井のコメントです。

●今回も補佐を務めています。よろしくお願います。

This issue has 29 compositions. I published H1168 in issue 90 with wrong position, so I published H1168 again with correct position. I apologize to the author, Abdelaziz Onkoud. TF means the comment of Toshimasa Fujiwara. MY means the comment of Masato Yoshii.

Issue 90 (H1160-1185)

H1160 Jozef Lozek
C+ (Slovakia)



H#2 2sols

(3+4)

1.Sc5 Qe4 2.Rd7 e8=S#

1.Ke6 e8=B 2.Rd6 Qxe4#

星野：黒 R の退路封鎖が小気味よく、素晴らしい。

神在：①桂の感覚が根強いからか、どうもSは苦手②あえて下位駒に成ることに、意味は異なるが不利先打が思い浮かぶ。

九尾：Sを取ったり取らなかつたり。

及川：2つとも最終手になって詰ますと思っていました。

則内：Contrast between Capturing and Umnov.

太刀岡：順番の限定方法が微妙に違うのが面白い。

黒川：簡単そうだが意外と見えにくかった。クイーンはe4が急所か。

渡邊：見慣れない組み合わせ。きれいです。

小林：オープニングとして申し分ない。2ヶのアンダー成。

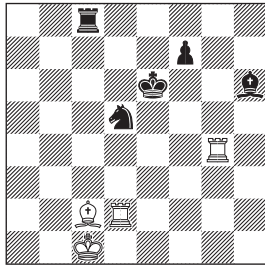
● Qe4がダブるのは残念。

○成り分けとアンダープロモーション

T F : A simple example of underpromotion.

MY : Underpromotions to S and B in the light setting.

H1161 Toshimasa Fujiwara
C+ (藤原俊雅)



H#2 (4+5)

b) bPf7→e5

a) 1.Sc7 Bg6 2.f6 Re4#

b) 1.Se3 Rd7 2.Kf6 Rg6#

神在：さて、まずはどちらを解除しようか。

九尾：aのほうが難しかったです。

及川：Pの位置の変化により、初手とg6へ

移動する駒が変化。a)の手順の方が好きです。

則内：a)1.Sc3とb)1.Sf4のtryが隠し味。

太刀岡：Sの遮断先が2ヶ所ある中でどちらも限定されるのが面白い。

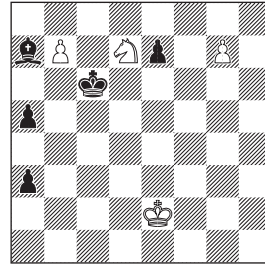
黒川：シンプルな対比。

●自作。狙いのtryに気づいてくださった方もいらっしやいました。

○アンピンと役割変換。コントラストも良いと思います。

MY : Unpin and exchange functions. Solutions have good contrast.

H1162 Kankuh Kobayashi
C+ (小林看空)



H#2 4sols (4+5)

1.Kb5 g8=Q 2.Ka4 Qc4 #

1.Kxb7 g8=B 2.Ka8 Bd5 #

1.Kd5 b8=Q 2.Ke4 Qe5 #

1.Kxd7 b8=S+ 2.Ke8 g8=Q #

神在：素晴らしい！K斜め四方連続移動の様式美。B成りはうっかりK成りの王手放置をしそう。

九尾：きれいな花火。

及川：2つとも成る手順(初手Kxd7)が好きです。

則内：Grand Star-flightと申しましょうか。

太刀岡：少ない駒数で4つの軌跡を表現。とても楽しい。

黒川：斜め4方向はきれいだが、Ka6も行ってみたくなる？

渡邊：スターフライトの拡大。用語はありましたか？

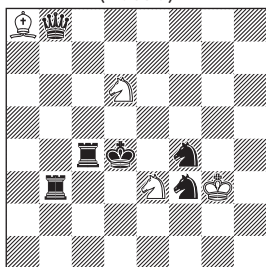
● 2 倍のスターフライトで、視覚的に楽しめる作品。

作者：テーマは御覧の通り、キングの大エックスです。成もルーク成があれば良かったのですが、このテーマでは難しいかな、とあきらめました。

○ 作者コメントにもありますが、簡素な初形から K の軌跡が斜め四方へ、さらに 3/4 AUW を実現しています。見事な作品だと思います。拍手。

MY : Moves of K is orbit of "X" and 3/4 AUW from very economical setting. Very attractive work!

H1163 Aleksandr Pankratjew C+ (Russia)



H#2 (4+6)
b) wSd6→c7

- a) 1.Se5 Se4 2.Sfd3 Sf5#
b) 1.Sd3 Sd1 2.Sfe5 Se6#

星野：ごちゃごちゃして良く分らないが、ピン外しがテーマか。

九尾：まさか両方ともすべて S の着手とは！
及川：S が躍動する、ピン・アンピンの綺麗なツイン。

則内：Dance performances by dizzy Knights.

太刀岡：全着手 S に統一、遮断の順番が対比されていて良い。

黒川：ナイトの利きで混乱する。

渡邊：ピン外し。黒の手が逆になる。

小林：ナイトづくし。

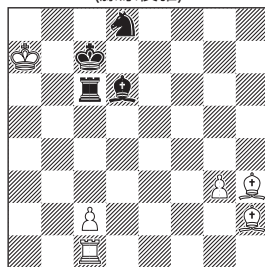
● 黒の手は残念な気もしますが、まずまず好評でした。

○ アンピンと黒の手順が逆というのが主張だと思います。

TF : Unpin by bS is nice.

MY : Unpin and exchange of white moves.

H1164 Toshimasa Fujiwara C+ (藤原俊雅)



H#2 2sols (6+4)

- 1.Rxc2 Bg1 2.Rc6 Bb6#
1.Bxg3 Re1 2.Bd6 Re7#

神在：幼少時の吹き戻し（びろびろ笛？）を思い出す、R・B 対比のスイッチバックによるピン生成。

九尾：うまい対比。

及川：スイッチバックの 2 手順。どちらもピンメイトになる所もいいですね。センスが光る好編。

則内：Yo-Yo-Toy を思い出させる switch-back.

太刀岡：綺麗なスイッチバック。対比も上手い。

黒川：いかにもポーンを取りそうな感じがそのまま実現されるのが良い。

渡邊：前回と今回の 2 作、すでに作者は正しい H# のあり方と考え方を備えておられ

ます。より多く考えて、このまま定着してください。

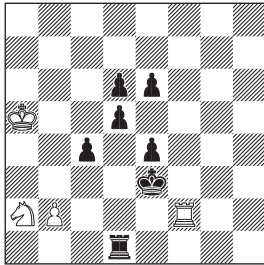
小林：素直な作。

●これも自作。Pelle moveによるSwitch backとPinmateの組み合わせです。

○BとRのスイッチバック。ひとつ解ければもうひとつも自動的に解けるほどコントラストも良いです。

MY：Switchback of bB and bR and ODT. Solutions have good contrast.

H1165 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



H#2 2sols (4+7)
b) bPc4→d4

- a)
1.Rd4 Re2+ 2.Kd3 Sc1#
1.Kd4 Sb4 2.Ke5 Sc6#
- b)
1.Kd3 Sc1+ 2.Kc4 Rc2#
1.d3 Sc3 2.d4 Sxd1#

九尾：考えやすい組み合わせ。

及川：黒1手目が同地点着手のツイン。4手順とも詰み形が見えやすかったです。

小林：最初に解けた。これは楽しい作。

●2solsのtwinなので合計4解というところに注意。

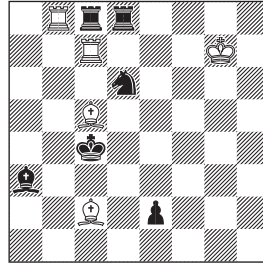
○強豪解答者の未解がありました。出題時もコメントしていましたが4解です。Echoのような雰囲気はあります。

TF：Some solvers didn't realize there

were four solutions.

MY：2 x 2. Combination of R and S.

Alexander Pankratjev
H1166 Ivan Antipin
C+ (Russia)



H#2 (5+6)
b) wBc2→h7

- a) 1.Sb5 Bd4+ 2.Kb4 Bc3#
b) 1.Se4 Be3+ 2.Kd3 Rb3#

九尾：Pが怪しい配置だとは思っていましたが、それでもbは悩みました。

及川：黒Kがピンメイトになる地点に移動するのは盲点でした。面白かった！

則内：Knight makes ways for his King to perish.

太刀岡：非常に難しかった。見事なピンメイト。

黒川：a)に苦労した。ツインなのでb)と同じく黒ナイトをピンする形を無理矢理探したらなんとか解けた。

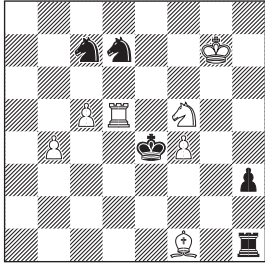
●ヘルプらしい佳作。

○ピンメイト。コントラストも良いと思います。

TF：Anticipatory self-pin by bS and pinmate are elegant.

MY：Enjoyable pin mates. Solutions have nice contrast.

H1167 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



H#2 3sols (7+5)

1.Rxf1 Kg6 2.Rf3 Rd4#
1.h2 Rd4+ 2.Kxf5 Bh3#
1.Kxd5 Ba6 2.Kc6 Se7#

星野：止めの駒が、代わりばんこに消えてゆくのが楽しい。

九尾：Ph2 は味の良い一手。

及川：最遠移動の Ba6 が気持ちのいい一手。
則内：Cycle Zilahi (and funny 1.h2) heals me well.

黒川：h2 は意表を突かれた。

渡邊：うまくまとめるものです。いつも感心します。

●いつもの cyclic Zilahi. wR が取られる解のための駒が多い印象。

○ Jonsson さんらしい Cyclic Zilahi です。
TF : Cyclic Zilahi and model mate.
Typical but nice work.

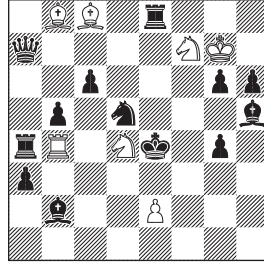
MY : Enjoyable Cyclic Zilahi by our regular contributor.

H1168 Abdelaziz Onkoud

○出題図に誤りがありました。解いていただいた方には申し訳ありません。92号で再出題します。

[A wrong diagram. Many apologies to the solvers and the composer.]

Fadil Abdurahmanovic
H1169C+ Marko Klasinc
(Bosnia Hercegovina, Slovenia)



H#2 2sols (7+13)

1.Bc1 Se6+ 2.Kf5 e4#
1.Qa5 Sd6+ 2.Ke5 Sxc6#

星野：二つのピンをどうやって外すかだが、自分から外すのは珍しい。

九尾：複雑そうに見えましたが、ピンを外すことを考えて解決。

及川：白 S で白 B の利きを塞ぐ 2 手順。盤面はごちゃついています、なかなか良い手順だと思います。

則内：Blurry first, and totally nervous moves.

太刀岡：消極的な Q の移動先が限定されるのが面白い。

小林：wK をピンしている駒がまず動く。

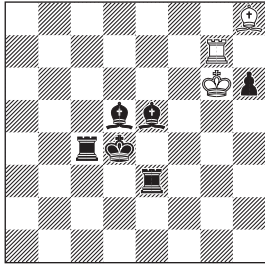
●初手の移動先が限定されるのが狙い。Bc1 にもう少し意外性があれば良いのですが。

○アンピンと Hideaway で、それぞれの手が次の手を可能にするドミノ的な効果もあり楽しい作品です。

TF : I want white to move only S.

MY : Black hideaway with unpinning, and white interference of white line for arrival of bK. Domino effect: Each single half-move enables the next one. Very enjoyable collaboration by prominent composers.

H1170 Oikawa Hironori
C+ (及川弘典)



H#2.5 2sols (3+6)

1...Kf5 2.Bf4 Kxf4 3.Rd3 Rc7#
1...Kxh6 2.Bd6 Kg5 3.Ke5 Re7#

星野：Bd6 ~ Ke5 とバックするのは意外性あり。

九尾：2 解目は R を縦に動かすだろうと思って苦勞。

則内：両王手は読みやすく、別解は見つけにくい。

黒川：h6 のポーンが地味ながら手順の限定に大きく役に立っている。

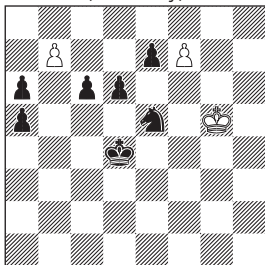
小林：両王手と思い込んでいた。

●非常に詰将棋的な作品。

○開き王手と両王手を目指す細かい駒繰りのバズルが楽しい作品だと思います。

MY : Discovered mate or double check mate.

H1171 Udo Degener
C+ (Germany)



H#2.5 2sols (3+7)

1...f8=S 2.Kc5 Se6+ 3.Kb6 b8=Q#
1...b8=Q 2.Kd5 Qg8 3.Ke6 f8=S#

星野：打ち上げ花火。どちらを先に打ち上げてもきれいに詰む。

九尾：初手と最終手の対比が見事。

及川：初手と最終手の入れ替え。これは上手いですね！

則内：I' m touched by Qg8 to make a battery.

太刀岡：2 解とも同じ駒に成るといのが面白い。攻め駒が 2 枚しかないので考えやすい。

黒川：どちらのルートも同じプロモーションになるのが面白い。

小林：2 解目は両王手として有名な形。

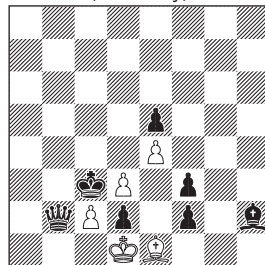
●時間差の同種成。珍しい狙いで高評価。

○ QS、SQ のプロモーションの順番を変えることにより全く別のメイトになります。明確なテーマの楽しい趣向作。

TF : Same promotion at different times. It's a fine idea.

MY : QS, SQ promotions and exchange of moves(w1,w3). Very enjoyable and clear theme.

H1172 Udo Degener
C+ (Germany)



H#2.5 2sols (5+7)

1...Bxf2 2.Bg1 Be1 3.Bd4 Bxd2#
1...Bxd2+ 2.Kd4 Be1 3.Qc3 Bxf2#

星野：一つの舞台で左右両方をきれいに実現。

九尾：うまく B が戻るもの。

及川：本作も初手と最終手の入れ替え。白 B の動きに味。

則内：Small steps of pendulum are lovely.

太刀岡：どちらを取るのかと思ったら、両方とも取ってしまう。

黒川：パスしたい初形だがあえて初手にチェックするのが面白い。

渡邊：<前題と合わせて>うまいですね。好きですドイツ製。

小林：楽しい作。H1161 に似ている。

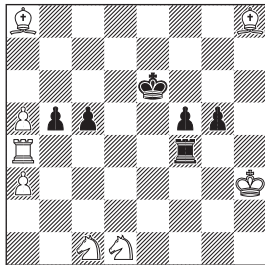
●及川さんの仰る通りの、前作と統一された狙い。

○もう一つ同じ作者達によるコラボレーション。こちらも初手と最終手の入れ替えです。うまく作られているものです。

TF : Many solvers praised this original.

MY : Another exchange of moves(w1,w3) by same authors of H1171 with Switchback of B. Well constructed and very enjoyable.

H1173 Christer Jonsson C+ (Sweden)



H#2.5 2sols (8+6)

1...Bd5+ 2.Kxd5 Rc4 3.Kxc4 Se3#

1...Be5 2.Kxe5 Rxf4 3.Kxf4 Sd3#

星野：大した事ではないが、白 R は b4 の方が良い？

九尾：左右で似た手順。面白いような、そうでもないような。

及川：スマートな手順。

則内：Dynamic sacrifices surprised me much.

黒川：配置だけで作意が見える。客寄せ級か。

小林：どんどん捨てる。解が対称で助かった。

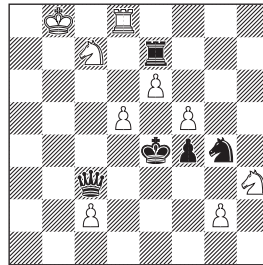
●狙いが見え見えで、この作者としてはあんまり。

○Jonsson さんには珍しくシメトリックな手順です。

TF : White pieces guide bK.

MY : Symmetric sacrifices with Kniest.

H1174 Abdelaziz Onkoud C+ (Morocco)



H#2.5 2sols (9+5)

1...Rf8 2.Qe5 c3 3.Se3 Sf2#

1...Sb5 2.Se5 g4 3.Qe3 Sg5#

九尾：Rf8 の解は悩みました。

及川：なるほど、詰上り時の黒 Q と黒 S の位置交換ですか。

則内：Cut off escape routes and grill on e4.

小林：e5 を埋める。

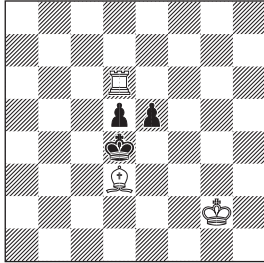
●bQ、bS の位置変換だけでなく、全体に綺麗な対照性があります。

○役割変換と位置変換。難解な作だと思いません。

TF : bQ and bS exchange places in the final position. Good contrast.

MY : Exchange of functions and the place exchange in the final positions.

H1175 Eligiusz Zimmer
C+ (Poland)



H#3 2sols (3+3)

1.Ke3 Kh3 2.Kf2 Rf6+ 3.Kg1 Rf1#
1.Kc5 Kf3 2.d4 Rc6+ 3.Kd5 Be4#

星野 : 意外と詰みが見えにくい。

九尾 : Kh3 は盲点。

及川 : 初手 Kc5 の手順が面白かったです。

則内 : Black moves have humorous taste.

太刀岡 : 少ない駒をいっぱい使うのが良い。

黒川 : どちらが狙いの手順かはよくわからないが、g1 で詰ますのはすごい。

内田 : Kc5 は詰む気がしない。

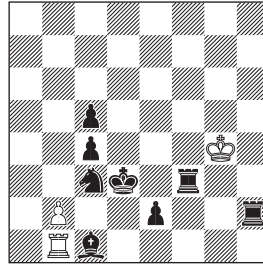
●この簡素形で成立しているのが価値。

○簡素な初形から全く異なる 2 解。コントラストはないのですが、それぞれ面白いメイトだと思えます。

TF : Model mate and ideal mate in only six pieces.

MY : Two different interesting mates from very economical setting.

H1176 Rainer Kuhn
C+ (Germany)



H#3 2sols (3+8)

1.e1=S Rxc1 2.Sc2 Kxf3 3.Se2 Rd1#
1.Bxb2 Rxb2 2.Rf4+ Kxf4 3.Kd4 Rd2#

九尾 : R だけで詰めるのは考えやすいですね。
及川 : 取られる黒駒 2 枚 (B・R) の動・不動の対比が面白い。

則内 : I favor Sc2&Se2 like a beautiful gate.

太刀岡 : 駒取りの順番を揃えてあるのが良い。

小林 : 1 解目はすぐ出てくるが 2 解目はアンダー成と思込む ...

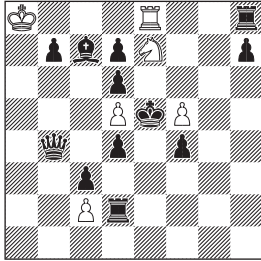
●駒取りを挟みつつエコー的な詰り。

○能動的にピースを取らせるか、そのままピースを取らせるかという TT による作品とのことです。詰め上がり図の Echo が私は気に入っています。

TF : The final positions of bK,wK and wR are contrasting in two solutions.

MY : Two active sacrifices in one solution and two passive sacrifices in another solution. I like the echo of the final positions.

H1177 Christopher J.A. Jones
C+ (Great Britain)



H#3 2sols (6+12)

1.Qb3 cxb3 2.Ke4 Sc6+ 3.Kd3 Sb4#
1.d3 cxd3 2.Qe4 dxe4 3.Rd4 Sg8#

星野：Kd3 に対する S の足の長さに驚く。
及川：Sg8 の詰上りはすぐに見えましたが、
Sb4 の方に苦戦しました。
小林：wP の左右から駒捨て。wS が動くの
は明白だが...

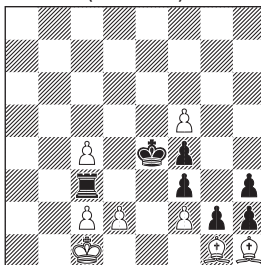
●黒の Q 捨て、R 捨てはありますが、全体
としての狙いはよくわかりません。

○ Jones さん特有の駒取り。強引に取らせて
メイト形を作ります。

TF：Active sacrifices are impressive.

MY：Typical takes by pawns by our
regular contributor. Active sacrifices are
comfortable.

H1178 Abdelaziz Onkoud
C+ (Morocco)



H#3.5 2sols (8+7)

1...Kd1 2.gxh1=S Ke1 3.Sxf2 d3+ 4.Ke3

Bxf2#

1...Bxg2 2.hxg1=Q+ Bf1 3.Qg7 dxc3
4.Qe5 Bd3#

星野：e5 がなかなか埋まらないと思ってい
たら、Q になる手があった。Q 成は抵抗感がある。

及川：双方の K の動・不動の対比 & 白 B2
枚の役割交換。上手いですね。

則 内：Nice performance by Q behind
Zilahi.

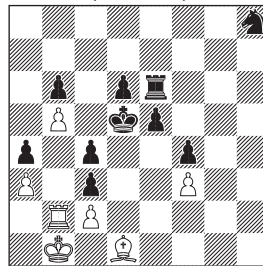
● Promotion と Zilahi で綺麗に仕上がって
います。

○ Zilahi と成り分けが面白いと思います。
成った駒を取らせる手順は個人的に好きで
す。

TF：Promotion and Zilahi in economical
setting is beautiful.

MY：Zilahi and SQ promotions. A
sacrifice of promoted piece.

H1179 Abdelaziz Onkoud
C+ (Morocco)



H#4 3sols (7+10)

1.e4 Be2 2.Re5 Bxc4+ 3.Kxc4 fxe4 4.Rc5
Rb4#

1.Kc5 Rb3 2.cxb3 cxb3 3.Kxb5 Be2+
4.Ka5 b4#

1.cxb2 Ka2 2.b1=R c3 3.Rxb5 Bc2 4.Rc5
Be4#

星野：当然ながら、h8S は良いのか？

及川：3種で詰ますのは予想通りでしたが、難しかったです。

則内：Well-made solutions with sacrifices.

小林：bSh8？余詰め消しかな

●手もダブルらず、破綻なく出ています。

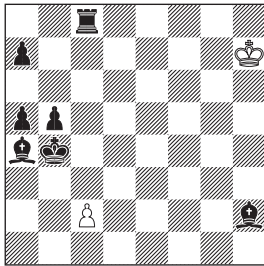
○3種の異なるメイト。一応 Zilahi です。

bSh8は余詰め消しですがかわいそうですね。

TF：All three solutions fit together nicely.

MY：3 different mates with Zilahi.

H1180 Stefan Milewski
C+ (Poland)



H#5 2sols (2+7)

1.Rc3 Kg6 2.Ra3 Kf5 3.Bb3 Ke4 4.a4 Kd4 5.a5 c3 #

1.Kc5 c4 2.Kc6 c5 3.Bd6 cxd6 4.Kb7 d7 5.Ka8 dxc8=Q #

星野：1解目のRとPを、2解目にうまく利用出来ている。

九尾：Pだけを動かす解に苦しみました。

及川：2手順とも成駒で仕留めると思っていたので、白Kを近づける順は盲点でした。

則内：h2B is a property-man in both solutions.

太刀岡：キングを使わなくても届いてしまうのは驚き。

黒川：一つは容易にわかるが、a8で詰むのが見えにくい。

小林：これは楽しい作。解かなければ損!!

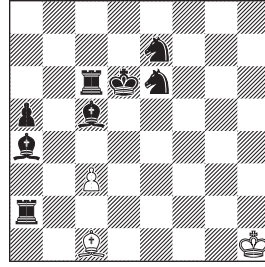
●双方のKの大移動と不動。

○H#5でこの2解が良くできたなという感じ。巣ごもりを作ってPでメイトとひたすらPのみで追うメイト。後者は Excelsior です。

TF：wK moves many times and bK doesn't move in one solution, exact opposite in another solution.

MY：Two different interesting mates with H#5. Very enjoyable puzzle.

Fadil Abdurahmanovic
H1181C+ Marko Klasinc
(Bosnia Hercegovina, Slovenia)



H#5 (3+8)

1.Be3 Bb2 2.Rxc3 Kg2 3.Bd7 Kf3 4.Rc6 Ke4 5.Bc5 Be5 #

星野：c3Pを行きがけの駄賃で消すのは面白い!

九尾：最終形は見えているので解きやすい作。及川：黒初手の限定移動と、黒2種(R・B)のスイッチバックを織り込んだ面白い方に感心。

則内：Switch-backs act the garage door for d7B.

小林：wKが斜めに行進してゆくハズ、初手Bc2をだいが読んだ。

●Klasinc themeのためのKlasinc themeという構成で、移動先の限定や手順前後の利かない構成に見るべきところがあります。

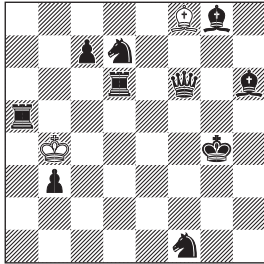
○KrasincとbR bBがSwitchbackで仕舞われていく感触が限定移動で素晴らしい作品

だと思えます。

TF : The structure of "Klasinc theme for Klasinc theme" is good.

MY : Combination of two Klasinc themes on c6 and c5 with Switchback of both thematic pieces. Well constructed collaboration by prominent composers.

H1182 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#6 (2+10)

1.Rf5 Bg7 2.Bd5 Bh8(tempo) 3.Qe6 Ba1(tempo) 4.Kf4 Kc3 5.Ke5 Bb2 6.Bf4 Kd3#

星野 : Bxh6 ~ Bc1 を先に考えたので、h6B の存在を忘れて、Bf4 の穴塞ぎになかなか気が付かなかった。

及川 : 気持ちのいい 3 手目の大移動。

則内 : Excellent moves of white B waste Tempo.

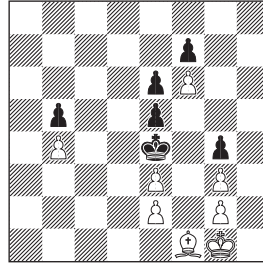
●黒の手を待つ wB のテンポムーブが 2 回。わかりやすく面白いですね。

○ Tempo 2 回に B の最遠移動と Indian、最後はロイヤルバッテリー。これは傑作だと思います。

TF : Continuous tempo moves by wB are very interesting.

MY : Two tempo, corner to corner move Bishop, Indian and Royal battery mate with Meredith. This is another masterpiece by a prominent composer!

H1183 Mirko Degenkolbe
C+ (Germany)



H#6.5 2sols (8+6)

1...Kf2 2.Kf5 Ke1 3.Kxf6 Kd2 4.Kf5 e4+ 5.Kxe4 e3 6.f6 Bxb5 7.f5 Bc6#
1...Kh2 2.Kf5 e4+ 3.Kxf6 e3 4.Kg5 Bxb5 5.f5 Be8 6.f4 gxf4+ 7.Kh4 g3#

星野 : 異なる展開の 2 解は楽しめた。ところで、b 筋の P は、b6b7 では駄目かか？

駒井 : Kh4 の解に苦労。

則内 : Locations of white K are clues for mate.

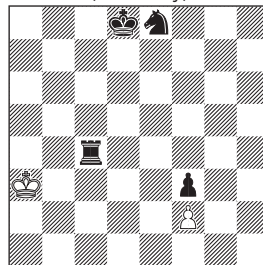
●毛色の違う 2 手順で、1 作としての評価に困る作品。

○いかにも長手数初形のようですが、異なったルートの 2 解です。

TF : It is a pity that 2.Kf5 and 3.Kxf6 are repeated.

MY : Two different interesting mates with H#6.5.

H1184 Udo Degener
C+ (Germany)



H#8 (2+4)

1.Rc8 Kb4 2.Sc7 Kc5 3.Sd5+ Kd6 4.Se3
fxe3 5.f2 e4 6.f1=B e5 7.Bb5 e6 8.Be8
e7#

星野：とても届きそうになさそうな、K&p
が間に合うのは凄いです。

九尾：Rを捨てる順しかないと思ひ込みまし
た。解けて快哉。

及川：ブロック駒がSからBに。なるほど。

則内：How to exchange S for promoted
B on e8.

太刀岡：成りを目指すすとギリギリ足りない。

謎解きが楽しめる。

黒川：ロジカルな手順。

小林:bRをe3/g3に捨て苦戦、となると...bS
を捨てるしかない。その前にwKの行進。

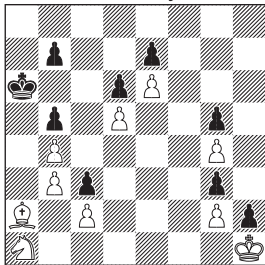
●bRを捨てれば promotion させることも
可能ですが、wKが活用できないので詰みま
せん。

○ぎりぎりピッタリ間に合うパズル。ブロッ
クしているピースがSからBになるところ
も面白いです。Ideal mate.

TF : bB comes where bS was. Solvers
said "this original is interesting."

MY : Blocking piece replacement and
Ideal mate. Very enjoyable puzzle.

H#1185 Mirko Degenkolbe
C+ (Germany)



H#17

(10+9)

1.Kb6 Bb1 2.Kc7 Ba2 3.Kd8 Bb1 4.Ke8
Ba2 5.Kf8 Bb1 6.Kg7 Ba2 7.Kf6 Bb1

8.Ke5 Ba2 9.Kxd5 Bb1 10.Kxe6 Ba2
11.d5 Bb1 12.d4 Ba2 13.d3 Bb1 14.dxc2
Sxc2 15.Ke5 Se3 16.Kf4 Bf5 17.e5 Sd5#

星野：c5で詰ますと見せかけて、f4は意外
だった。

駒井：Kxd5の後パタリと手が止まる。

則内：Wait time till 13, and S&B burst
after 14.

黒川：長い手順はほぼ一本道。

小林：H#の最長記録はH#28、成駒有なら
H#48。

●まずは浮いているPを探します。それを
取ってしまえば、あとは収束探し。

○プロパラHコーナでは私が知る限りでは
最長手数かもしれません。捌けたあとは一気
です。

TF : Long warming-up exercise by wS.

MY : Maybe the longest helpmate in
Problem Paradise at least while the
editor is me.

○総評など

九尾：今回はかなり時間をかけて取り組みま
した。長い手数のは、もう少し訓練が必要
なようです。

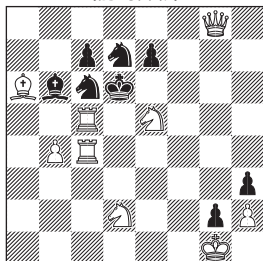
○今回は問題数が多くハードだったと思いま
すが、すべての問題に取り組んでいただき
ありがとうございました。

及川：全解とはいきませんでしたが、たいへ
ん勉強になりました。創作の方に活かされば
いいのですが……。

●私も help の創作は初心者ですが、詰将棋
創作の経験が相当活かせるように感じていま
す。

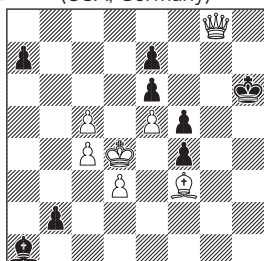
○次回も解答と短評をどうぞよろしく願ひ
します。

S259 Hiroaki Maeshima
C+ (前嶋啓彰)



S#6 (9+8)

S260 Steven B. Dowd
C+ Mirko Degenkolbe
(USA, Germany)



S#12 (7+8)

Selfmate

Selfmate Editor

Kohey Yamada (山田康平)

Judge 2018-2020

Diyan Kostadinov (Bulgaria)

☆今回も2作。

THIS SECTION NEEDS YOUR ORIGINALS!

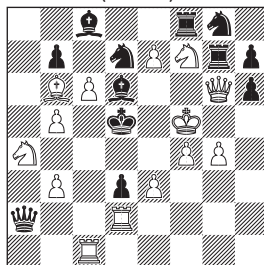
☆長手数ですのでヒント多めで。

☆ S259 は詰将棋感覚で解けます。途中から2つに分岐しますので、両方の順を解答願います。

☆ S260 は実は客寄せ級の易しさ。こちらのほうは途中の分岐は単なる非限定です。

Issue 90 (S254-256)

S254 Alexander Pankratjew
C+ (Russia)



S#3 (14+12)

1.Ba7! (2.Sb6+(A) Sxb6+ 3.Qe6+(B) Bxe6#)
1...Sc5+ 2.Qe6+(B) Sxe6 3.Rxd3+(C) Sd4#
1...Qc2 2.Rxd3+(C) Qxd3+ 3.e4+(D) Qxe4#
1...Sgf6 2.e4+(D) Sxe4 3.Qxd6+(E) Sxd6#
1...B~ 2.Qd6+(E) Bd6 3.Sb6+(A) Sxb6#

黒川：Sgf6が見えなくて苦労した。これはうまくできている。

☆白Kを睨んでいるBc8が不自由なので、これを利用すべく、1.Bc5?として、作意と同じ、2.Sb6+ Sxb6+ 3.Qe6+ Bxe6#を狙うTryがあり、1...Qc2/B~/Sxc5+は上記

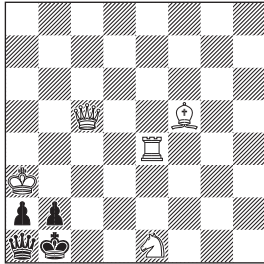
と同じように詰みます。

しかし、1...Sgf6! で失敗。

1.Ba7! なら d6 に効かないので、2.e4+ ~ 3.Qxd6+ で解決します。

☆スレットを含めた5パターンの手順で、白の2・3目目が循環する「Cyclone」のテーマでした。

S255 Mirko Degenkolbe
C+ (Germany)



S#5 (5+4)

b)Bf5→d5

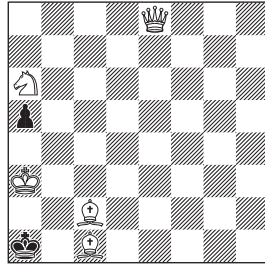
- a)1.Qf2 Kc1 2.Rc4+ Kd1 3.Bc2+ Kc1
4.Ba4+ Kb1 5.Qxb2+ Qxb2#
b)1.Bc4 Kc1 2.Bb3+ Kb1/Kd2 3.Qb4 Kc1
4.Rc4+ Kb1 5.Bxa2+ Qxa2#

星野：一番単純な Qf2 で詰んでしまっは、身も蓋もない。

太刀岡：手が狭く、パズルのようにすっきり解けて楽しい。

☆手数は長いですが、黒 Qa1 を使って詰める筋が2通り見えるので、a)、b)のそれぞれで、その2通りの筋のいずれかを狙う、ということが推定されるため、それほど難しくはありません。簡素形で無理・無駄なくまとまっています。

S256 Torsten LinB
C+ (Germany)



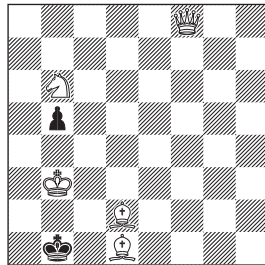
S#8 (5+2)

- b) a1=b1
c) a1=c1

- (a)1.Ba4 Kb1 2.Qe1 Ka1 3.Sc5 Kb1 4.Sb3 Kc2
5.Ka2 Kd3 6.Bb5+ Kc2 7.Ba3 a4 8.Qa1 axb3#

(b)はこの図です。

b)

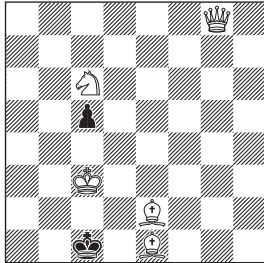


S#8 (5+2)

- 1.Qb4 Ka1 2.Kc2 Ka2 3.Kc1 Ka1 4.Bc2 Ka2
5.Qa3+ Kxa3 6.Kb1 b4 7.Ka1 b3 8.Bb1 b2#

(c)はこの図です。

c)



S#8 (5+2)

1.Bd2+ Kb1 2.Qg1+ Ka2 3.Kc2 Ka3
4.Qb1 Ka4 5.Qb2 c4 6.Kb1 c3 7.Qa1+
Kb3 8.Bc1 c2#

黒の手順前後が成立し、

1.Bd2+ Kb1 2.Qg1+ Ka2 3.Kc2 Ka3
4.Qb1 c4 5.Qb2+ Ka4 6.Kb1 c3 7.Qa1+
Kb3 8.Bc1 c2#

あるいは

1.Bd2+ Kb1 2.Qg1+ Ka2 3.Kc2 c4
4.Qb1+ Ka3 5.Qb2+ Ka4 6.Kb1 c3
7.Qa1+ Kb3 8.Bc1 c2#

いずれも正解となります。

☆残念ながら解答者ゼロ。初形で白Kが到底詰む位置にいないので、最終形が見えず難しいと思います。

☆ a)は黒Kをd3まで追い出すということが心理的に嫌な順。これがおそらく創作の出発点だと思います。

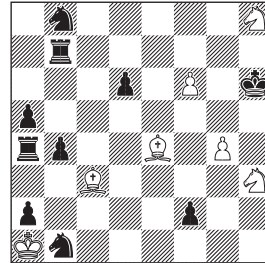
b)は中盤でQを捨ててしまおうし、c)は最後の3手になってもけっこう悩ましい。

c)の手順前後が惜しいところで、これがなければ、相当な発見だと思います。

第2回 Home Solving Tournament (2)

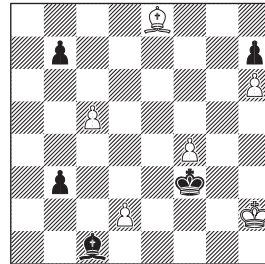
Continued from p.8

HST3



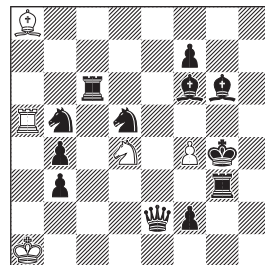
#8 (7+10)

HST4



Draw (6+5)

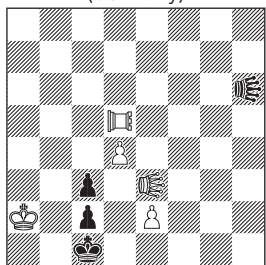
HST5



H#3 2 sols (5+12)

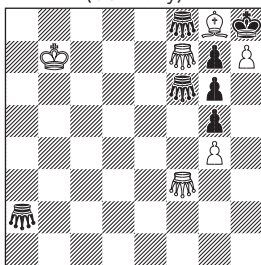
Continued on p.36

F1128 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



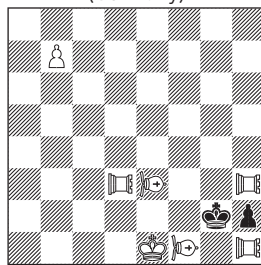
#4 (5+4)
Leo e3 h6, Pao d5

F1129 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



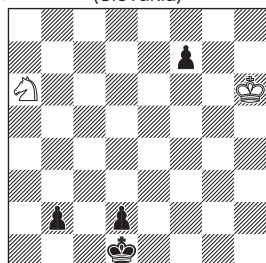
#6 (6+7)
Grasshoppers 2+3

F1130 Stephan Dietrich
C+ (Germany)



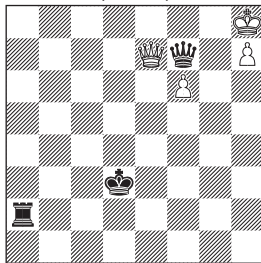
R#5 (7+2)
Pao 3+0, Vao 2+0

F1131 Ľuboš Kekely
C+ (Slovakia)



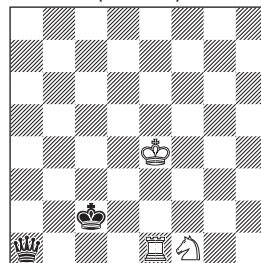
H#2 (2+4)
b) wSa6→c2
Checkless Chess

F1132 Slavko Radovanović †
C+ (Serbia)



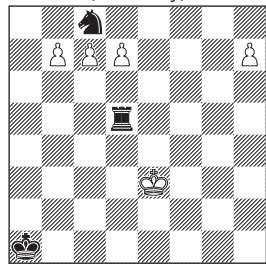
H#2 2 Sols (4+3)
AntiCirce

F1133 Oleg Paradzinsky
C+ (Ukraine)



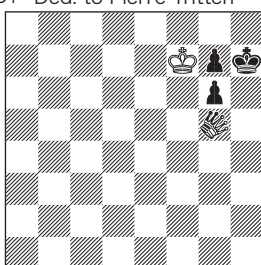
H#4 2 Sols (3+2)
Functionary Chess

F1134 Andreas Thoma
C+ (Germany)



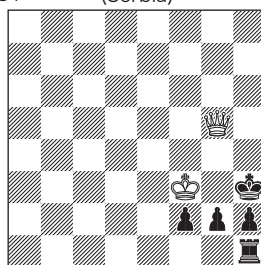
H#4 See Text (5+3)
WhiteMax BlackMax

F1135 Sébastien Luce
C+ (France)
Ded. to Pierre Tritten



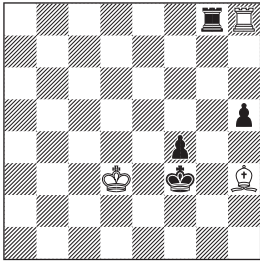
H#7.5 (1+3+1)
PWC
Neutral Dolphin g5

F1136 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



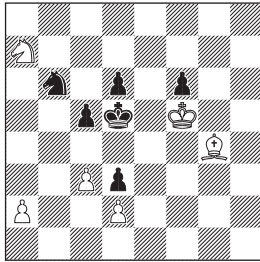
(*) H=2 (2+5)
b) After Key

F1137 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



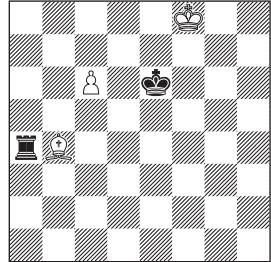
H=2 (3+4)
b) wBh8

F1138 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



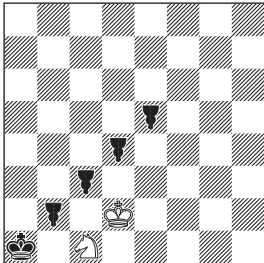
(*) H=2 (6+6)
b) After Key

F1139 Bogdan Cvejić †
C+ (Serbia)



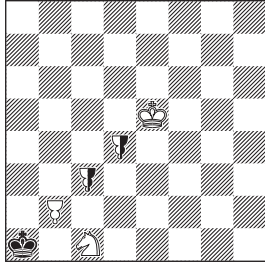
H=3 (3+2)
b) wBb4→b7

F1140 Andreas Thoma
C+ (Germany)



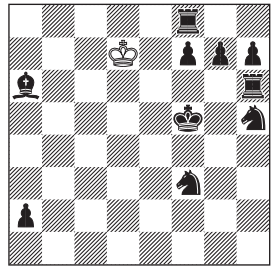
H=4 2 Sols (2+5)
Berolina Pawn 0+4

F1141 Andreas Thoma
C+ (Germany)



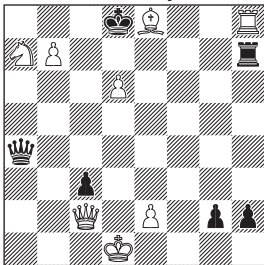
H=4 2 Sols (3+1+2)
Berolina Pawn b2
Neutral Berolina Pawn c3 d4
Black Maximummer

F1142 Pierre Tritten
(France)



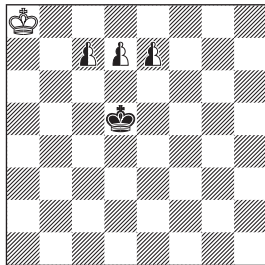
H+++++++11 (1+10)
Masand

F1143 Manfred Rittirsch
C+ (Germany)



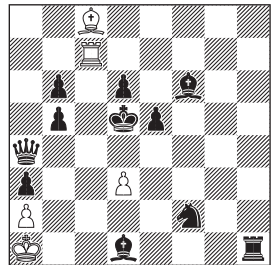
HS#2.5 2 Sols (8+6)
Breton

F1144 Eric Huber
C+ (Romania)



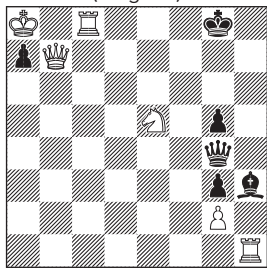
HS#3 2 Sols (1+1+3)
Anticipés

F1145 Christopher Jones
C+ (UK)



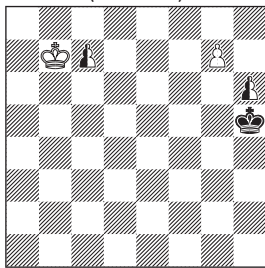
HS#3.5 2 Sols (5+11)

F1146 Petko Petkov
C+ (Bulgaria)



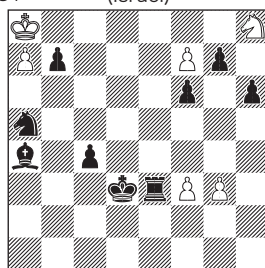
HS#3.5 (6+6)
b) wSe5→e4
Cast Inverse

F1147 Eric Huber
C+ (Romania)



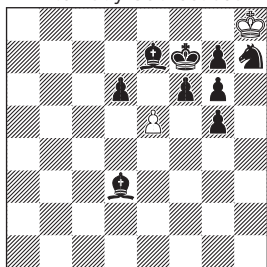
HS#4 (2+1+2)
b) nPh6→f7
Anticipés

F1148 Menachem Witztum
Emanuel Navon
C+ (Israel)



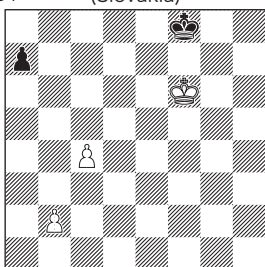
HS#5 (6+9)

F1149 Sébastien Luce
C+ (France)
After Guy Sobrecases



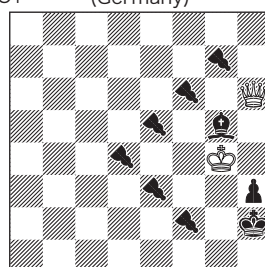
HS=3.5 2 Sols (2+9)

F1150 Ľuboš Kekely
C+ (Slovakia)



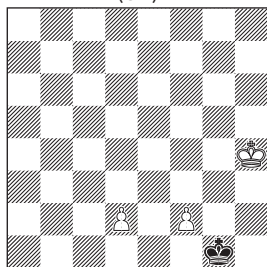
HS+6 (3+2)

F1151 Andreas Thoma
C+ (Germany)



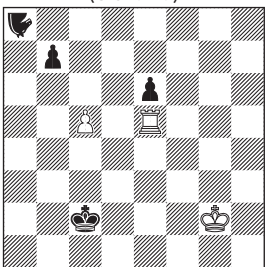
SH=8 (2+9)
Berolina Superpawn 0+6

F1152 Chris Feather
C+ (UK)



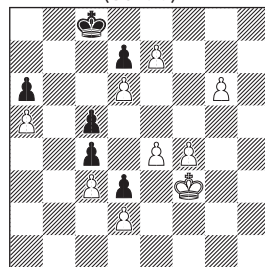
SH#8 (3+1)
Take&Make
Equipollent Circe

F1153 Ľuboš Kekely
C+ (Slovakia)



PS-HS#11 (3+4)
Nightrider Hopper a8
Transmuted Kings
Bicolores

F1154 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



SH=18 (9+6)

Fairy

Fairy Editor

Vlaicu Crisan (Romania)

Judges 2020

Geoff Foster (Australia)

I would like to thank all the composers who submitted their fairy originals to our beloved fairy column from Problem Paradise. We are able to conclude the year with a record of 27 published originals. A warm welcome to Oleg in our column!

The first three entries show antagonistic play using Stephan's trademark. In **F1128** you should be aware that the direct attempt 1.LEg5? LEh2 2.LEf4 LEg2! 3.LEf6 LEg7! is not working. Which is then the key? In **F1129**, Black threatens to capture wBg8. How should White prevent this capture and release wGf7 from the duty of controlling h7? The main plan in **F1130** is 1.PAg1 hxg1=PA#?? but White King has two flights on d2 and e2 which need to be blocked first.

We continue with 5 helpmates. In **F1131** the author preferred to use a twin instead of placing his wS on c6 with the same solutions. Slavko Radovanović (14.06.1949 – 18.07.2013) is again present in our pages with a neat miniature in which a white Queen mates, while another piece guards e8. It is clear that the black King won't be mated on c2 in **F1133**, so white must attack him with the Knight f1 in order to enable his movement. But the Knight must be first attacked by the black Queen – can you spot now the solutions? Andreas shows different white promotions in his **F1134** in which both sides must play the longest moves. Please take care to solve also the following twins: **b) shift bSc8 to h8 and H#6 and c) shift bSc8 to a8 and H#7**. In case you

wonder why **F1135** is dedicated to Pierre, you should see the initial placement of pieces form the shape of letter "T". As the Dolphin is the combination of Grasshopper and Kangaroo, the only possible mating configuration is with the black King in the corner, blocked by a promoted piece on g8 and all the remaining pieces on the last file.

Our next 6 helpstalemates are solver friendly. You should be able to find a common pattern between **F1136** and **F1138**. Bogdan Cvejić (12.08.1913 – 28.06.1989) is another deceased Serbian composer, who had two compositions selected in the FIDE Album. His original **F1139** was kindly sent by Slobodan via snail mail, like **F1132**. You will immediately notice the high resemblance of **F1140** and **F1141**. In **F1140** the Berolina Pawn e5 must be captured in both solutions, by different white pieces and on different squares. In **F1141**, one neutral Berolina Pawn will promote, while the other will be captured by the white King. Before going to helpself problems, we have an exotic stipulation which reads "Help seven-fold check in eleven moves". In order to solve **F1142**, you should know the black Pawn a2 is first changed into a white Pawn and then promotes to Queen on a8. The last white move is a check given by the Queen, which turns 6 black pieces into white, and all of them are attacking the black King.

The 8 helpself problems should match all tastes. I would particularly thank Manfred (**F1143**), Menachem & Emanuel (**F1148**) and Sébastien (**F1149**) for sending to our column their works which realize the theme of the Romanian Tzuica Tournament 2020 i.e. Schnoebelen promotions = promoted piece which are captured without moving. **F1143** uses Breton: When a piece is captured, a piece of the same kind of the capturing side must also

disappear (if there are any). Fortunately, this is C+ by both Popeye and Winchloe, although the implementation of this fairy condition is different: in Popeye, in case of promotion by capture, the promotion precedes the capture, while in Winchloe the capture precedes the promotion. In order to solve Eric originals **F1144** and **F1147** you should read before his article explaining the Anticipés difficult condition. In **F1144** all black moves are played by the black King. There 2+3 neutral minor promotions in each problem. The prominent set black battery will mate twice in **F1145** by capturing a white figure. **F1146** uses Cast Inverse: A piece may capture a piece only if it threatens other piece(s). A piece is threatened if the opposite side, if he had to move, could capture it. Petko generously provides the following hint for the solvers: "In order to be able to deliver the mate, the black Queen must capture the white Rook in the final move, while guarding at the same time the second white Rook and the white Knight". Our last problem, **F1150**, needs absolutely no hints to be solved – you can spot the solution directly from the diagram!

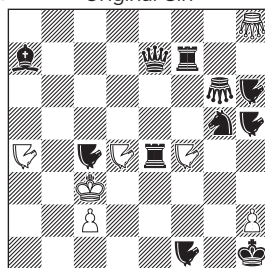
Our four serial problems are again very different in style. You should create a cage in order to immobilize all those Berolina SuperPawns and Bishop in **F1151**. Chris writes about **F1152** "the idea was to show a perhaps rather surprising long-distance round trip by the bK and have every move (including the mate) specifically exploit the combination of conditions used". So, which is the first move: 1.Kxf2 → f4[wPe5] or 1.Kxf2 → f3[wPe4]? In **F1153** we have a parry-series, in which Black makes 11 moves after which a HS#1 follows. Black checks White twice during the series, forcing White to parry them. Under Bicolore rules, no side can leave its King

to be threatened / controlled by enemy / friend pieces. **F1154** shows a long walk of the black King to the square where it will be eventually stalemated.

My seasonal greetings go to all composers, solvers and readers, wishing them a healthy and prosperous new year. Please continue to strongly support our fairy column in 2021 as well with any kind of contributions. Thank you very much!

Issue 90 (F1104-1115)

F1104 Jean-Marc Loustau (France)
C+ "Original Sin"



H#2 2 Sols (7+11)
(3+4) Nightriders
(1+1) Grasshoppers

- 1.Nxh2 Kb3 2.N5f6! Nf5# (not 2.Nh5~? 3.Rxf5!)
- 1.Ng2 Kb2 2.Nf5! Nd3# (not 2.Nh6~? 3.Gxd3!)

Author: 2 solutions with theme Ianovic; as thematic features which together could be new:

- 2 different thematic white pieces
- 2 different axis of black pinning of these white pieces
- 2 different black pinning pieces, with exchange of functions (pinning the white piece/indirectly pinning the black pinning piece)

So there is a complete half-pin of the 2 black thematic pieces (I suppose the combination of this theme with Ianovic is

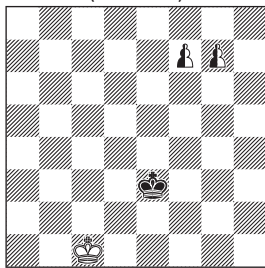
new too, though it seems quite natural).

2 model pin-mates.

Sunouchi: Brave riders can guard and attack.

Crisan: Anatole Felix Ianovcic was a prominent Romanian chess composer and author who founded Revista Romana de Sah and Buletin Problemistic. He also invented a direct two-mover theme: Initially two black pieces A and B are half-pinned. The key self-pins a white piece C. A and B play each in the thematic variations, thus self-pinning B (respectively A) and thanks to a self interference Black allows White to mate with a Pelle move of C. Jean-Marc shows the difficult Ianovcic theme in H#2, the thematic pieces being A=Nh5, B=Nh6 and C1=Nd4, C2=Nf4. One can only regret that the French Grand Master doesn't compose more often [fairy] helpmates!

F1105 Eric Huber
C+ (Romania)



H#3 2 sols (1+1+2)
Neutral Pawns f7. g7
Partial Paralysis
Leffie Type B

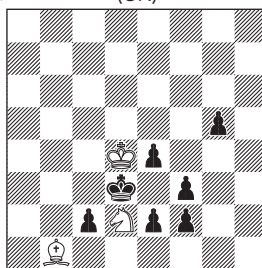
- 1.Kd4 g8=nR 2.nRh8 f8=nB 3.nBa3+ nBb2#
1.Kd3 f8=nR 2.nRf5 g8=nB 3.nBa2 nBb1#

Author: In the final position the nB is partially paralysed by the wK and cannot move away. Chameleon echo mirror mates. Exchanged promotions.

Editor: Nobody could solve this.

Crisan: Under Leffie type B, the promoted neutral Bishop can capture the black King, without fearing of controlling the neutral Rook after the capture. Of course, Black should not play 2.nRg7? because afterwards the promotion into neutral Bishop is no longer possible. Moreover, in the first solution 4.Kc3 is not possible because the King is partially paralysed by the neutral Bishop and therefore its diagonal moves are ruled out.

F1106 John Rice
C+ (UK)



H#3 (3+7)
b) wBb1→e1
Mars Circe

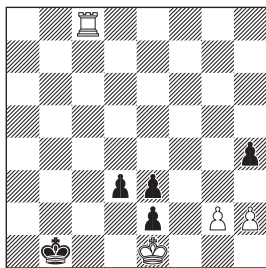
- a) 1.f1=Q+ Ke3 2.Qe1 Sxe2 3.Qc3 Sd4#
b) 1.c1=B Sb3 2.Bf4 Sc1 3.Ke3 Sd3#

Tachioka: Difficult!

Sunouchi: Launch-pads for B should be secure.

Crisan: Two different battery mates. In a), the wSe2 opens the gate for wBb1, which mates via a virtual rebirth from f1. In b), the wSc1 opens the gate for wBe1, which mates via a virtual rebirth from c1. Very instructive!

Sébastien Luce
F1107C+ (France)
 Ded. to Pierre and Vlaicu



H#3.5 (4+5)
 Volage

1...g4 2.hxg3 ep. Rc2 3.gxh2 Rxe2
 4.h1=wR 0-0#

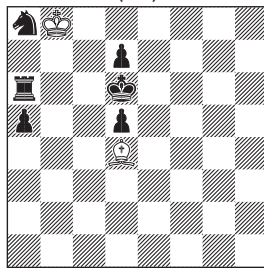
Author: Not 1.g3? and white Pawn becomes black! Note that with this condition a Pawn promoted to a Rook of opposite color can be used for castling.

Sunouchi: Volage magically yields Valladao.

Editor: Hajime Tachioka' s solution 1.Ra8 d2=wP 2.Kxe2 Kc1 3.Kd3 Kd1 4.Ra1# misses the point that bPd3 is originally wP and thus has already lost the ability of Volage.

Crisan: ...actually the point is that Ra1=bR does not even give check! Under Volage rules, the Rook can' t travel on many squares, as it will have to change its color. It is easy to forget the chessboard has two colors, opposed to a shōgi ban! This exquisite Valladao is one by-product inspired from writing the joint article published in PP90, hence the dedication.

F1108 John Rice
 C+ (UK)

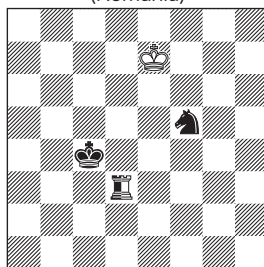


H#4 2 Sols (2+6)
 Einstein

1.Kc6 Bb6=S 2.Kb5 S:a8=B 3.Rb6=B
 B:d5=R+ 4.Ka6 Rd3=B#
 1.Ra7=B+ B:a7=R 2.Kc5 R:a5=Q+ 3.Kc6
 Ka7 4.Sb6=P Q:b6#

Editor: Nobody could find the first solution. Crisan: Naturally, the position of the black Pawns scream for a mate with wQ on b6. The other solution is well hidden and requires an out-of-the-box thinking. Another gem from the reputed British Grand Master!

Eric Huber
F1109 Vlaicu Crisan
 C+ (Romania)



H#7 (1+2+1)

b) wKh8 c) bSg2 d) nRg5
 Neutral Rook d3
 UltraSchachZwang
 Point Reflection

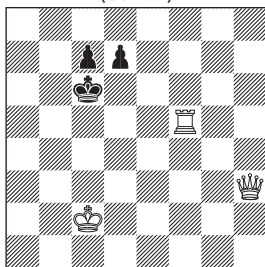
a) 1.Se6+ nRe1 2.Kd3+ Kf8 3.Kf2+ Ke8
 4.Sc7+ nRd1 5.Kh1+ Ke2+ 6.Se8+ Kf1
 7.Sa8+ Kg2#

- b) 1.Sg6+ nRb3 2.nRa1+ Kh5 3.Kb3+ Kh4
4.nRa4+ nRa5 5.Ka1+ Kb4+ 6.Sh4+ Ka3
7.Sh8+ Kb2#
- c) 1.nRe3+ Kf7 2.nRf3+ nRf5 3.Kc8+ nRf1
4.Kh8+ nRd1 5.nRd7+ nRd8+ 6.Se1+ Kf8
7.Sa1+ Kg7#
- d) 1.Ka3+ Ke6 2.nRg6+ nRh6 3.Ka8+
nRh5 4.Sd4+ nRe5 5.Sd1+ Kd7 6.nRe8+
Kc8 7.Sh1+ Kb7#

Editor: Nobody could solve this.

Crisan: We thought this double rendering of the four corners theme in Wenigsteiner using the Japanese invention Point Reflection should be published in Problem Paradise pages. It is clear the black King can be only mated in the corner, with the black Knight placed in the opposite corner. Getting four solutions of the same length without duals required quite some laborious research.

F1110 Slobodan Šaletić
C+ (Serbia)



H=2 2 Sols (3+3)
b) bKd6

- a) 1.Kd6 Qe3 2.c5 Rxc5=
1.d6! Qb3 2.d5 Rxd5=
b) 1.Kc6 Qb3 2.d5 Rxd5=
1.c6! Qe3 2.c5 Rxc5=

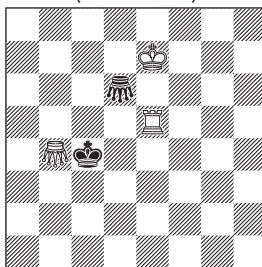
Author: Tempo moves.

Sunouchi: Such an innocent work relaxes me.

Crisan: An absolutely necessary relief after the huge difficulties posed by the previous

composition. All solvers scored points at this problem – congratulations!

F1111 Sergej Smotrov
C+ (Kazakhstan)



HS#3 3 Sols (3+2)
Grasshopper b4 d6
Protean Chess

- 1.Kxd6=rG Kxb4=rG 2.rGf4 rGg4 3.Re4
rGxe4=rR#
1.Gd4 Kxd4=rG 2.Kxd6=rG rGd7 3.Rd5
rGxd5=rR#
1.Re6 Kb5 2.Gb6 Kxb6=rG 3.Kxd6=rG
rGxe6=rR#

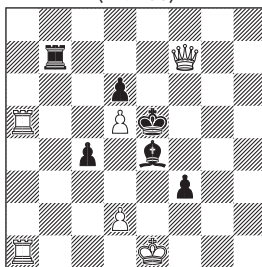
Author: 3 echo mates.

Tachioka: Simple and funny!

Sunouchi: Close contact for royal transformations.

Crisan: Lovely successive King transformations, with Kxd6=rG occurring on first, second and third moves. The final zugzwang is appealing.

F1112 Sébastien Luce
C+ (France)



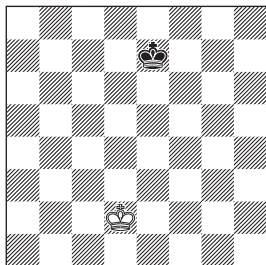
HS#3 (6+6)
Masand

1.0-0-0 f2 2.Rc5 f1=S 3.d4[c5=bR]+ cxd3
ep. #

Editor: Nobody could solve this.

Crisan: Another discovery of the Valladao theme using Masand, this time. The color change of the Rook is very funny!

F1113C+ Sébastien Luce (France)
Ded. to Pierre and Vlaicu



HS#4 (1+1)

b) wKg2

Sentinelles in neutral Pawn
Antipodean Circe

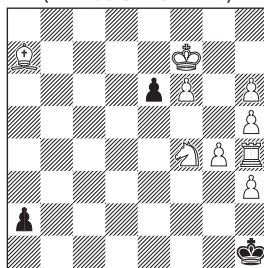
- a) 1.Kc2(+d2) d1=nQ+ 2.nQd7+nQc6(+d7)+ 3.Kc1(+c2) nQc3(+c6) 4.nQf6(+c3)+ Kxf6(nQb2;+e7)#
b) 1.Kg1(+g2) Kd7(+e7) 2.e8=nQ+ nQg6 3.nQg3(+g6) Ke7(+d7) 4.nQd6(+g3)+ Kxd6(nQh2;+e7)#

Author: In a) Black promotes to Queen, in b) White, then the neutral Queen builds a Pawn net around black King till move 4 where black King is forced to capture neutral Queen (if the Queen moves, a neutral sentinel appears with self-check) and the antipode rebirth of the Queen mates white King.

Editor: Nobody could solve this.

Crisan: This is very difficult to solve. The Antipodean Circe effect appears only in the last move, transferring the neutral King from black King's arms directly into the white King's arms and delivering the death kiss.

F1114 Pierre Tritten (France & Romania)
Vlaicu Crisan



HS#4 (9+3)

b) wPg4→g6

Circe

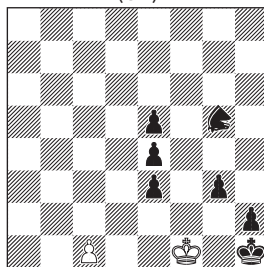
- a) 1.Kg6 a1=B 2.Kg5 Be5 3.Sg6 Bf4+ 4.Shxf4[+bBf8]+ Bxh6[+wPh2]#
b) 1.g7 a1=R 2.Kg6 Ra5 3.f7 Rg5+ 4.Sxg5[+bRh8]+ Rxh6[+wPh2]#

Authors: Same motivation for the two solutions: promotions, sacrifice in two moves of black piece and cross-checks.

Editor: Nobody could solve this.

Crisan: A Meredith with an interesting collaboration story: Pierre initially sent me a helpmate deploring he had to use twins instead a promotion. His setting could be easily changed into a helpselfmate by changing the colors and adding the originally intended promotion. Pierre further improved the new setting by saving a piece.

F1115 Chris Feather (UK)
C+



SH#13 (2+7)

b/c) wPc1→c2/e1

Hunter √25-leaper / √50-leaper g5
PWC

第2回 Home Solving Tournament (3)

Continued from p.26

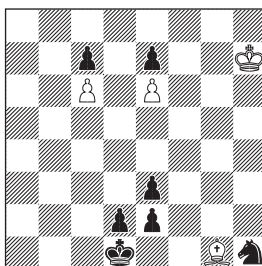
- a) 1.Xd1 2.Xc8 3.Xc3 4.Xh8 5.Xd5
6.Xa1 7.Xb8 8.Xf5 9.X:c1[+wPf5]
10.Xb8 11.X:f5[+wPb8=X] 12.Xc1
13.X:b8[+wXc1] Xc6#
- b) 1.X:c2[+wPg5] 2.Xh7 3.Xa8 4.Xa3
5.Xh4 6.Xd1 7.Xc8 8.X:g5[+wPc8=Q]
9.Xd1 10.X:c8[+wQd1] 11.Xg5
12.X:d1[+wQg5] 13.g2+ Q:g2[+bPg5]#
- c) 1.Xd1 2.Xc8 3.Xc3 4.Xh8 5.Xh3 6.Xa4
7.X:e1[+wPa4] 8.Xd8 9.X:a4[+wPd8=S]
10.Xe1 11.X:d8[+wSe1] 12.Xh5
13.X:e1[+wSh5] S:g3[+bPh5]#

Sunouchi: Acrobatic loops to locate 3 white men.

Crisan: Chris is never short of original and witty ideas – here he shows an excellent demonstration of the hunters' properties! The strange beast g5 goes downwards either as a (3,4) Leaper or as a (0,5) Leaper and upwards either as a (1,7) Leaper or as a (5,5) Leaper. The path from g5 to c1, c2 and e1 must also go through the 8th rank, in order to promote the white Pawn, thanks to PWC. It is amazing the three promotions are different and all solutions have the same length.

This time we had only four solvers for this difficult yet memorable set of fairy compositions. Congratulations to Seiichiro, who managed to score points at more than half of them, followed by Hajime, with a very respectable performance. My thanks go also to Akira and Matsuhisa for giving a try. Please continue to solve fairy chess compositions and let us know your thoughts about the published originals..

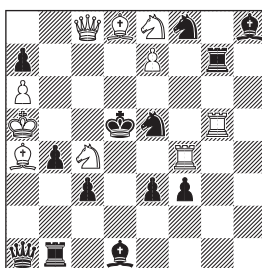
HST6



H#5 2 sols

(4+7)

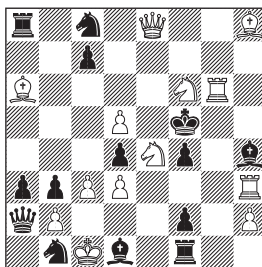
HST7



S#3

(10+13)

HST8

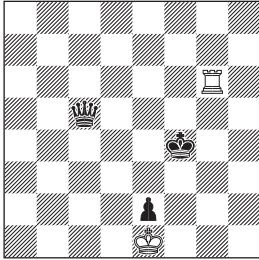


S#4

(13+14)

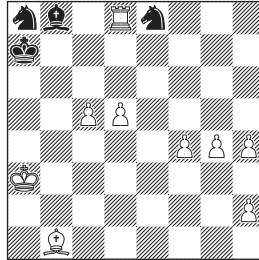
正解は p.46 をご覧ください。

R301 Andreas Thoma
(Germany)



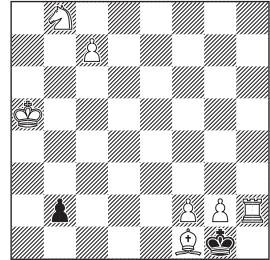
-4 & #1 (2+3)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R302 Andreas Thoma
(Germany)



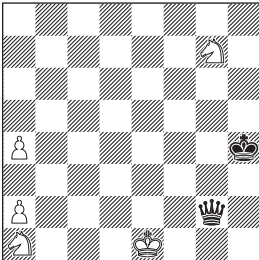
-8 & #1 (9+4)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R303 Andreas Thoma
(Germany)



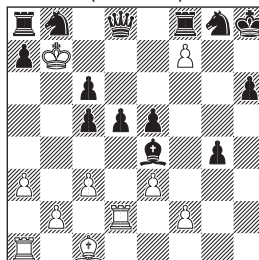
-6 & R#1 (7+2)
Proca Retractor
AntiCirce Calvet

R304 Andreas Thoma
(Germany)



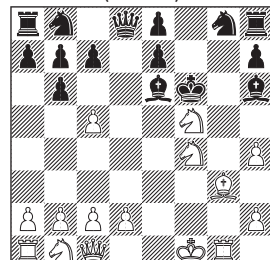
-7 & #1 (5+2)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

R305 Paul Răican
(Romania)



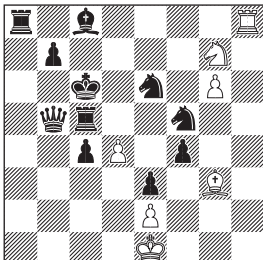
Proof Game 31.5 (10+14)
Duelist

R306 Henryk Grudziński
(Poland)



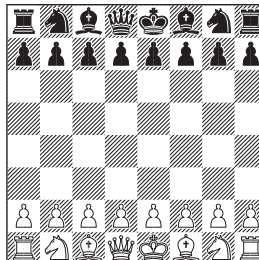
Proof Game 15.5 (15+15)
Equipollent Circe

R307 Günther Weeth
(Germany)
ded. to Hans Gruber 60



-14 & S#1 (7+11)
Proca Retractor
AntiCirce Circe

R308 Pierre Tritten
C+ (France)



Double Check in 3.5 (16+16)
Shrinking Men

Retro

Retro Editor

Naoki Matsuzaki (松崎直樹)

Judge 2019-2020

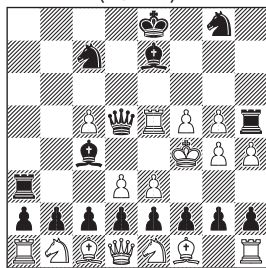
Thomas Brand (Germany)

☆今回は Retractor 5 作と ProofGame 系 3 作です。R301 は、e1 に黒駒が利かないようにした後、e8 を黒駒で塞がせて wK が左から詰まします。wR は動きません。R302 は、b7 に逃げられない形になれば簡単に詰みます。初形の白駒が wPh2 しかないので、この P を使い回すことになります。黒駒の戻り場所が非限定となる箇所がありますが、白の手順は変わりません。R303 は、K が動きません。まずは黒駒をチェックできる位置まで戻してから、駒取りを戻します。最後は K の周りの白マスに白駒が並び、黒マスに黒駒が利いた形になります。R304 は、黒駒が再生位置を空けてチェックした形にして bQ を退かし、wK で左から詰まします。途中不可能局面にならないように、また Forward Defense を成立させないようにご注意ください。R305 は、初形にある駒の中に何度も動いているものがあります。動かす駒を切り替えるために、P の前に S や B を置いて止める手順を繰り返したり、駒をピンしたり、K が動いた後に動けないようにしたりします。R306 は、黒駒の動きが見えにくいです。P が成ってから何度か駒を取り、その後取られています。bPb6, e8 から wP がどこで成ってどう動いたか推定できます。wPc5 はダブルステップした後、自らは動かずに 2 回取られています。R307 は AntiCirce と Circe の両方を組み合わせたルールで、取る駒と取られる駒の両方が再生されます。詳しくは作者自身による記事を参照ください。最後は P を突いてチェックし、R に取り返させて

詰む形を目指しますが、今のままでは K に逃げられてしまうので、逃げ道に事前に白駒を利かせたり、黒駒を戻させたりしておきます。R308 は、各駒の移動距離はその駒が前回動いた距離を超えないというルールで、初形から始めてダブルチェックしてください。駒の利き線上に K があっても、距離が遠いとチェックにならないことがあります。最も解きやすいのは R308 で、次が R301 です。R302 と R304 は似た手順を繰り返すので、手数の割には解きやすいと思います。他は難解です。なお、今回の出題のうち複数に同じ手筋が登場します。白がチェックされた局面に戻さなくても直前の黒の手が 1 つに限定される、P 同士でのみ可能な方法です。一つだけでも構いませんので、ぜひ解答をお寄せください。

Issue 90 (R286-292)

R286 Henryk Grudziński (Poland)



Proof Game 22.5 (16+16)
Circe Parrain

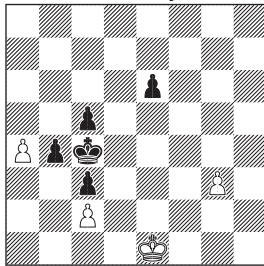
1. b4 a5
2. bxa5 b5(+bPa3)
3. axb6 e.p. d5(+bPb3)
4. g4 Bxg4
5. f3(+wPg5) Bxf3
6. h4(+wPf5) Bxe2
7. d3(+wPe3) Bxd3
8. Sf3(+wPc5)! Bxc2
9. axb3(+wPd3) a2(+bPb2)
10. Ke2! Bxb3
11. bxc7(+wPc4) Ra3(+bPc2)
12. cxb8=R e5(+bSb6)
13. Rxb6 Bxc4(+bSc7)
14. Rf6(+wPg4) Ra8 15.

Rxf7 Ra3(+bPf2) [10.Kf2?] 16. Se1 Ra8
 17. Rxc7 Ra3(+bPg2) 18. Kf3 Ra8 19.
 Rxh7 Ra3(+bPh2) 20. Rd7 Be7 21. Rxd5
 Rh5(+bPd2) 22. Rxe5 Qd5(+bPe2)+ 23.
 Kf4

駒取り直後の手のベクトルを加算した位置に再生されるルール。bPが2段目に並んだ形を作るために、bPを取った直後に黒駒を進める手順を繰り返すことになる。wPがRに成った後は7段目のbPを取り、bRa8-a3を繰り返してPを動かす。wPの配置が右に寄っているために、wPを取られた後に白駒を右に動かす手順が必要で、作意手順のRb6-f6がそれにあたる。

Author: Black pawns on the second line.
 An interesting arrangement of white pawns.

R287 Andreas Thoma
 (Germany)



-11 & #1 (4+5)
 Proca Retractor
 AntiCirce Cheylan

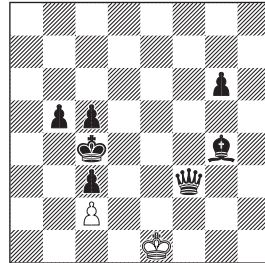
-1. Kf2xRg2(Ke1) Rg1-g2+ -2. Ke1-f2
 Rg2-g1+ -3. Ke2xBf3(Ke1) Ba8-f3+ -4.
 Kf2-e2 Rg1-g2+ -5. Ke1-f2 Rg2-g1+ -6.
 Ke4xPd4(Ke1) c6-c5+ -7. Ke3-e4
 -7...d5-d4+ -8. Kf2-e3 Rg1-g2+ -9.
 Ke1-f2 Rg2-g1+ -10. Kc7xQd7(Ke1)
 Qe8-d7+ -11. Kb6-c7 & 1. Kb6-c5#

-7...e7-e6+ -8. Kf2-e3 Rg1-g2+ -9.
 Ke1-f2 Rg2-g1+ -10. Ke6xBd7(Ke1)
 Be8-d7+ -11. Kd6-e6 & 1. Kd6-c5#

c5が空けばwK単騎で詰む形であり、このbPを戻させるように進める。bRとbBにダブルチェックされた状態にしてbBをa8に戻し、このBがwKe4をチェックした局面にすると、bPが戻るしかない。黒の-7手目はチェックの戻し方が2通りあり、wKを初形に戻してから黒駒でe8を塞がせて詰ます。なお、wPg3があるので、-2...Pg2-g1=R? は illegal である。-4. Kf3-e2? は Kd5-c4+ と受けられて失敗する。

Sunouchi: Sensitive moves and dynamic B.

R288 Andreas Thoma
 (Germany)



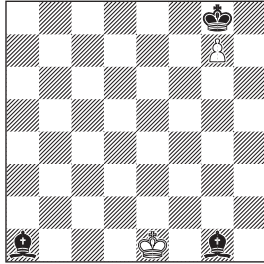
-7 & #1 (2+7)
 Proca Retractor
 AntiCirce Cheylan
 No Forward Defense

-1. Kd2xRe3(Ke1) Bd7-g4+ (without
 FD Qd1#) -2. Ke1-d2 Rd3-e3+
 -3. Ke1xRd1(Ke1) Rd2-d1+ -4.
 Kd6xPc6(Ke1) Kd4-c4+ -5. Ke6-d6
 Be8-d7+ -6. b3xBc4(Pc2) Kd5-d4+ -7.
 Kf6-e6+ & 1. Kf6-e5#

先ほどと一部似た形だが手順は全く異なる

る。縦に2つ並んだbRによるチェックと直前に動けなかったBによるチェックを使い、bKを2回動かす。-4手目にbPc6でbBが戻る場所をe8に限定するとともに、bKの逃げ道をなくしている。bPg6があるために最後にwKがf5に戻れなくなっている。

R289 Andreas Thoma (Germany)



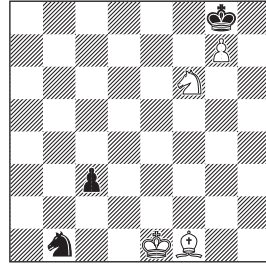
-4 & S#1 (2+3)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

- 1. Ke1xPd2(Ke1) d3-d2+ -2. Ke1xRd1(Ke1) Rd2-d1+ -3. Ke1xRd1(Ke1) Kh8-g8+ -4. Kb2xRc1(Ke1)+ & 1. Kb2xBa1(Ke1)+ K~#
(-2...Kh8-g8? -3. Kb2xRc1(Ke1) & 1. Kb2xBa1(Ke1) K~#)

まずbPを戻した後bRを連続して戻すと、bRが動かずにbKが動いて初形位置を空けてチェックしたことになる。白はwPのチェックを戻すのだが、a1, d1, g1に黒駒があるので、残るc1に駒があった形、つまりwKがc1から動いたかc1の黒駒を取ったかのいずれかとなる。c1から動いたとすると最後にwKが逃げられない形にできないので、c1の駒を取ったことになる。黒駒はRとしてe1に二重に利かせ、チェックしてbKが動くと言わなければならない。なお、-4手目にb1から取ったとするとRのチェックを戻

せないのが不可となる。b2からであれば直前の黒の手はa2-a1=B+と戻せる。

R290 Andreas Thoma (Germany)



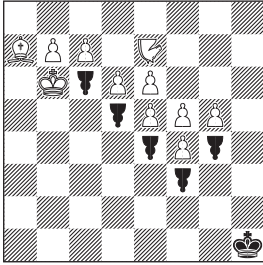
-2 & S#1 (4+3)
Proca Retractor
AntiCirce Cheylan

- 1. Ka2xRa3(Ke1) Rb3-a3+ -2. Bg6xRc2(Bf1) & 1. Kxb1(Ke1)+ Rb1#
(-2. Bh5xQf3? QxS!; Bg6xQc2? Qb1!)

最後にwKがbSb1を取ってe1に戻るとwSでチェックがかかるようになっている。このときに黒駒をb1に動かすと白が詰む形になればよい。bKf7と逃げられると困るのでwBを利かせる。wKが2段目に逃げられないようにするのだが、Qでは都合が悪いためRを使う。なお、-1. Ka2xRb2(Ke1)? ではRb6と戻されて、1...Rxf6(Rh8)と受けられてしまう。

Sunouchi: K returns home under the control of R.

R291 Stephan Dietrich
(Germany)



-6 & #1 (11+6)
Proca Retractor
5 Berolina-Pawns, Nightrider e7

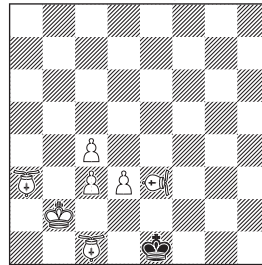
- 1. Kc5-b6 Bpd7-c6+ -2. Kd4-c5
Bpc6-d5+ -3. Ke3-d4 Bpd5-e4+ -4.
Kf2-e3 Bpe4-f3+ -5. Kg3-f2 Bph5-g4+
-6. Kh3-g3 & 1. f5-f6#

wPf5 を突けば wN によるチェックがかかるが、このままでは逃げられてしまう。wK が bBP にチェックされた局面に繰り返し戻しながら wK を h3 まで動かすと、bK が逃げられなくなる。黒は BP の進行方向から、白は駒の利きを通す必要性から、どちらも駒を取っていないことになる。

Sunouchi: Simple and thematic repetition is nice.

Author: Schwarz kann nie schlagend ziehen. Weiß zieht nie schlagend, um Läufer und Nightrider nicht zu behindern. Black never can move without taking. White moves never by taking, in order not to block forcing lines of bishop and nightrider.

R292 Stephan Dietrich
Andreas Thoma
(Germany)



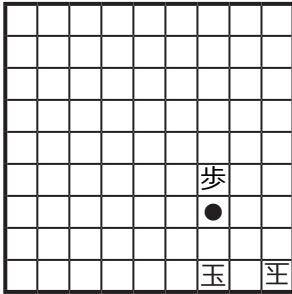
-2 & S#1 (7+1)
Klan Retractor
Princess e3, BishopHopper a3, c1

- 1. Ka1xPRb2 PRa4xPRb2/PRd1xPRb2
-2. c2-c3 & 1. PRb2-c3+ PRa4xc3/
PRd1xc3#

Klan タイプなので、駒取りの有無と種類の決定権は常に白にある。白を詰ます黒駒にヒモをつけるために2つの黒駒を発生させたいが、作意はPR単独で離れた場所から隅のKを詰ます手順である。wKをa1に戻してbPR取りを逆算し、さらに発生させた白駒でチェックし黒に取り返させて白が詰むという流れとなる。白駒の種類はbKが逃げられないようにe1とe2の両方に利かすためにPRとなる。黒の戻し方が2通りあるが、どちらに戻っても同じように詰む。

Sunouchi: An elegant fight between Princesses.

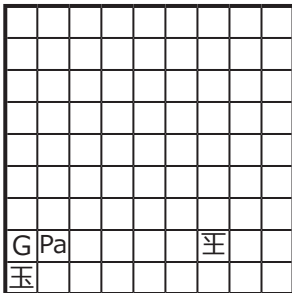
U291 KOUSAKA Ken
高坂 研



▲ 銀

詰将棋 1 手
37 ● = Imitator

U294 UEDA Yoshikazu
上田吉一



▲ なし

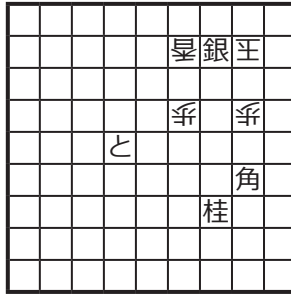
協力自玉スタイルメイト 10 手
G = Grasshopper
Pa = Pao

Leo: Chinese piece の一つ。 Q のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

Lion : Q の筋で、ある駒を 1 つ飛び越したその先の任意の地点に着地する駒。そこに相手の駒があれば取れる。

Pao: Chinese piece の一つ。 R のように動くが、駒を取るときはその線上で駒を一つ跳び越してその先（直後でなくてもいい）にある駒を取る。

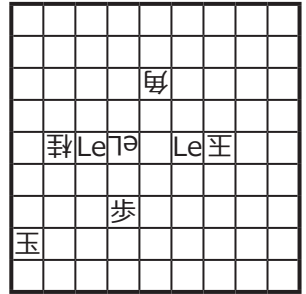
U292 KOUSAKA Ken
高坂 研



▲ 銀歩

詰将棋 7 手
透明駒 1+0

U293 UEDA Yoshikazu
上田吉一



▲ なし

協力自玉詰 4 手
b) Leo を 3 枚とも Lion に
Le = Leo
Li = Lion

Grasshopper : Q の筋で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する駒。そこに相手の駒があれば取れる。

Shogi

Shogi Editor

AIBA Takehiro (会場健大)

Judge 2018-2020

SUDO Daisuke (須藤大輔)

Issue 90 (U281-286)

U281 Umayabara Go

馬屋原剛

皇	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	皇
飛						飛	馬	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	銀	歩	歩
		歩						
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

▲ なし ▼ 歩

ブルーゲーム 13 手

76 歩、32 飛、33 角生、42 銀、
88 角生、37 飛生、38 飛、31 飛生、
32 飛生、33 銀、82 飛生、32 飛、
37 歩まで 13 手。

星野：33 銀が 42 銀～33 銀を暗示していて、
解き易い。

☆歩が 33 になく、そこに玉方銀があるとすれば
33 角生に 42 銀と応じたのであろうという
のはすぐわかる。またそれで空いた 3
筋から 37 飛生と飛び込んで先手の飛車を自由
にするのもわかりやすい展開。しかしそこから
手数を合わせるのが意外と難しく、
太刀岡：大駒の生に統一感があって良い。飛を
交換するより 31 飛と逃がす方が短い。

黒川：まさか 82 飛は打ったものではないとは思
わなかった。
というところに意外性を感じてもらえればと思
ったのだが…

余話：76 歩、32 飛、33 角生、42 銀、88 角生、
37 飛成、38 飛、33 龍、同飛成、同銀、82 飛、
32 飛、37 歩まで 13 手。

☆次に銀は 33 に動くので、33 の地点で飛車
交換してしまえば手数は一緒なのであった。こ
ちらだと成生など含め非限定多数。作意解のほ
うが多かったが、それは粗検の言い訳にはなら
ない。申し訳ありません。ただ今月はこれだけ
ではなく…。

神在：飛のマグネットに好感。

九尾：取るしかないと思ったら、だいたい取ら
ないのが正解。

U282 Umayabara Go

馬屋原剛

皇	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	皇
飛							馬	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		
								歩
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	
香	桂	銀	金	玉	金		銀	香

▲ 桂 ▼ 歩

ブルーゲーム 14 手

16 歩、14 歩、17 桂、13 桂、
25 桂、同桂、38 銀、15 桂、
同歩、37 桂生、29 桂、同桂成、
同銀、21 桂まで 14 手。

☆実は 12 手なら簡単な形。先手は 4 手分しか
指していないので、あと 2 手無駄手を指すの
は簡単。後手は 14 歩、13 桂、25 桂、37 桂
生、29 桂成とすれば 12 手で目的の形になる。
しかし指定された 14 手で作り上げようとす
ると、途端に難しくなる。今の後手の手の中
で、テンポを取る手段がないのだ。歩も桂もも
と一手で行ける地点に別のどこかを經由して
も行くことができる駒ではない。考えられるのは、
37 地点で桂をあえて成り、38 成桂→29 成桂
と 2 手かけて進める手順だが、これだと先手
は事前に銀をよけておかなければならない。す

ると先手の手は 16 歩 17 桂 25 桂 38 銀 29 銀 18 銀 29 銀となって、15 歩の一手が足りない。
 ☆ということで、桂を成る手のほかに後手が一手消費する手段を考えることになる。それが 8 手目の 15 桂だ。先手はこれを取って、盤上に後手の手の痕跡は残らない。それを 29 に打ち直せば、みごと一手パスの実現というわけだ。
 黒川：普通に進めると 12 手でできてしまうが、桂をさらに交換するのがすごい。

太刀岡：ピンポイントに 11 手目で手待ちするため、29 桂を持駒にする。新しい表現だと思う。

星野：手順を限定するためには 2 5 同桂までは必然だが、のちの 2 9 桂内を見込んだ 1 5 桂捨てが絶妙。

神在：桂づくし。

無解：12 手でできたものの、14 手の作意手順は分からず。

☆上記のような声も複数。作者の狙いはばっちり当たったといえよう。

U283 SHIOMI Ryo

塩見 亮

皇	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	皇
馬	進						馬	
歩	歩	歩	歩	歩	王	歩	歩	
	歩	歩						
歩			歩	歩	歩	歩	歩	
							飛	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

▲ なし ▼ 歩

ブルーゲーム 15 手

76 歩、42 玉、33 角生、32 玉、
 66 角成、84 歩、同馬、33 玉、
 74 馬、87 飛生、82 歩、同飛生、
 92 馬、83 歩、86 歩まで 15 手

☆同作者による U275 の姉妹作。手数も同じで、違いは「(U275)36 歩、87 歩 → (U283) 37 歩、86 歩」、だけ。U275 の作意は 76 歩、32 飛、33 角生、52 玉、51 角生、37 飛生、62

角成、42 玉、72 馬、32 飛生、82 馬、33 玉、92 馬、82 飛、36 歩までと馬を愚直に進める手順だったが、こちらは対照的に効率よく使う手順。66 に引き成って 84 で歩を取り、飛車に上下運動させて 82 歩を取らせれば持駒の勘定も合う。この対比が成立していればおもしろかったが…。

余詰：2 手目 52 玉から 42 玉、33 玉のルートも成立。この場合角の成生、84 歩のタイミングなど非限定多数。

☆ 3 手で 33 玉とできればいいので、そのルートは 52 からでもいいのだった。こちら粗検申し訳ありません。以下は余詰指摘者を含め、作意解の短評を。

駒井：それらしい 32 飛の紛れにはまってしまった。

太刀岡：82 歩の打ち捨てのタイミングを限定したのはけっこうすごい。

星野：66 角成～84 馬として、74 から入るのが最短コースだと分かるまで結構大変だった。

神在：獅子奮迅の角(馬)。

九尾：素直な手順。

U284 KOSAKA Ken

高坂 研

							と	銀
								王
							香	玉

▲ なし

協力詰 1 手
 透明駒 1+0

23 香成まで 1 手。

☆作者お得意のレト口解析作品。攻方の透明駒が 1 枚隠れているが、攻方の着手とレト口解析を組み合わせることでその情報を絞ることができる。玉方玉はこの局面の前に 22 か

21 にいたことは明白であるが、そこには攻方の香が利いているように見える。したがって、玉が 22 にいたのであれば 23 に、玉が 21 にいたのであれば 22 か 23 に攻方の透明駒はあることになる。ところが、23 香成とすることで、23 に攻方透明駒がいた可能性が消える。ということは、攻方透明駒は 22 にあったのであり、玉方玉は 21 から来た。その局面を合法にする 22 の駒は角だけである。これによって 11 銀にもヒモがついて詰み。

☆なお 22 銀成は同玉が可能であることを否定できないので逃げ。23 に透明駒がいて、それが桂かもしれないからだ。

黒川：レトロの基本。

太刀岡：角を見ることによって 11 に紐をつけるのが面白い。

星野：1 手前は 21 玉～12 玉しかないということで、分かりやすい。

神在：レトロ入門者用かな。

九尾：非凡なテーマですが、解く分には平凡かと。

齊藤：ところで 1 手詰の場合、協力詰と非協力詰（かしこ）の違いがよくわからないのですが。

☆本作の場合、どちらでもいい気がします。無駄合を認めるかどうかで使い分けられていた前例はあったかと思います。

U284 KOSAKA Ken

高坂 研

					と	玉
			銀	王		
			馬	歩		

▲ 角

協力詰 3 手
透明駒 1+0

41 角、同飛、22 と、まで 3 手。

☆攻方玉を活用する発想が浮かぶかどうか。
41 角、同飛とわざわざ飛車を玉のいる 1 段目に呼んでから 22 と！が絶妙の組み合わせ。要するに 31 に攻方透明駒がいるというわけで、初形で玉が 32 にいることから、31 の透明駒は角か銀のどちらかであり、そのどちらでも詰んでいる。なお角は売り切れのため、この駒は銀と決まる。

☆すぐ解けた人とハマった人が分かれたよう。私はハマりました。

黒川：自玉をピンする筋は見えやすい。

太刀岡：自玉にピンを刺しに行く。

星野：41 角～22 とは、これしかない。

九尾：真剣に不詰と思い込みました。

及川：最終手は反則手のように見えるが、31 地点に透明駒があると主張。一段目に打てて尻に利きがない駒は銀しか残っていないので、42 玉とは指せないという訳ですね。

U286 UEDA Yoshikazu

上田 一

								王	
			黒						
玉									

▲ Nr ▽ Nr+ 残り全部

協力自玉詰 6 手

b)26 玉→52 玉

c)26 玉→18 玉

d)26 玉→42 玉

Nr = Nightrider

a)83Nr、64Nr 合、同 Nr、45 角合、89Nr、同龍まで 6 手。

b)28Nr、36Nr 合、同 Nr、44 角合、88Nr、同龍まで 6 手。

c)94Nr、75 飛合、同 Nr、56Nr 合、98 飛、同龍まで 6 手。

d)18Nr、26 角合、同 Nr、34 角合、

97 角、同龍まで 6 手。

☆ 出題月に結果発表だった U274 と同じく、ナイトライダーを用いた白玉詰。そちらは飛車合、角合、香合をそれぞれ出す 3 題の対比だったが、こちらは 4 題。玉位置の違いで合駒が微妙に変化しつつも、最終手が同龍で統一されている。

☆ a と b がまずは兄弟の関係か。ナイトライダー合を取って、角合でフィニッシュの舞台を作り、ナイトライダー捨てで締める。c は 2 手目が飛車合に変わり、一手遅れでナイトライダーが 98 飛捨てに同龍の利きを作る。最後の d は角の連続合。これには意表を突かれた人が多いようだ。

☆ 87 龍と 99 玉という舞台は誰でも考える配置だと思うのだが、その舞台に双方のナイトライダーが入るだけでこんなに豊かな作品空間が形成されるのかと感心するほかない。

黒川：Nr の利きの確認が大変だが、d だけ Nr 合がなくてほっと一息 (?)。

星野：今回は同竜シリーズだが、最後の同竜のすかし詰が楽しい。

九尾：数ページ後の U274 の結果が大いに参考になりました。

及川：4 つとも受方はナイトライダーを合駒で打つと思っていたため、d) の手順を見つけるのに少々手間取りました。

第 2 回 Home Solving Tournament (4)

Continued from p.36

それぞれ 5 点満点です。

HST1

Ladislav Vetesnik

3rd prize Svetzor, 1891

1.Sc3! (2.R(x)f6) --- 1.0 pt

1...Kd6 2.Qd1+ --- 1.0 pt

1...Kxf4 2.Qh2+ --- 1.0 pt

1...Sb5 2.Rd4 --- 1.0 pt

1...f5 2.Qh2 --- 1.0 pt

HST2

Aleksandr Pankratiev & Josip Varga

1st prize Sahovski Glasnik, 1991

1.e3! (2.Rc5#)

1...Rxe3 2.f4

2...Qxf4 3.Sxe3+ --- 1.25 pt

2...Bxf4 3.Sxe5+ --- 1.25 pt

1...Bxe3 2.Bb3+

2...Rbxb3 3.Sxe3+ --- 1.25 pt

2...Raxb3 3.Sb6+ --- 1.25 pt

HST3

Isosif Krikheli

1st prize Probleemblad, 1970

1.Bg6 Rb5 2.Bd3 Rb7 3.Bd4 f1=S

4.Bg6 Rb5 5.Be4 Rb7 6.Be5

6...dxe5 7.Bg6 ---@

6...Rg7 7.Sf7+/Bf4+ ---@

@ = 4.0 / 5.0 pt

HST4

Ivan Khvalchev

Comm. Shakhmatnaya Moskva, 1959

1.c6 --- 1.0 pt

1...Bxd2 2.Bh5+ --- 1.0 pt

2...Kf2 3.cxb7 Bxf4+ 4.Kh1 --- 1.0 pt

4...b2 5.b8=Q Bxb8 6.Bd1 --- 1.0 pt

6...b1=B 7.Bc2 Ba2 8.Bb3 --- 1.0 pt

8...Bb1 9.Bc2 Bxc2 stalemate

HST5

Michal Dragoun

4th prize Horst Böttger & Reinhardt Fiebig

70 JT, 2007-2008

I) 1.Sbc3 Sxc6 2.Se3 Rf5 3.Kf3 Se5#

--- 2.5 pt

II) 1.Rcc3 Sxb5 2.Sxf4 Bf3+ 3.Kf5 Sd4#

--- 2.5 pt

Continued on p.58

Problem Paradise

Informal Tourney Award

Helpmate 2017

Judge: Zoran Gavriloški

I thank Mr Masato Yoshii for the invitation to judge the 2017 tourney of the prominent magazine *Problem Paradise*, in which 100 helpmates (35 h#s in 2 moves, 32 h#s in 2½-3 moves and 33 h#s in 3½-n moves) participated. They were published in the following issues:

No. 77 – 20 h#, nos. 881-900 (9 h#s in 2 moves, 3 h#s in 2½-3 moves, and 8 h#s in 3½-n moves);

No. 78 – 20 h#s, nos. 901-920 (8 h#s in 2 moves, 7 h#s in 2½-3 moves, and 5 h#s in 3½-n moves);

No. 79 – 30 h#s, nos. 921-950 (10 h#s in 2 moves, 11 h#s in 2½-3 moves, and 9 h#s in 3½-n moves); and

No. 80 – 30 h#s, nos. 951-980 (8 h#s in 2 moves, 11 h#s in 2½-3 moves, and 11 h#s in 3½-n moves).

In making the award I considered the problems from the view point of their artistic and strategic merit, paying attention to the elegance, harmony and depth of the play. Although most of the problems were publishable (with clear ideas, acceptable harmony of the play and a decently good construction), simple problem motives of play prevailed and on average the strategic merit

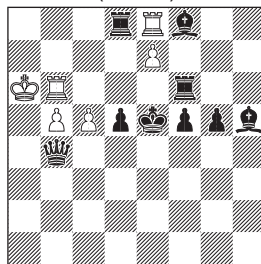
was not so prominent (particularly in the shortest section). I disregarded a number of problems with banal play without particular and/or well-related strategic motives, or problems with rude captures of black pieces, except where the captures are thematic (e.g. the Chumakov theme) or inherent in a particular matrix. Symmetry of the play, inadequate construction or familiar play were drawbacks featuring in some problems.

The average quality of the problems ranges from modest to moderate and very good, but there were no genuine masterpieces. I decided to split the problems in 3 sections in order to make easier their evaluation.

Helpmates in 2 moves

Prize

H889 Michel Caillaud
C+ (France)



H#2 3sols (6+9)

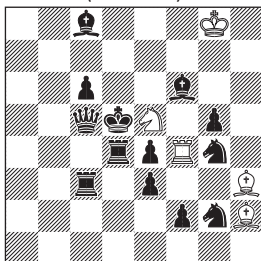
- 1.Bf7 Re6+ 2.K:e6 e:f8S#
1.Rg6 Rf6 2.K:f6 e:f8Q#

1.Q:c5 Rd6 2.K:d6 e:d8Q#

Triple sacrifice by the pinned white rook allows the black king to step onto the 6th rank, and then white promotion mates follow. This content partially excuses the variety of effects at the B1 move: interference with a self-block after 1.Rg6, a self-block after 1.Bf7 and elimination of a wP by 1.Q:c5.

1nd Honourable Mention

H930 Abdelaziz Onkoud
C+ (Morocco)



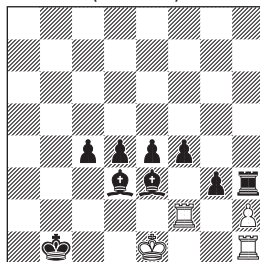
H#2 4sols (5+13)

1.S:e5 R:f6 2.Sd7 Be6#
1.S:f4 S:g4 2.Sd3 S:e3#
1.Bf5 R:e4 2.K:e4 B:g2#
1.Ke6 Rf5 2.K:f5 B:g4#

Two pairs of solutions with: I) clearing of d6-h2 line by means of annihilation of one white piece and play by the remaining one, and vice versa; II) sacrifice of the white rook to the black king in order to allow a mate by w.Bh3. The problem's value is decreased by the lack of harmony in some half-moves.

2nd Honourable Mention

H906 Karol Mlynka
C+ (Slovakia)



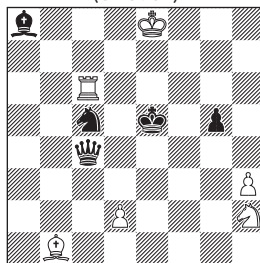
H#2 5sols (4+9)

1.Bc2 R:c2 2.Bd2+ K:d2#
1.Bd2+ R:d2 2.Be2 K:e2#
1.g:h2 Re2 2.Bf2+ K:f2#
1.Kc1 h:g3 2.Bb1 0-0#
1.Bf1 K:f1 2.Kc1 Kg2#

The white king is involved in all five mates, including the castling in one solution. A worthwhile task, but the play involves a number of captures of black units.

3rd Honourable Mention

H958 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



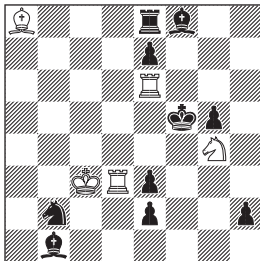
H#2 3sols (6+5)

1.Qe6+ (Se6?) Kf8 2.Kf6 Sg4#
1.Se4 (Qe4?) Sg4+ 2.Kf5 Rf6#
1.Kd4 Rd6+ 2.Bd5 (Qd5?) Sf3#

Triple self-pin of black pieces with a choice of black self-pinning move. The difference between the anticipated self-pin in two solutions and the different pin in the third solution diminishes the harmony of the play.

4th Honourable Mention

H887 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



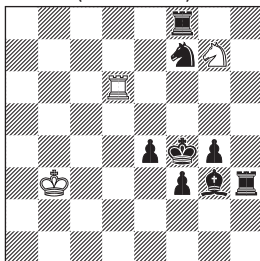
H#2 4sols (5+10)

- 1.K:e6 Rd8 2.Bf5 Rd5#
- 1.K:g4 Rd4+ 2.Kh3 R:e3#
- 1.R:a8 Rf6+ 2.Ke4 Rd4#
- 1.S:d3 Bd5 2.Sf4 S:e3#

A fourfold Zilahi is notable achievement, but the non-harmonious play detracts from the overall impression.

5th Honourable Mention

H955 Zivko Janevski
C+ (Macedonia)



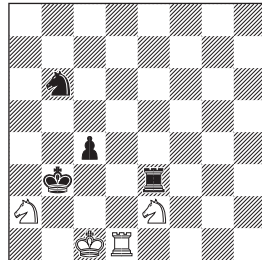
H#2 4sols (3+8)

- 1.Kg5 Rd5+ 2.Kh4 Rh5#
- 1.Bh4 Rd2 2.Kg3 Sh5#
- 1.Se5 Rd3 2.Rf5 Se6#
- 1.Ke5 Kc4 2.Bf4 Re6#

A well-constructed problem with two pairs of mates on the same squares (h5 and e6).

Commendations without order (given below in the order of appearance):

H882 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



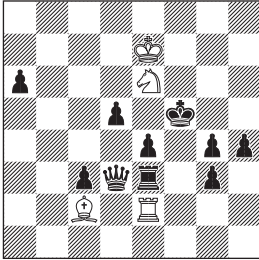
H#2 (4+4)

- b) wRd1→a1
- c) b)+ wKc1→e1

- a) 1.K:a2 Sc3+ 2.Ka1 Kc2#
- b) 1.Sd5 Kb1 2.Sb4 Sac1#
- c) 1.Kc2 Sac3 2.Kd3 0-0-0#

The successive twinning movement of wK and wR to their game array squares allows them to return to the diagram's squares through castling in the third twin. The non-harmonious play in this context should be excused.

H907 Gennady Chumakov
C+ (Russia)

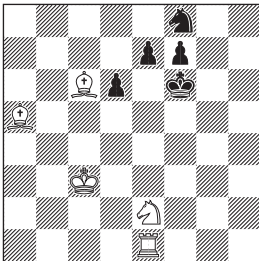


H#2 (4+10)
b) bKf5→e5

- a) 1.Rf3 R:e4 2.Qe3 R:e3#
- b) 1.Qb5 B:e4 2.Rd3 B:d3#

Hideaways at B1 moves, reciprocal battery creation at W1 moves, sacrifice of a black piece at B2 moves and a capturing battery mate. A nice and well-constructed problem.

H923 Zivko Janevski
C+ (Macedonia)

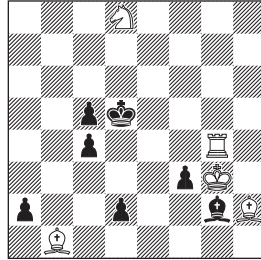


H#2 2sols (5+5)

- 1.e5 Bd8+ 2.Ke6 Sd4#
- 1.e6 Sf4 2.Ke7 Sd5#

Nice pin mates (the chameleon echo is partial because only three units change the colour of squares).

H927 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)

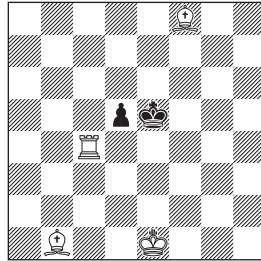


H#2 2sols (5+7)

- 1.a1B Kh4 2.Bd4 Be4
- 1.d1R Kf2 Rd4 Rg5#

A good anti-dual play of wK on the W1 move is determined by the choice of a promoted black unit which at the B2 move self-blocks d4.

H951 Miloje Ilic
C+ (Serbia)

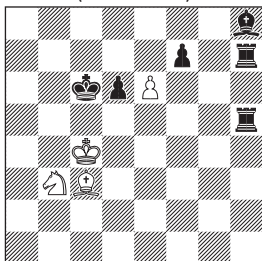


H#2* 3sols (4+2)

- * 1...Rc3 2.Kd4 Bg7#
- 1.Kf6 Rh4 2.Kg5 Be7#
- 1.Ke6 Rc8 2.Kd7 Bf5#
- 1.d4 Bf5 2.Kd5 Rc5#

A nice miniature with model mates.

H953 Nikola Stolev
C+ (Macedonia)



H#2 2sols (4+6)

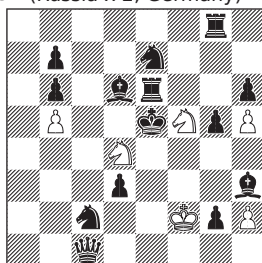
- 1.f6 Ba5 2.Rb7 Sd4#
1.f5 Bd4 2.Rc7 Sa5#

Bivalve at B1 moves and exchange of squares of arrival of white pieces.

Helpmates in 2½ and 3 moves

1st Prize

Viktor Chepizhny, Valery Kirillov
H969 Rolf Wiehagen
C+ (Russia x 2, Germany)



H#3 (6+14)
b) wKf2→d3

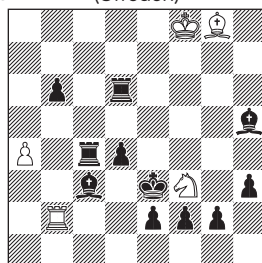
- a) 1.Ke4 S:c2 2.Re5 Kg3 3.Sd5 S:d6#
b) 1.Kf4 Sg3 2.Be5 Ke2 3.g4 S:e6#

Black Grimshaw and Chumakov theme would be sufficient to make no more than a decently good problem in this scheme if it weren't for the thematic

tries which fail because White lacks a tempo move: in a) 1...Se2? guards f4 (not e3 as 1...S:c2 does) and the wK must not move in order to continue to guard e3, but there is no tempo move after 2.Re5; in b) 1...Sh4? guards f3 (not e4 as 1...Sg3 does) and the wK must not move in order to continue to guard e4, but there is no tempo move after 2.Be5. The heavy position and the heavy twinning, as well as the non-thematic capture on c2 are unpleasant, but apparently unavoidable.

2nd Prize

H959 Christer Jonsson
C+ (Sweden)



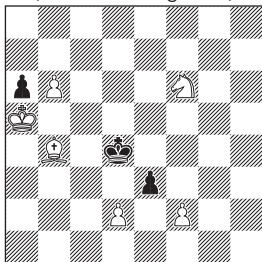
H#2.5 3sols (5+11)

- 1...R:e2+ 2.K:e2 Bh7 3.Kf1 Bd3#
1...Rb5 2.Kd3 B:c4+ 3.K:c4 Se5#
1...S:d4 2.K:d4 Rb4 3.Kc5 R:c4

Cyclic Zilahi is always a nice achievement, but the white play is not uniquely timed (there are two sacrifices at W1 moves and one white sacrifice at W2 move) and the harmonious black play lacks strategy (only the black king plays).

3rd Prize

H937 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



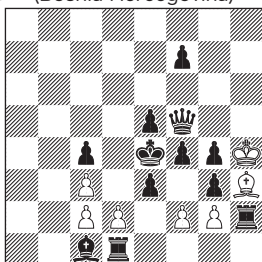
H#3 3sols (6+3)

- 1.e:f2 Ba3 2.f1B+ Kb4 3.Bd3 Bb2#
1.e2 K:a6 2.e1S Kb5 3.Sd3 Bc3#
1.e:d2 b7 2.d1R b8Q 3.Rd3 Qf4#

Mixed AUW with three minor promotions of the same pawn on three different squares and self-blocks by the promoted pieces.

1st Honourable Mention

H909 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



H#2.5 2sols (7+12)

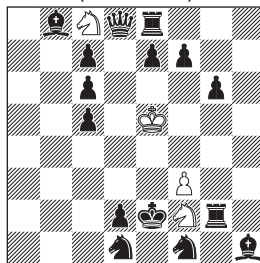
- 1...d4 2.g:h3 d5 3.R:d5 f3#
1...d:e3 2.R:g2 e:f4 3.B:f4 B:g2#

Interesting mixed Bristol with sacrifice by the front piece (w.Pd2) is motivated by the need to allow the b.Rd1 and b.Bc1 to self-block d5 or f4,

respectively.

2nd Honourable Mention

H968 Nikola Stolev
C+ (Macedonia)



H#3 (4+15)

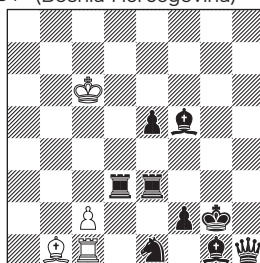
b) bKe2→h2

- a) 1.Ke1 S:d6 2.e:d6+ Kf4 3.Re2 Sd3#
b) 1.Kg1 Sb6 2.c:b6+ Ke4 3.Bh2 Sh3#

Checks to the white king (the 10th WCCT theme) with a harmonious play involving sacrifices by wSc8 in order to open the line of bR or bB and black square vacation. The twinning by moving the bK prevented higher ranking.

3rd Honourable Mention

H913 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



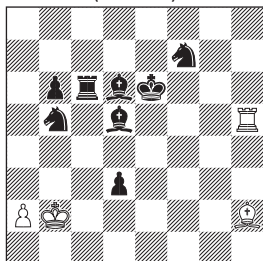
H#3 2sols (4+9)

- 1.Kf3 c4 2.Ke4 c5 3.Qf3 Rc4#
1.Re4 c:d3 2.Kf1 d:e4 3.Qg2 Bd3#

White Bristols with wP as a front piece and nice pin mates.

4th Honourable Mention

H912 Valery Kopyl
C+ (Ukraine)



H#3 (4+8)
b) wPa2→a3

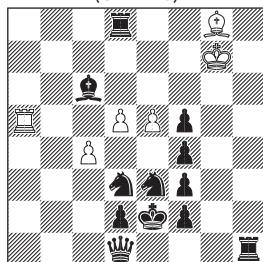
- a) 1.Bb3 Be5 2.Kd5 Bc3+ 3.Kc4 a:b3#
- b) 1.Bb4 Re5+ 2.Kd6 Re4+ 3.Kc5 a:b4#

Sacrifices at B1 moves, black square vacation, white Grimshaw and mates by the white pawn.

pieces at W2 moves is inherent into the scheme and in such a context it does not detract a lot.

6th Honourable Mention

H941 Valery Kopyl
C+ (Ukraine)



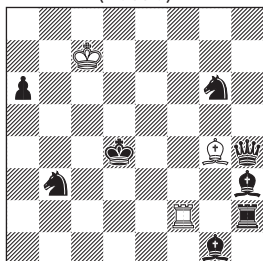
H#3 2sols (6+12)

- 1.S:e5 d6 2.S5:c4 Re5 3.Re1 B:c4#
- 1.S:c4 d:c6 2.Sc:e5 Bc4 3.Rf1 R:e5#

Nice pinning strategy, but the play is familiar, Perhaps the double capture of wPs is novel?!

5th Honourable Mention

H911 Aleksandr Pankratjew
C+ (Russia)



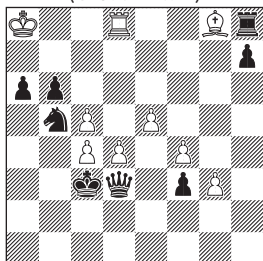
H#3 2sols (3+8)

- 1.Kc3 Bf5 2.Qb4 R:h2 3.Bd4 Rc2#
- 1.Kd5 Re2 2.Bc5 B:h3 3.Qd4 Be6#

White pieces open the respective line to black line pieces. The capture of black

1st Commendation

H915 Christopher J. A. Jones
C+ (Great Britain)



H#3 (9+8)
b) bSb5→e3

- a) 1.Q:d4 Rd5 2.K:c4 R:d4+ 3.K:c5 Rc4#
- b) 1.Q:c4 Bd5 2.K:d4 B:c4+ 3.Ke4 Bd3#

White Grimshaw allows the black king to step onto c4 or d4. There are delayed Umnov mates, but in one solution the wR mates on the square c4 that was vacated by the bK at B2 move and in the other solution the wB mates on the square d3 that was vacated by the bQ at the B1 move.

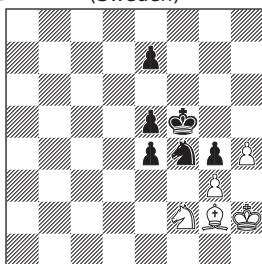
1.a:b1B Ra8 2.Ba2 Rf1 3.Bd5 Re8#
 1.c:b1S Rc4 2.Sc3 Rf1 3.Sd5 R:e4#

Minor promotions and self-blocks by the promoted pieces.

Helpmates in 3½ and more moves

2nd Commendation

H890 Christer Jonsson
 C+ (Sweden)



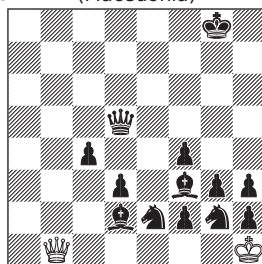
H#3* (5+6)

1...S:g4 2.Sg6 Sf6 3.e:f6 Bh3#
 1.Sh5 Bf3 2.g:f3 Sd1 3.Kg4 Se3#

Zilahi and model mates in at an attractive format involving set and actual play

1st Prize

H895 Zlatko Mihajloski
 C+ (Macedonia)



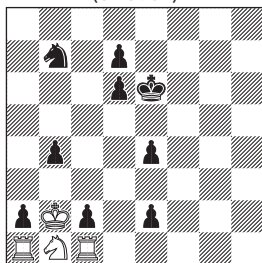
H#5 (2+13)

1.Kh8 Qb6 2.f1R+ Qg1 3.Ra1 Qb1 4.Ra8 Qb6 5.Rg8 Qh6

Triangulation by wQ, bicolour Bristol, Klasinc and Rehm themes. A superb combination!

3rd Commendation

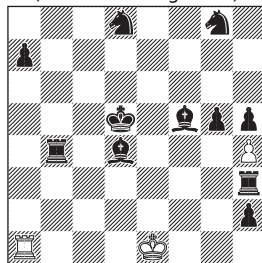
H939 Christer Jonsson
 C+ (Sweden)



H#3 2sols (4+9)

2nd Prize

H894 Fadil Abdurahmanovic
 C+ (Bosnia Hercegovina)



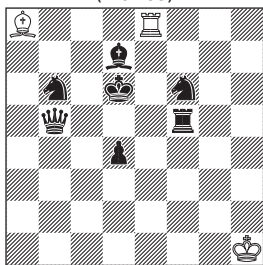
H#4 4sols (3+11)

1.Kc4 0-0 2.Kb3 Rd3+ 3.Ka2 R:h3 4.Rd6
Rc2#
1.Ke4 Rd1 2.Kf3 R:d4 3.Kg2 Rd1 4.Kh1
Kh2#
1.Kc6 Ra5 2.Kb7 R:f5 3.Ka8 Rc5 4.Sb7
Rc8#
1.Ke6 h:g5 2.Kf7 g6+ 3.Kg7 R:a7 4.Kh8
Rh7#

The black king arrives to all 4 corners of the chessboard. However, the play is rather mechanical.

3rd Prize

H893 Michel Caillaud
C+ (France)



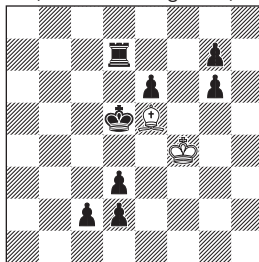
H#3.5 2sols (3+7)

1...Bg2 2.Rd5 Re3 3.Kc6 Rf3 4.Rd6
Rc2#
1...Re1 2.Qe5 Bf3 3.Ke6 Be2 4.Qd6
Bc4#

Extended Indian battery creation, anticipatory self-pin and unpin by masked battery creation.

1st Honourable Mention

H945 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



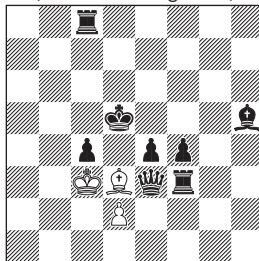
H#4.5 2sols (2+8)

1...Bb8 2.Kc4 Ke5 3.Rb7 Kd6 4.Kc3 Kc5
5.Rb3 Be5#
1...Kg3 2.Ke4 Bf4 3.Kf5 Bh6 4.Kf6 Kf4
5.Rf7 Bg5#

Klasinc in one solution and related white play in the other solution.

2nd Honourable Mention

H917 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



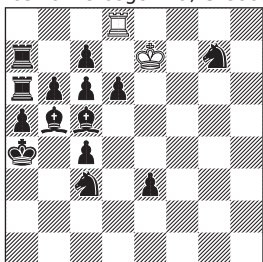
H#4.5 (3+8)

1...Kb2 2.Qc5 Bb1 3.e3 Kc2 4.Ke4 d4
5.Qd5 Kc3#

Interesting combination of the Indian theme and cyclic change of places of three black pieces.

3rd Honourable Mention

Fadil Abdurahmanovic
H896C+ Ioannis Kalkavouras
 (Bosnia Hercegovina, Greece)



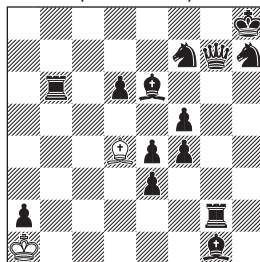
H#5 (2+14)

1.Ba3 R:d6 2.Kb4 Rh6 3.Kc5 Kf6 4.Kd6
 Rh8 5.Bc5 Rd8#

Black Klasinc and wR' s round-trip determined by the need to capture a bPd6 in order to allow the black king to arrive on d6.

5th Honourable Mention

H950 Zlatko Mihajloski
 C+ (Macedonia)



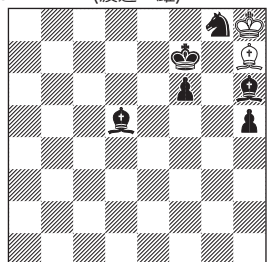
H#6.5 (2+14)

1...Bb2 2.d5 K:a2 3.Rd6 Kb3 4.Qc3+
 K:c3 5.Kg7 Ba3 6.Kf6 Bc5 7.Ke5 Bd4#

Mihajloski theme with round-trip switchback of the white bishop on d4. The author managed to show his own theme in better and even two-solution settings.

4th Honourable Mention

H916 Kazuo Watanabe
 C+ (渡邊一雄)



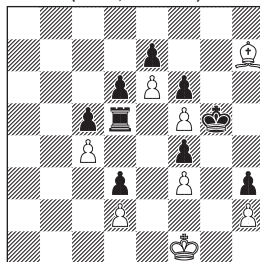
H#4 2sols (2+6)

1.h4 B:g8+ 2.Kg6 B:d5 3.Kh5 Kh7
 4.Bg5 Bf3#
 1.Bg5 Bf5 2.Sh6 Be6+ 3.Kg6 Bg8 4.Bf7
 Bh7#

Good play by the white bishop, including one round-trip.

6th Honourable Mention

H948 Kostas Prentos
 C+ (Ioannis Kalkavouras (USA, Greece))



H#5.5 (8+9)

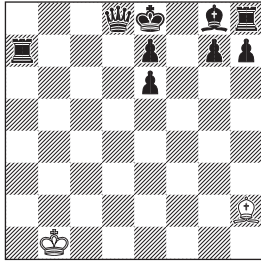
1...Bg8 2.K:f5 Bh7+ 3.K:e6 B:d3 4.Rg5
 Be2 5.Kf5 d4 6.e6 Bd3#

Two switchbacks by the white bishop and Klasinc theme with bK and bR. The rather heavy setting seems necessary,

but still the position does not look nice.

1st Commendation

H975 Fadil Abdurahmanovic
C+ (Bosnia Hercegovina)



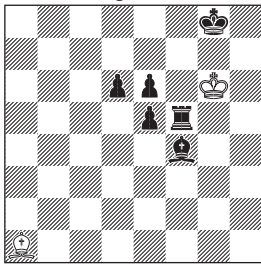
H#5 (2+9)

1.Bf7 Be5 2.0-0 B:g7 3.Re8 Bh6 4.Kh8
Bf4 5.Bg8 Be5#

Black Klasinc involving castling, exchange of the squares of the castling pieces and white bishop' s round trip.

2nd Commendation

Fadil Abdurahmanovic
H898C+ Bernd Ellinghoven
(Bosnia Hercegovina, Germany)



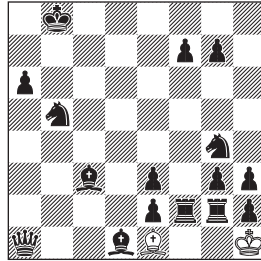
H#6 (2+6)

1.e4 Bh8 2.Rd5 Kf6 3.Kh7 Ke7 4.Kg6
Kf8 5.Kf5 Kg7 5.Ke5 Kg6#

A nice lightweight with the Indian theme and triangulation by the white king.

3rd Commendation

H980 Milomir Babic
C+ (Serbia)



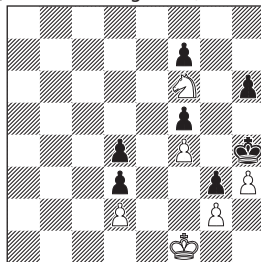
H#8 (2+16)

1.Ka7 B:c3! 2.e1B! B:g7 3.Bf3 Be5
4.Bb7 B:g3 5.Qh8 B:f2 6.Qa8 Bh4 7.Bg3
Be3 8.Bb8 Bc5

Black Phoenix and bicolor Bristol wB-bQ & wB-bB in a white minimal (but black maximal) setting.

4th Commendation

Fadil Abdurahmanovic
H899C+ Gennady Chumakov
(Bosnia Hercegovina, Russia)



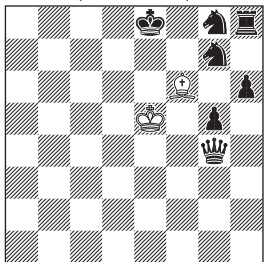
H#6 (6+7)

1.h5 Sg4 2.f6 Sh2 3.g:h2 Kf2 4.h1S Kg1
5.Sf2 Kh2 6.Sd1 g3#

Attractive tempo play by the promoted black knight.

5th Commendation

H974 Petre Stojoski
C+ (Macedonia)



H#5 (2+7)

1.h5 Bd8 2.Sh6 Kf6 3.0-0+ Kg6 4.Kh8
Bf6 5.Sg8 B:g7#

Black Klasinc with castling – somewhat similar, but thematically inferior in comparison with H975.

I thank all the participants for their contribution to the tourney and I congratulate the authors of the honoured problems.

Zoran Gavrilovski
International judge of FIDE
In Skopje, 3 October 2020

[From the Editor: Thank you, Zoran, for your exemplary award. It will be finalized after usual three months.]

第2回 Home Solving Tournament (5)

Continued from p.46

HST6

Milomir Babic
2nd HM Šachove umeni, 2007
I) 1.e1=R Bh2 2.Rf1 Bd6 3.exd6 e7
4.Ke1 e8=Q 5.d1=R Qxe3# --- 2.5 pt
II) 1.Ke1 Bxe3 2.d1=Q Bb6 3.cxb6 c7
4.Qd4 c8=Q 5.Qf2 Qc1# --- 2.5 pt

HST7

Ilvan Brjuhanov
3rd prize Sakkelet, 1994
1.Sc6! (2.Qc6+ Ke6 3.Sb5+)
--- 1.25 pt
1...Bxa4 2.Sf6+ Kxd6 3.e8=S+
--- 1,25 pt
1...Rxc5 2.Rd4+ Kxd4 3.Qc4+
--- 1.25 pt
1...Se6 2.Qa8+ Kc5 3.Bb6+
--- 1.25 pt

HST8

Mihailo Stojnić
2nd HM YU-2001
1.cxd4! (2.Qe5+ Kxg6 3.Qh5+ Bxh5#)
1...Sd2 2.Rg5+ Bxg5 3.Sg3+ fxg3
4.Qe4+ --- 1.25 pt
1...Sc3 2.Bxc8+ Rxc8 3.Sd6+ cxd6
4.Qe4+ --- 1.25 pt
1...Bxf6 2.Rxf6+ Kg4 3.Qg8+ Kxh3
4.Rh6+ --- 1.25 pt
1...Bg5 2.Sd6+ cxd6/Sxd6 3.Rxcg5+
Kxg5 4.Qh5+ --- 1.25 pt

参加者は小林敏樹、中嶋正和、藤原俊雅、前嶋啓彰の4名。小林さんと藤原さんが、ヘルプ2問を完答で10点を獲得しました。

Fairy condition Anticipated (Anticipés)

Eric Huber

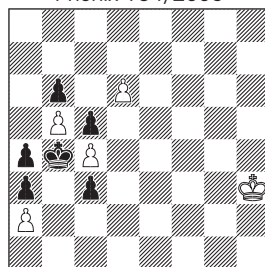
The fairy condition *Anticipés* (let's call it *Anticipated* in English) was invented by Roméo Bedoni in 2006. It was chosen as the theme of the Messigny 2006 fairy composition tourney. Five examples composed by the inventor and the problems awarded at Messigny by judge Denis Blondel were published in the French magazine *Phénix* 154 - Sept-Oct. 2006. The fairy condition seemed promising enough. However, only one problem with this condition was composed after Messigny 2006. The readers may judge whether that is regrettable or not in the following presentation.

In this fairy condition Anticipated, a King is in check when the other side can capture him on the next move (as per chess rules) and also when the other side can capture him playing two moves in a row. Christian Poisson proposes a shorter definition in Winchloe: "A king is also in check if he can be put in check." By the way, all problems of this article were checked with Winchloe 3.51.

The Anticipated rule has pretty disturbing effects. Some innocuous-looking moves actually give check or pin other pieces. Long-range officers rule the board, but even a Knight can do some real damage.

Let's consider the simple direct mate in 2, **A**.

A. Roméo Bedoni
Phénix 154/2006



#2 (5+6)
Anticipated

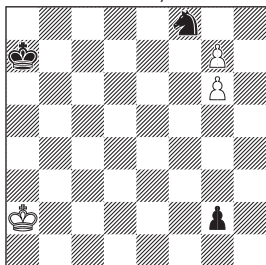
1.d7! ZZ
1...c2/Kxc4 2.d8=Q#
1...Ka5 2.d8=S#

The key is obviously **1.d7!** and Black is in zugzwang. 1...c2 opens the d2-b4 diagonal for a check in two moves by wQd8. 1...Kxc4 opens even more lines for the wQ.

1...Ka5! 2.d8=Q+ would only be check (via a8 or b6), because the black King can find a safe harbor back in b4. Only the Knight promotion gives mate, but it is still a surprising mate.

A side is stalemated when it no longer has any legal move and its King is not threatened. In Anticipated, this can lead to pretty original positions. Bedoni showed it in the helpstalemate **B**.

B. Roméo Bedoni
Phénix 154/2006



h=2.5 (3+3)
Anticipated

1...g8=B 2.g1=B g7 3.Bb6 gxf8=B =

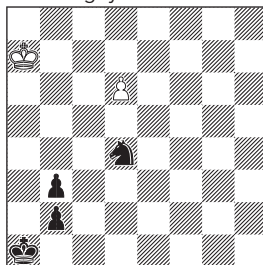
Note that promoting to Queen by 1...g8=Q would be a very bad idea, because it gives mate. The wQg8 gives check (via f7/g7/h7) and guards the squares a6, a8, b6, b7, b8 (via squares b3, c4, d5, e6, f7). 2.Sd7 would not be a legal move, since it opens another line to the bK via b8/a8.

After **1...g8=B**, all white squares around the black King are forbidden: they are guarded by wBg8.

In the final position, after any move by bBb6 the black King would be under check by wBf8 via c5. This means that bBb6 is pinned. The pin line is the broken line f8-c5-a7.

Problems of all types were awarded at the fairy tourney in Messigny 2006. I have chosen **C** that is not too complicated and presents changed promotions. The judge reproached the composers with the diagram position, in which the white King is in check (by bSd4 via b5/c6).

C. Jacques Dupin
Guy Sobrecases
Messigny 2006 Comm



hs#3 2sols (2+4)
Anticipated

1.Kb6 b1=B 2.d7 b2 3.d8=R+ Ba2#
1.Ka8 Sc6 2.d7 b1=B 3.d8=Q+ Sxd8#

Until the 3rd move, everything looks orthodox. **1.Kb6 b1=B 2.d7 b2 3.d8R+** gives check via a8 and Black can just close the line by **3...Ba2#**. In the final position Black gives check by threatening b1=R/Q and the bSd4 does a wonderful job guarding the dark squares a5-a7-c5-c7, while bBa2 guards a6.

1.Kb6 b1=Q? would pin wPd6 and thus stalemate White (check it, all flights are guarded by bQb1 and bSd4). Promoting to Queen on the 3rd move leads to opposite results: 3.d8=Q+? Ba2+ 4.Qxd4# pins the black pawn... and gives mate.

After **1.Ka8 Sc6** the white King is confined to the corner. **2.d7 b1=B 3.d8=Q+ Sxd8#** mate by the bBb1. The wQd8 gives check via a5 and d4/h8, forcing its capture by bSc6. Only the Q-promotion works: 3.d8=R would not even give check.

After Messigny 2006, it seems that no new problem with Anticipated was

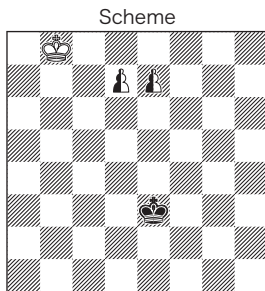
composed until Christian Poisson's proof game in "**562 Parties Justificatives Homebase**" in 2019. The PG in 4.5 moves is short and nevertheless sweet: 1.d4 Sc6 2.Kd2 Sxd4+ 3.Kd3 Sc6+ 4.Kd2 Sb8 5.Ke1+ and both bSb8 and wKe1 have returned back home.

None of the 2006 problems featured neutral pieces, probably for two reasons:

1. the fairy condition was not yet programmed in Winchloe
2. the combination Anticipated + neutral unit is more complex than it looks.

The simple position of **D** seems appropriate for readers to test their grasp of the fairy condition.

D.



hs#2 (1+1+2)
Anticipated
Neutral Ps

1.e8=nS Kf4 2.d8=nB+ Kf3#

First some observations about the initial position.

1.d8=nS?? is illegal because of self-check (nSd8 gives check to the wK via c6)

1.d8=nB ?? is illegal for the same reason (nBd8 gives check to the wK via c7). If the white King stood on b7, then 1.d8=nB would give check to the black

King (via b6).

Is the diagram position legal? 1.e8=nR/nQ would give check to the black King and it's White to move! But 1.e8=nR/nQ would be a self-check to wKb8, therefore the black King is safe. If the white King stood on b7, then the position would be illegal with White to move.

1.e8=nS Kf4 2.d8=nB+!

Important point: nBd8 doesn't give check via c7 (illegal with wKb8) but via g5. Let's check all possible black moves. 2...nBa5/b6/e7/f6/h4 are illegal because the nB still gives check to the bK 2...nSf6 is illegal because of the self-check by nSf6 via d5/h5 2...Ke5/Ke3/Kg3 are also illegal, all those dark squares are guarded by nBd8! 2...Ke4/Kg4/Kf5 are also illegal, the squares are guarded by nSe8 via f6 and d6

Only a quiet King move remains, that delivers a mirror mate : **2...Kf3#**

In the final position nBd8 gives check to wKb8 via c7 and also guards flights c7 and a7, while nSe8 guards the white squares a8-b7-c8 via d6 and c7.

If you enjoyed this scheme, please check the original hs#3 published in the same issue, where very similar mates are delivered in two solutions. For the readers interested in composing problems with the Anticipated condition, exploring the pins on broken lines would probably be worthwhile.

Eric Huber
Bucharest, October 3rd 2020

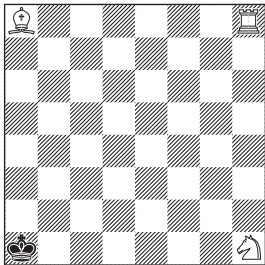
Silence, on tourne !

Sébastien Luce

In a chess game, the four pieces having the most differentiated movements are the King, the Rook, the Bishop and the Knight, as the Queen can be viewed as the combination of a Rook and a Bishop.

It is interesting to make these beautiful figures play together. And the temptation is great to start by placing them in the four corners.

SL1 Sébastien Luce
C+ Original



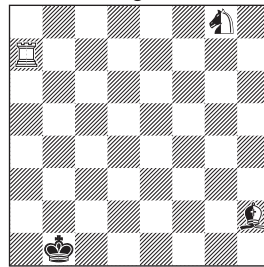
H#6.5 (3+1)
White Maxi-Minimum
Reversed ABC

1...Rh2 2.Kb1 Rg2 3.Kc1 Sg3 4.Kd1 Sh5
5.Ke1 Sf4 6.Kf1 Rf2+ 7.Kg1 Sh3#

In this first example, two fairy conditions are used. They are both restrictive in nature (which is not the case with all conditions). The first, Reverse ABC, will force Rook h8 to play the first move. The second, White Maxi-minimum will force White to play 1...Rh2 or 1...Rb8. The solution is unique

starting with 1...Rh2 then the black King goes along the first row to g1 and is checked by the Knight while the other two white pieces guard flights.

SL2 Sébastien Luce
Original



H#4.5 (1+1+2)
Vertical Mirror Circe
ABC
Neutrals

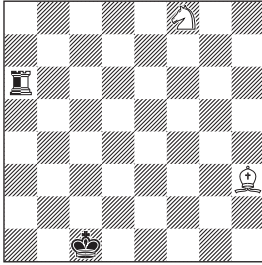
1...Ra2 2.Kc1 Rxh2(nBc8) 3.Kb1 nBf5+
4.Ka1 nBh7 5.nSh6 Ra2#

Still staying under the sign of the square, but by turning a notch to the left, and using this time a neutral Bishop and a neutral Knight, another problem arises with different content!

While the first turn move (... Ra2) is similar with the previous problem, the black King will take a step to the right to then come back to be mated in the corner a1 by the Rook which performs a long switchback a2-h2-a2 (Kozahkin), which is allowed under ABC rules by the "deportation" of the two neutral pieces on the last file. The mating Rook a2

can't be captured, because its rebirth square is a1 in Vertical Mirror Circle.

SL3 Sébastien Luce
Original

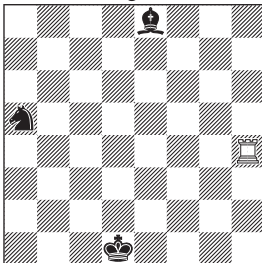


H#5 (2+1+1)
ABC
Neutral R

1.nRa2 nRg2 2.Kd1 Se6 3.Ke1 Sg5 4.Kf1 nRh2+ 5.Kg1 Sf3#

We turn a notch again, and the first move is still the same, but this time played by black and by a neutral Rook. On the next move, it will move again, played by White, and in g2 allowing the black King to get to f1. The Rook will eventually deliver a discovered check, realizing the old Anderssen theme.

SL4 Sébastien Luce
Original

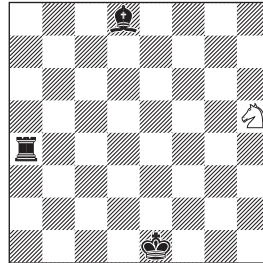


H#14 (1+3)
PWC
Black Maxi-minimum
White Maxi-minimum

1.Ba4 Rxa4(Bh4) 2.Kd2 Rxa5(Sa4)
3.Bd8 Rh5 4.Kd3 Rg5 5.Ba5 Rxa5(Bg5)
6.Kd4 Rxa4(Sa5)+ 7.Sc4 Ra8 8.Kd3 Rb8
9.Bc1 Rb1 10.Kc3 Rxc1(Bb1)+ 11.Kb2
Rh1 12.Ka2 Rh2+ 13.Sb2 Rxb2(Sh2)+
14.Ka1 Ra2#

We're still turning, and this time the solution is much longer with totally different effects. The combination of the two Maxi-minimum conditions gives the play an alternation of long then short moves, while thanks to PWC six place exchanges occur in order to achieve the final mate where the King is tamed in a1 by the self-protected Rook a1 (under PWC rules).

SL5 Sébastien Luce
C+ Original



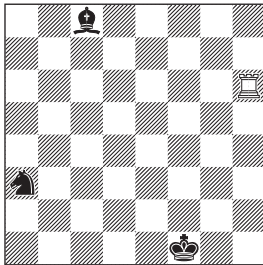
H#3.5 (1+3)
Masand
b) wBd8, bSh5

a) 1...Sf4 2.Rb4 Sd3(wRb4)+ 3.Kf1 Sf4
4.Bb6 Rb1(wBb6)#
b) 1...Bc7 2.Rh4 Bh2 3.Sf4 Bg3(wRh4,
wSf4)+ 4.Kf1 Rh1#

This problem uses the Masand condition (invented by P. A. Petkov) which allows side color changes, following a direct check. In the first twin,

the white Knight will deliver the initial check, in second [chromatic] twin it will be the Bishop. The solutions end in two nice mirrored echo mates.

SL6 Sébastien Luce
Original



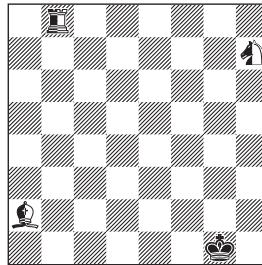
H=6 (1+3)
White Must Check, except for reaching the aim
Turncoats Circe

1. Ba6 Rf6+ 2. Kg2 Rg6+ 3. Kh3
Rxa6(wBc8)+ 4. Kh4 Ra4+ 5. Sc4
Rxc4(wSg8)+ 6. Kh5 Rg4=

We turn a notch again, this time for a stalemate. With this aim it is obviously necessary to add to the mandatory White Must Check condition the restriction "... except for reaching the aim".

The white Rook captures the two black figures at the right time to reborn them as white figures... with check! Once the white trio is reunited, the stalemate is possible.

SL7 Sébastien Luce
C+ Original

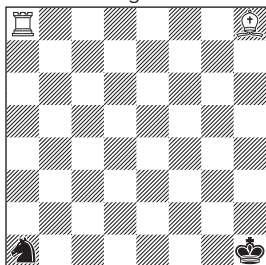


H#2.5 2 sols (0+1+3)
Black Reversed ABC
Black Disparate
Neutrals

1...nRh8 2.nSg5 nBc4 3.nRh2 nSf3#
1...nBg8 2.nSf6 nSg4 3.nBd5 nRb1#

The two conditions are strongly constraining: while on the first White move, one of the three neutral pieces can play, in the second Black move, only the neutral Knight h7 can (due to the Black Reverse ABC condition), leading to two variants with model mates. The mating neutral piece cannot leave its position due to the Black Disparate condition. Note that in the second variant, two Knight moves are played in a row, which is allowed with Black Disparate. It would not be the case with White Disparate.

SL8 Sébastien Luce
Original

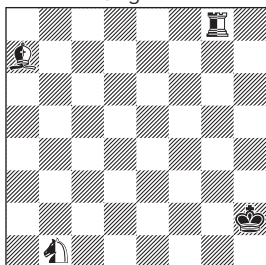


H#8 (2+2)
White Must Check

- 1.Sc2 Ra1+ 2.Kg2 Rg1+ 3.Kf2 Bd4+
- 4.Se3 Rf1+ 5.Kg3 Rf3+ 6.Kh2 Rf2+
- 7.Sg2 Be5+ 8.Kh1 Rf1#

Let's end the first "rotating series" with a single-condition problem, constraining White. Surprisingly, the black Knight will be able to come to g2 to block this flight in a unique route, by parrying the checks delivered by the Rook at the right time.

SL9 Sébastien Luce
C+ Original



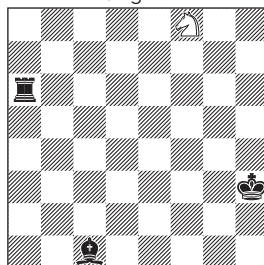
H#3.5 (0+1+3)
Vertical Mirror Circe
White Must Check
Neutrals

- 1...nBg1+ 2.Kh1 nRxb1(nBc8)+
- 3.nRxb1(nSg1) nSe2+ 4.nRb7

nBxb7(nRh8)#

Delivering mate with neutral pieces is always difficult. In SL9 the task is achieved with double check (and impossible "return" of one of the neutral pieces).

SL10 Sébastien Luce
C+ Original

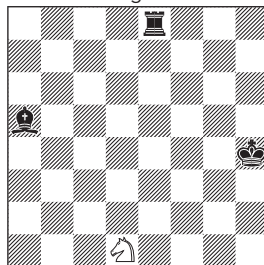


H#10 (1+3)
White Must Check
Turncoat Circe

- 1.Kh4 Sg6+ 2.Kg4 Se5+ 3.Kf4 Sd3+
- 4.Ke4 Sc5+ 5.Kd4 Sb3+ 6.Kd3
- Sxc1(wBf8)+ 7.Kc3 Bg7+ 8.Rf6
- Bxf6(wRh8)+ 9.Kb4 Bc3+ 10.Ka3 Ra8#

In SL10, we have the same scenario as in SL6, but with a longer solution.

SL11 Sébastien Luce
C+ Original

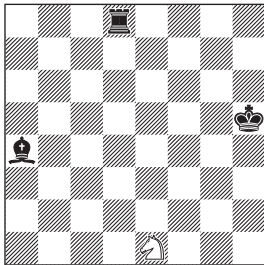


H#6.5 (1+3)
Turncoat Circe
Black Maximum

1...Se3 2.Be1 Sc2 3.Re2 Sxe1(wBf8)
 4.Re8 Sg2+ 5.Kg3 Bc5 6.Re1 Bf2+
 7.Kh2 Sxe1(wBh8)#

White Knight uses a classical theme in Maximum: it "cuts the line" of the black Rook, in order to allow the play of the black Bishop. Two captures provoke the change of color of the black pieces (Turncoat Circe effect), the last one giving mate.

SL12 Sébastien Luce
 C+ Original

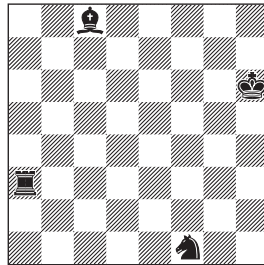


H#3 (1+3)
 Einstein
 Turncoat Circe

1.Bc2=S Sxc2=B(wSg8)
 2.Rxg8=Q(bSb1) Bxb1=R 3.Qg1=R
 Rxg1=Q(wRh8)#

Despite a short solution, the combination of the two conditions of SL12 gives a rich play, with the pieces dancing up and down the board!

SL13 Sébastien Luce
 C+ Original

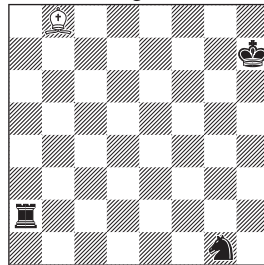


SH#6 (0+4)
 Chameleon FML

1.Rg3 2.Rg7 3.Sg3=wS 4.Rg4
 5.Rg7=wR 6.Bg4=wB Sf5#

This rare condition (SL13) allows here a "completely black position", but with three changes of color at the end! Chameleon FML: Any piece excepting the King which plays on the square just left by another piece, changes color.

SL14 Sébastien Luce
 C+ Original



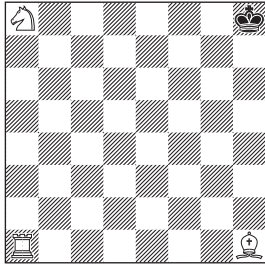
H#9 (1+3)
 Masand
 White Must Check

1.Kh6 Bf4+ 2.Kg7 Bh6+ 3.Kf6 Bg5+
 4.Ke5 Bf4+ 5.Kd4 Be3+ 6.Kc3 Se2+
 7.Kb2 Bd4+ 8.Kb1 Sc3+ 9.Kc1 Be3#

In SL14, two changes of color on

moves five and eight create the "white trio" which gives mate after a long march of the black King.

SL15 Sébastien Luce
C+ Original



H#5 (3+1)
Nostalgiques

1.Ke8 Bf1 2.Kd7 Sc7 3.Kc6 Rd1 4.Kb6
Sd5+ 5.Ka5 Ra1#

Let us finish this turning serie with a problem with a condition (invented by Romeo Bédoni): If a piece (King included) can, by a Queen move, play to its origin square (the Circe square), it must play to this square, unless it is a self-check.

Black King will be strangely mated on the other side of the board! After two forced returns by black King to e8 and white Bishop to f1, 2...Sc7 not Sb6? has to be played to control e8 and avoid the return of black King to this square. Also 3.Rd1! (on a black square) is right, not Rc1? or Re1?, to avoid the return Ra1 on move 4.

I hope this article won't give you "*le tournis*" [NT: make you dizzy – an untranslatable pun, related to the title having cinema reference, but also the effect of turning the chessboard several

times]. For all comment, please contact the author of the article at luceechecs@gmail.com.

[Editor: All these originals here are eligible for the 2020 informal tourney.]

Book Sale

ご注文は郵便振替で JCPS まで。*印は在庫数を表します。現品限りのものについては、まず若島までメールにて在庫の有無をお問い合わせください。送料はすべて当方負担。

A-1*** FIDE ALBUM 2001-2003 7000
円 新本

A-2*** FIDE ALBUM 2004-2006 6500
円 新本

A-3* FIDE ALBUM 2013-2015 7100円
新本

A-4* FIDE ALBUM 1998-2000 Annexe
8400円 新本

A-5* René J. Millour, Subtleties on 64
Squares 7000円

本誌でもおなじみ Millour さんの作品集。特にフェアリーとレトロのファンは必見。251局。英語。

A-6* Zdravko Maslar, Atelier 64 5200
円

約 40 年も続いている Andernach meeting の主宰者として知られる、Maslar さんの作品集。ヘルプメイトを中心に 180局。FEE=NIX シリーズ。ドイツ語。

A-7* Milan Velimirovic, A Collection of
Chess Problems by Touw Hian Bwee
3500円

インドネシアの作家 Touw Hian Bwee の作品集。収録作品数 178局。英語。

Continued on p.75

Some special effects with the new type

Günther Weeth

I. Other than in defensive retractors with only AntiCirce being implemented, uncaptures can here only be legally performed when the rebirth square of the uncaptured sacrificial piece/pawn is occupied.

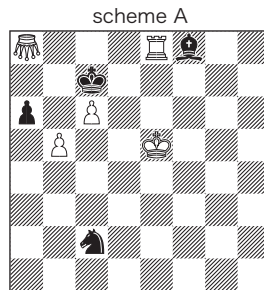
II. If a unit occupying the rebirth square of some certain sacrificial unit shows a kind *different* from the one shown by the sacrificial unit, the following situation is presented: In forward play the sacrificial unit could not be transferred to its original square according to Circe. It disappeared from the board. In retro play it reappears on the square of uncapture.

III. If the occupying unit shows the *same* kind as does the sacrificial unit, the following situation is presented: When in the case of a knight, a bishop, or a rook the colour of the occupied square is identical with that of the square of uncapture, - or, - in the case of a pawn or a fairy piece created by promotion both the square of uncapture and that of the occupying unit are located on the same file -, we have got two variants:

a) In forward play the rebirth square was *occupied*, and the sacrificial unit disappeared. In retro play it reappears on the square of uncapture.

b) In forward play the rebirth square was *empty*, with its capture the sacrificial unit was transferred to it according to Circe. So it is evident that now both the occupying unit and the sacrificial unit are one and the same unit which means that the occupying unit disappears from its square and emerges on the square of uncapture.

If legality allows to make use of both variants, the colour which is authorized to take the decision on the uncapture (i.e. the colour on the move in type Proca and white taking back in type Klan, - in the other cases the opponent) decides on the *only one* variant that serves its purpose. If it does not matter which variant is chosen, we have got a ruinous cook. Example:

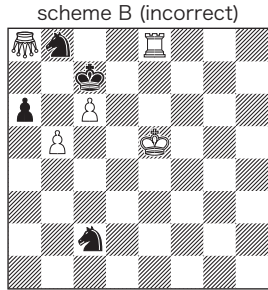


-1 & #1 (5+4)

Proca Retractor
Circe AntiCirce
Grasshopper a8

R. 1.Ga5xBa7[Ga8] - fw.1.b6#; not

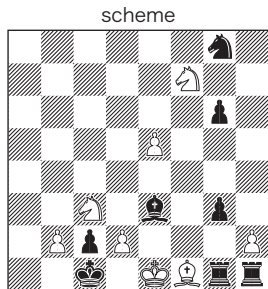
1.Ga5xBa7 [Ga8][Bf8]? fw.1....., Bb6:[Bf8][b2]! White thus makes use only of the one variant that serves his purpose.



-1 & #1 (5+4)
 Proca Retractor
 Circe AntiCirce
 Grasshopper a8

Here White can successfully make use of either variant. R 1.Ga5xSa7[Ga8] or 1.Ga5xSa7[Ga8][Sb8] – fw.1.b6#. The cook mentioned above is automatically produced.

IV. It is worthwhile mentioning the fact that occupying units being placed on their original squares can perform legal uncaptures themselves as well. Here is a relatively simple example:



-2 & #1 (8+8)
 Proca Retractor
 Circe AntiCirce Calvet

R 1.Bc6:Sa8![Bf1], g2:Rf1(S)[Sg8] – the unit blocking the repulse square uncaptures itself due to AntiCirce Circe with a wR being the only choice – 2.Be8-c6 fw. 1.RxRg1[Ra1][Rh8]#.

V. A certain peculiarity may be recognized with quite unusual uncaptures that might at first sight appear to be strange if not illegal. I should like to indicate them as “invisible” uncaptures. In order to describe such a phenomenon in concrete detail, the following original has been composed:



-5 & #1 (3+14)
 Proca Retractor
 Circe AntiCirce Calvet
 Bishopper b8, b1
 Rookhopper d4

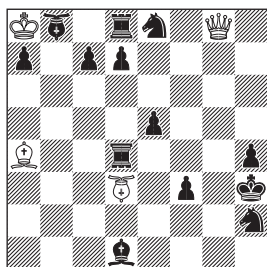
R 1.BHd3 (invisible: xBHb1)[BHb8] [BHb1]!, Bd1-c2+ 2.Ke1-d2, f3-f2+ 3.Ka8 (invisible: xPa7)[Ke1][Pa7], BHd6xQb8[BHb1] (no other legal sacrificial unit being possible on b8!) (no rebirth of the wQ in fw.play, see Bd1) 4.Qb3-b8, BHb8-d6+ 5.Qg8-b3 – fw.1.BxBd1[Bf1][Bc8]#

The legality of 1st and 3rd moves becomes evident in the course of the

following forward play. Of course, this implies a certain sequence concerning the different elements of capturing:

1. capture 2. AntiCirce rebirth of the capturing unit 3. Circe rebirth of the sacrificial unit. An exchange of 2 and 3 would in any case prevent the Circe rebirth of the sacrificial unit as at that moment the rebirth square would be occupied by the capturing unit. As can be recognized in many existing forward problems under the condition of AntiCirce plus Circe the exclusion of such an exchange has always been practised.

The final position in retro play:



(4+13)

forward play: Qb3, BHd6+ / Qb8, BHxQb8[BHb1]+ (no rebirth), see Bd1 / KxPa7[Ke1][Pa7] – rebirth of the pawn on its original square -, f2+ / Kd2, Bc2+ / BHxBHb1 [BHb8][BHb1] – rebirth of the the fairy piece on its promotion square = position of the last but one diagram.

VI. It is obvious that with the implementation of combined conditions Circe and AntiCirce in retro play the *quantity* of legal uncaptures as well

as of uncaptures producing a cook appears to be limited. On the other hand, a remarkable *increase in terms of profound strategy* may be recognized with a view to the complexity of retro play around occupying and sacrificial units. With a view to rather complicated procedures concerning the performance of uncaptures, authors of the new type will certainly focus on the attractive theme of necessary preparation of desired uncaptures by means of deploy / decoy of units to certain rebirth squares, see f.ex. the 2nd move in our sample. Another attractive motif can be seen with occupying units disappearing in the course of an uncapture according to a situation as described in III b: clearance of lines.

Last not least: Circe can provide nice effects when it comes to generate the final forward play as prescribed by the additional stipulation in defensive retractors.

Further study and effort exerted by experts will show whether the new type can really reap such fruit as to justify the implementation of both Circe and AntiCirce in retro play.

数式処理ソフトと換気扇の下

吉野 隆

はじめまして、吉野と申します。今号から表紙画像を担当させていただきます。熱心な会員とは言えない私にリレー・エッセイの順番が回ってきたのは、自己紹介の場を与えようという編集長のご配慮によるものです。ありがとうございます。これまでのような重厚感がある画像は作れそうにもありませんが、自分なりに楽しく画像を用意していきたいと思っております。しばらくの間よろしくお願いいたします。

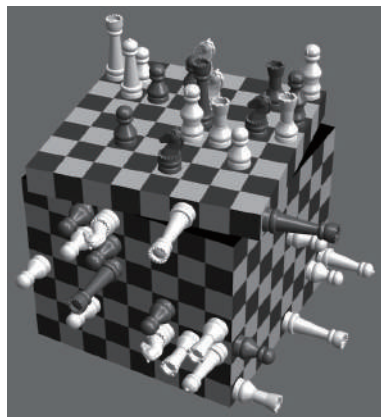
本エッセイの執筆依頼を受けてからずっと「私が気に入っていることは何だろう？」と自分に問いかけてきました。私がこれまでにやってきたことというのは、その時に自分が面白いと感じてきたことばかりで、自分でも変ですがどうも一貫性がありません。楽譜を眺めたり、連鶴を折ったり、ミステリーを読んだり、これまでのリレー・エッセイの話題に関連するようなことに少しは手を出しているものの、これまでの執筆者の皆様と同じくらいに面白いこと（ディープなこと）は書けそうにもありません。私は中途半端な人間なようです。結局、私にとってなくてはならない道具と場所について書くことにしました。

私のお気に入りは Mathematica を使って遊ぶことです。Wolfram Mathematica®（以下では Mathematica と表記します）は Wolfram Research 社が提供している数式処理ソフトです。ある時期に「このままでは時間が足りなくて何もできない」という強迫観念に取り憑かれました。そのときに、現役を終えるまで使い続けることができそうなアプリと心の中しよう（自由に使いこなせるよう

になろう）と思い、心中相手を検討しました。そのときに選んだのが Mathematica です。既に二十年以上の付き合いになります。

遊び方はいろいろあるのですが、結果を表すひとつの図やアニメーションを最後に作ることが多いです。何かをやった結果をきれいな図に落とし込むことに達成感を覚えるからかもしれません。例えば、単純な方程式の解を求めるにしても、方程式自体やその解の意味を最も良く表している図を作ることによって理解が深まるような気がするのです。

ここでは、私がどんな風に遊んでいるのか、実例を挙げて紹介したいと思います。Mathematica で作成した以下の画像をご覧ください。日本ナボコフ協会が発行している会誌 *Krug* の第 13 号で表紙に予定されているものです。以下ではこの画像の完成まで私を楽しんだ過程を説明したいと思います。

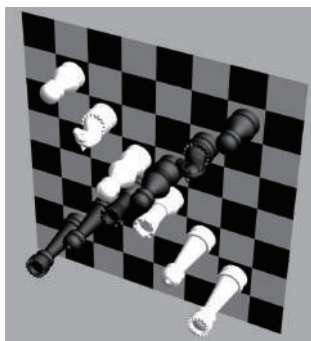


はじめに考えたことは「ナボコフが作ったチェス・プロブレムをモチーフにした画像を作りたい」というものでした。とりあえず幾

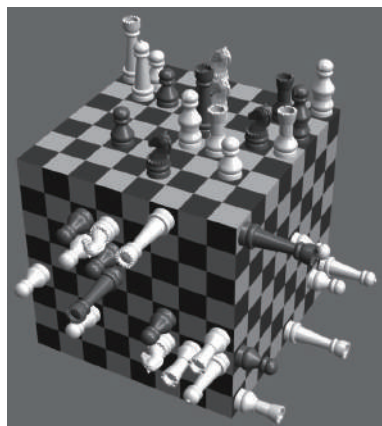
つかの作品を集めて眺めてみました。ひとつを選ぶよりも何種類かあったほうが中身が濃くなるので、ともかく立体的に並べてみることにしました。

まずチェス盤だけを立体的に並べることにチャレンジしました。具体的には、64枚の正方形3セットを立方体の表面のように置く画像を作成しました（こちらからは見えない奥にある三つの面には何も置きませんでした）。置いてみたものの、あまり満足できませんでした。立方体の頂点は三つの面で作られるので、頂点まわりの柁の色が交互になりません。チェス盤が9×9なら同一色になって問題がなかったのに…。これは今でも不満がありますが目をつぶることにしました。

次に駒のデータを探さねばなりませんでした。自分でゼロから作れる自信がなかったからです。何種類かフリーのデータを見つけ、一番気に入ったセットを Mathematica に読み込ませることができる（データを解釈してグラフィックスとして表示できる）ことを確認しました。更に、駒の表面に白と黒の色が付けられることも確認しました（それらしく見えるように表面の反射率も設定しました）。同時に、チェス盤の白と黒が駒の色と同じだと盤が目立ちすぎるので、盤の色の調整も行いました。試しに立方体前面に駒を置いてみると下図のような絵が描けました。右下が黒柁になっていることに気づいて盤の白黒を入れ替えたのはもう少し後になってからのようです。



そして、ナボコフが作ったプロブレムのとおりにチェス盤の上に駒を配置しました。ひとつ目のプロブレムの配置データを設定して、同じプロブレムを三つの面に置きました。これが成功したことを確認して、残りの配置データを設定して、三つのプロブレムを三つの面にそれぞれ置くことができました。さらに、どの面にどのプロブレムを置くのかを検討しました。一番見えづらい側面に駒数が少ないプロブレムを置くのが良いだろうという結論に至りました。また、見えない三つの面には何も置く必要がないと判断しました（もともと盤も描いてないし…。）ここまでで下のような画像ができあがりました。なんと動きがない感じがして不満が残りました。



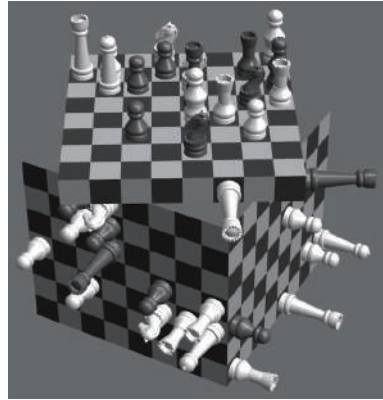
もうひとつ気になったのは「ナイトをどちらに向かせたら良いか？」です。他の駒はほぼ軸対称（対称性に「ほぼ」はありませんが、ニュアンスは伝わるはず）なので向きをあまり気にしなくても良いのですが、ナイトは面対称なので少し気になります。そこで、チェスプレイヤーが実戦でナイトをどの向きに置いているかを調べました。顔を相手に向けるのが一般的ならそうしようと思っていましたが、私にはほとんどが適当な向きに置いているように思えました。ゲーム中はそんなことを気にしている場合じゃないでしょう

ね。結局、ナイトの向きは考えないことにしました。いま振り返ってみると、やはり少し工夫しておくべきだったかという後悔もあります。

表面が正方形に分割されている立方体と言えばルービック・キューブです。そのような雰囲気を与えるためには一部を少しだけ回転させれば良いはずですが（90度回転させてもあまり意味がない）。どこを回そうかを考えていたときに、回せるのはひとつの塊だけであることにはじめて気が付きました。例えば、手前の塊と側面の塊を同時に少しずつ回すことはできません。そこで、どの塊をどれだけ回すべきかを探りました。最初に紹介した画像がその結果になります。

いろいろ回してきている間に問題が見つかりました。まず、あまり回し過ぎると隠れていた三つの面に駒が無いことがバレてしまうことです。回す分量がなるべく少なくなるようにしました。手を抜くと碌なことにならないことはわかっているつもりなのですが、駒と升目の配置に手を抜いたことでこの問題が生じてしまいました。もうひとつは、回したことで箱の向こうに盤すら置いてないことがバレてしまうことです。中が見えなくなるように黒い正方形で蓋をしました。そんな失敗がよく分かる、回し過ぎで蓋もつけていない画像をご覧ください（右上）。かなり間抜けな感じがしますね。

以上で *Krug* 誌の表紙画像を作る過程で私が何を楽しんだのかという話はおしまいです。本誌の今号と次号の表紙では、このときに用いた方法を流用して、フェアリーをモチーフにした画像を作りました。その後のことはまだ何も思いついておりませんが、何かしら広い意味でチェスに関連する画像を作りたいと思っています。もちろん、自分なりに楽しんで。



Mathematica は機能が豊富なので、できることを書こうと思えば幾らでも書くことができますがやめておきます。その代わりに、なぜ Mathematica と遊び続けられたのかを考えてみました。「無名関数（Mathematica では純関数）と高階関数（関数を引数にもつ関数）でプログラムを作る」という関数型プログラミングという方法が私の好みに合っていたのではないかというのが結論です。簡単な例を挙げると、`#+1& /@ Range[10]` は 1 から 10 までの整数の集合を作った上で、現在の値を 1 増やす関数をすべての要素に適用することを意味しています（つまり `Range[2, 11]` ですが、あくまでも例ということで）。`#+1&` が引数を 1 だけ増やして返す純関数を表し、`/@` がすべての要素に同じ関数を適用する高階関数を表します。刹那的に関数を作って全体にそれを適用してしまうという感じが好きです。

もうひとつ、私のお気に入りの場所を紹介させてください。それは、自宅キッチンの換気扇の下です。昨今ではあまり大きな声で言えなくなりましたが、私は喫煙者です。しかも、喫煙者からもあまり歓迎されない葉巻を吸います。葉巻は煙の量が多く匂いが独特なため、喫煙が可能な場所ですら敬遠されるこ

とが多いのです。好きな小説家がブログで葉巻の喫味について書いていたのがきっかけで興味を持ちました。今では結構な頻度で吸っています（「嗜んでます」と書くとかっこいいのかもしれないけど、私には似合わないなぁ）。自宅では煙を強制排出するためにキッチンの換気扇の下に椅子を置いて吸っています。これがなかなか良いのです。以下ではその状況をもう少し詳しくお話しします。ちなみに、私は下戸なので、バーなどでお酒を飲みながら粹に吸うことができません。

ご存じない方のために申し上げますと、葉巻は点火したら概して1時間は吸い続けるものです（サイズにもよりますが…）。途中でやめると喫味を損なってしまうので中断する理由がない限り長い時間をかけて吸います。したがって、始めたら1時間以上はその場所に留まることになります。そして、その時間を楽しく過ごすための環境整備が必要になってきます。

まずは気温対策です。換気扇が回っているとその下は外気とほぼ同じ気温になります。最近は春と秋が短いので一年中対策が必要です。夏は上半身裸なときもありますし、冬は厚着をしてハンドウォーマーで手やお腹を温めます。自宅に居ながらにして季節の移り変わりを実感することができますよ。

次は飲み物です。下戸な私はソフトドリンクを用意します。温かいものが飲みたいと思ったら、目の前のガスレンジでお湯が沸かします。冷たいものは隣にある冷蔵庫の扉を開ければすぐに手に入ります。私は自分で珈琲をいれるのが好きです。最近はモカエキスプレスという直火ポットを使って濃い珈琲をいれるのがお気に入りです。途中に聞こえてくるコトコトという音を聞いたり、できあがるときに抽出液が見る間に上昇してくる様子を眺めるのが楽しいです。

喫煙中に何を楽しむかは一番重要です。膝の上にノートパソコンを置いて仕事をしたり

Mathematica のプログラミングをしたりということもありますが、一番多いのは読書です。自炊した PDF や電子書籍を読むことも多くなりました。端末は iPad mini を使っています。ある程度長い時間でも片手で持てるし、頑張ればジーンズの尻ポケットに入れられるのもありがたいです。大抵は複数の本をパラレルに読んでいるので（これが読書スピードが遅い原因かなと疑っている）、その時の気分で読む本を選んでいきます。わからない単語を調べるのもコピーして横にスワイプするだけで良いので楽になりました。最近では日本のプロバスケットボール（Bリーグ）の試合を観戦しながらということも多いです。

少し気になるのが換気扇の音です。室内に煙を留まらせないようにそれなりの強さで換気扇を回しています。留まった煙にも趣きがあると言う人もいますが、匂い（臭い？）が残るのが嫌で避けています。換気扇の音を避けるためにノイズキャンセリング機能が付いているヘッドホンを使用することが多いです。ノイズキャンセリング機能だけを使う場合もあるし、音楽を聴く場合もあります。ひとつだけ問題点を挙げるとするならば、やかに火をかけているときに、中の水が沸騰したことに気が付かないことでしょうか。



ある日のガスレンジ周辺の様子を撮影しました（上の図）。画像では黒くてわかりづらいですが、灰皿は葉巻専用です。太さが違うせいか、シガレット用の灰皿は葉巻を置いたときの安定感が良くなって購入しました。こ

の日の珈琲はモカエキスプレス（画像中央の奥）で作ったものですが、ミルクをたくさん混ぜたかったので、大きなマグカップを使っています。ハンドウォーマーは手がかじかむ季節の始まりに取り出すと、表面が白い酸化膜に覆われています。白くなったハンドウォーマーを見ると、今年も秋が来たなあと、思います。酸化膜は使用し続けるうちに少しずつなくなります。銀色の輝きがだんだんと戻ってくると冬本番が近いです。

妻が食事の支度をする時間と喫煙が重なることがあります。内心は邪魔と思っているのですが、私の自由にさせてくれています。狭い空間を二人で占めることになるので、必然的に会話があります。そういう会話の時間ができるというのも換気扇の下を陣取ることの良い側面であったりします。

そのようなわけで、キッチンの換気扇の下には私の居場所があります。この場所で過ごす時間は私にとって大切なものになっています。ちなみに、さきほどの画像にある葉巻は、このエッセイのドラフトに朱を入れながら灰にしました。実に良い時間でした。

私は「自分が解けそうだと思う程度の問題を自分に与えて、それを自分で解決していく過程」が楽しいようです。本コラムを執筆していて気が付きました。これはチェスブロblemにも活かせそうな気がしています。まだスキルが足りなくて、プロパラには本格参戦できていませんが、少しずつ力をつけていつか本編にも登場したいですね。それまではこの先も続くであろうリレー・エッセイが一番の楽しみです。

Book Sale

Continued from p.67

A-8** Peter Gvodjak, Cyclone 3700円
パターン・プレイのcyclicテーマを網羅したものの。英語。

A-9*** Peter Gvodjak, Cyclone 2 5300円

A-11の続篇。

A-10* ШАХМАТНАЯ КОМПОЗИЦИЯ
1977-1982 1000円 花沢蔵書

ロシア作家作品集。ロシア語。

A-11** В. А. МЕЛЬНИЧЕНКО, МАСТЕРА ШАХМАТНОЙ КОМПОЗИЦИИ 1000円 花沢蔵書

ロシア作家作品集。ロシア語。

A-12** BELFORT 1994 37. CONGRES DE LA FIDE 1000円 花沢蔵書

1994年世界大会記念冊子。フランス語。

A-13* Winfried E.Kuhn et.al., Das Hans-Klüver-Gedenkturnier 1990-1993 500円 花沢蔵書

H. Klüver 追悼冊子。ドイツ語。

A-14* Günter Büsing & Hans Gruber, John Niemann -Eine Gedenkschrift- 500円 花沢蔵書

J. Niemann 追悼冊子。ドイツ語。

A-15* Wolfgang Dittmann, Der Flug der Schwalbe 1000円 花沢蔵書

専門誌Die Schwalbeの歴史。ドイツ語。

A-16* Kenneth S. Howard, The American Two-Move Chess Problems 1000円 古本

A-17* Kenneth S. Howard, Classic Chess Problems 1000円 古本

A-18* Kenneth S. Howard, Chess Problems by Eight Eminent American Composers 1000円 古本

A-19* Kenneth S. Howard, Spectacular Chess Problems 1000円 古本

A-20* Kenneth S. Howard, How To Solve Chess Problems 1000円 古本

A-21* Kenneth S. Howard, The Enjoyment of Chess Problems 1000円 古本

Definitions

<一般的通則>

: 最終目的がメイトであることを表示する。

= : 最終目的がステイルメイトであることを表示する。

+ : 最終目的がチェックであることを表示する。

++ : 最終目的がダブルチェックであることを表示する。

v : 紛れ (try) を表す。個数は、テーマとなる紛れの数を表す。

* : Set Play を表す。オーソドックスやセルフメイトの場合は黒から指し始め、ヘルプメイトの場合は白から指し始める。作意手数から 0.5 手を引いた手数になる。

sols : solutions すなわち「解」のこと。指定された数だけ解があり、これは余詰ではなく、作意設定のうちに入っている。

b) c) ... : 問題図を a) とし、指定のように配置を変えた図を b) c) ... として、いずれも a) と同じ条件で解くこと。

Zeroposition : ツイン設定のために便宜上使われる図。この指定があるときには、問題図そのものを解く必要はなく、そこから配置を変えた図 a) b) ... のみを解くこと。

◆盤上にフェアリー駒がある場合、P はそのフェアリー駒にも成れる。

◆キャスリング可能な位置にある K と R は、それが不可能であるという証明ができないかぎりキャスリング可能とみなされる。逆にアンパッサン可能な位置にある P は、直前の手が取られる P が動いたものと証明ができない限りアンパッサン不可能とする。

<問題設定>

Direct (記号無し) : #n では、白から指し始め、n 手で黒をメイトにする手順を求める。黒はそれに抵抗する。

Help (H) : H#n では、黒が白に協力し、n 手で黒をメイトにするような手順を求める。通常黒から指し始める。白から指し始める場合は、0.5 手分を引いた形で表記する。

Helpself (HS) : HS#n では、ヘルプで (n-1) 手指して、そこから S#1 になるような手順を求める。通常白から指し始める。

Klan Retractor : 逆算の際、駒の起点をその駒の持ち主が決定し、駒取りの有無と種類は白が決定する。黒は抵抗する。

No Forward Defense : Proca-Retractor などで Forward Defense を禁じたもの。

Parse Series-self (PHSS) : Series-self で、白が連続して指す手順中にチェックをかけることもでき、その場合は直後に黒が 1 手指す、としたもの。

Proca-Retractor -n : 白から戻し始めて、n 手以内で、白が黒を 1 手でメイトにできるような局面を作るのが目的。黒は抵抗する。なお、黒にも白と同様、逆算してから 1 手詰にする権利がある。これを Forward Defense という。

Proof Game (PG) : 実戦初形から始めて、指定された手数で問題図に至るような手順を求める。

Reflex (R) : R ≠ n は、S ≠ n に「自分の手番で、相手を 1 手でメイトにできるときは、必ずその手を指さねばならない」という条件を追加したもの。この追加条件は、白黒の双方に適用される。

Self (S) : S#n では、白から指し始め、白が自分を n 手でメイトにさせるよう黒に強制する手順を求める。

Series-help (SH) : 黒が連続して指定された手数を指し、それから白が 1 手でメイトなどの目的を達成できるような手順を求める。黒は最終手を除いて、白にチェックをかけてはならない。

Series-self (SS) : 白が連続して指定された手数を指し、それから黒が 1 手で白をメイ

ト（あるいはステイルメイト）にするよう強制される手順を求める。白は最終手を除いて、黒にチェックをかけてはならない。

<フェアリールール>

Alphabetical Chess (ABC) : 盤面の枡目に a1, a2, … a8, b1, b2, … h8 という order が付いているとしたとき、すべての着手は、この order でいちばん a1 の近くにある枡目の自駒を動かさなくてはならない。

Anti-Andernach : Andernach とは逆に、駒取りではない手を指したときに相手の駒になる。細則は Andernach に準ずる。

Anticipés : 1手でKを取れるか、2手連続指せばKを取れるとき、そのKにはチェックがかかっているとす。

AntiCirce:駒を取るとき、取る駒（Kを含む）は初形位置に戻り、取られた駒は盤上から消える。取る駒の初形位置が何らかの駒（取る駒と取られる駒を除く）によって占領されているときは、駒が取れない。細則は Circe に準じる。

AntiCirce Calvet : 取る駒がその初形位置に着地するような取りも許す Anticirce。

AntiCirce Cheylan : 取る駒がその原形位置に着地するような取りは禁手とした Anticirce。

AntipodeanCirce : 取られた駒は取られた位置から（±4、±4）の地点に復活する。8段目に発生したPは任意の駒に成れ、その選択は取りを行った側が決められる。1段目に発生したPは動けない。

Bicolores : Kに自分の色の駒でヒモを付けたとき、それもチェックと見なすルール。従って、自分のKをそのような状態にする指し手はselfcheckの禁手となる。

Black Disparate : Disparate を黒のみに適用したもの。

Black Maxi-Minimum : 黒は奇数手目では Maxi、偶数手目では Miniの手を指す。

Breton : 駒を取ったとき、取られた駒と同種の駒が（もしある場合）1つ、取った側から消える。

Cast Inverse : 複数の駒に取りをかけている駒だけが、駒取りをできる。

Chameleon FML : Kを除いて、ちょうど空いたマス目に入った駒は色が変わる。

Circe : K以外の取られた駒は初形位置に再生する。RおよびSの初形位置は取られた場所の色によって決まる。Pの初形位置は取られた筋の2段目。フェアリー駒の初形位置は取られた筋の8段目。取られた駒の初形位置が何らかの駒によって占領されているときはその駒は通常通り盤上から消える。初形位置に戻ったRはキャスリング可能。初形位置に戻ったPは2歩進むことが可能。

Circe Parrain:地点 a で駒が取られたとき、取られた駒はその直後の指し手（移動ベクトルを v とする）によって、地点 a+v に再生する。再生場所が盤の外だったり、そこが別の駒によって占領されている場合は、再生しない。直後の指し手がキャスリングの場合、その移動ベクトルは K と R それぞれの移動ベクトルを足す（つまり 0-0 は 0 ベクトル）。1段目に再生したPは1マスしか前に進めない。8段目にPが再生すると、その瞬間に成る。細則は Circe に準じる。

Circe Turncoat : 取られた駒は通常の Circe の再生位置に、色を変えて再生する。

Disparate: 相手が直前に動かした駒と同種の駒を、直後の自分の手番では動かしてはいけない。

Duelist : Duellantenschach、または Single Combat ともいう。1手前に動かした駒を、次の手番でも動かさねばならない。それが不可能なら動かす駒を自由に選べる。

Eiffel Chess : $P \rightarrow S \rightarrow B \rightarrow R \rightarrow Q \rightarrow P$ の順で、その駒によって取りをかけられていると動けなくなる。

Einstein Chess : K以外の駒は、駒を取る

と、その駒は P → S → B → R → Q の順で種類が 1 ランク上がる (Q はそのまま)。逆に、駒を取らないで移動すると、その駒は Q → R → B → S → P の順で種類が 1 ランク下がる (P はそのまま)。P は 8 段目に到達しても成れない。1 段目に発生した P は double step および triple step ができ、そのとき 5、6 段目にいる敵の P はそれをアンパサンで取ることができる。

Equipollents Circe : 取られた駒は、取られた位置から取った駒の取りの動きのベクトルだけずれた地点に復活する。最上段に復活した P は成り駒として復活する。

Functionary Chess : Beamtenschach とも言う。相手の駒によって当たりがかかっている駒だけが動ける。

Leffie : Eiffel の反対。Eiffel Chess における paralysis が起こるような着手は禁手。

Leffie type B : Eiffel Chess における paralysis が起こるような着手は禁手というルールを、K を取る手にも適用したもの。

Mars Circe : 駒を取るとき、取る駒 (K を含む) はいったん初形位置に戻り、そこから駒取りを行う。取られた駒は盤上から消える。取る駒の初形位置が何らかの駒 (取る駒も含む) によって占領されているときは、駒が取れない。細則は Circe に準じる。

Masand : チェック (開き王手を除く) をかけたとき、その駒の利きにある敵味方の駒は、K を除いてすべて色が変わる。

Maximummer : 黒は可能な手の中で移動距離 (升目の中心から、中心までの距離) が最大の手を指すとする条件 (複数存在するときには、黒はその中から選択できる)。キャスリングの移動距離は K,R の移動距離を足したもの (0-0 は $2+2=4$ 、0-0-0 は $2+3=5$)。チェックおよびメイトの概念はオーソドックスと同じ。

Nostalgiques : ある駒 (K を含む) が Circe 再生位置まで Q の動きで移動できるとき、

それが illegal でないかぎり、その手を指さなければならぬ。

Partial Paralysis : ある駒 X に敵駒 Y の利きがあるとき、X は Y のように動いたり駒を取ったりすることができない。X=Y のときは Madrasi 関係。キャスリングは、K が 1 マスずつ動くそのそれぞれの手が合法のときにのみ可能。

Platzwechselcirce (PWC) : 駒を取るとき、取られた駒は取る駒のいた位置に再生する。8 段目に発生した P は任意の駒に成れ、その選択は取りを行った側が決められる。1 段目に発生した P は動けない。

Point Reflection : 盤の中央を中心にして点対称の関係にあるマス目の駒どうしは、色に関わらず、それぞれの性能が入れ替わる。1 段目にいる P はそれじたいでは動けない。1 段目の P と対称の位置にある駒も動けない。キャスリングとアンパサンは、通常の KR および P のみが行える。

Protean Chess : K が敵の駒 X を取った場合、その K は Royal X に変身する。

Reversed ABC : 盤面の枡目に h8, h7, … h1, g8, g7, … a1 という order が付いているとしたとき、すべての着手は、この order でいちばん h8 の近くにある枡目の自駒を動かさなくてはならない。

Sentinels Pion Neutre : P 以外の駒を動かしたとき、その動く前の位置に neutral P が発生する。細則は Sentinels に準じる。

Shrinking Man : どの駒も、前に動いたときより大きな移動距離では動けない。

Take&Make : 駒を取ったとき、その駒は同時にそこから移動する手を指さなければならぬ。その移動する手は、取られた駒の動き (取られた側から見た動き) になる。P は 1 段目に移動できない。

Transmuted Kings : チェックをかけられた K は、その瞬間にチェックをかけた駒の働きをするというルール。特に断らない限り、

このルールは双方の K に適用される。

Ultraschachzwang : 黒は必ず白 K にチェックをかける。メイトの概念はオーソドックスと同じ。

Vertical Millor Circe : Circe Inverse と同じ。K 以外の取られた駒は、d/e 筋の境界線を軸にして、Circe で発生する位置と対称の位置に再生する。細則は Circe に準じる。

Volage: K 以外の駒は、実戦初形からの指し手において、初めて違う色のマスに移動したとき、相手の駒になる。この性質を volages という。いったん相手の駒になると、volages 性を失い、その後は変化しない。通常、問題図では、volages 性を失っていると証明できない駒はすべて volages 性を持っていると仮定する。

White Max-Minimum : 白は奇数手目では Maxi、偶数手目では Mini の手を指す。

WhiteMaximummer : Maximummer の条件を黒ではなく白に適用したもの。

white must check : 白は必ず黒 K にチェックをかけねばならない。

<フェアリー駒>

√ **25-Leaper** : (0, 5)-Leaper+(3, 4)-Leaper : 移動距離√ 25 の地点に跳ぶ。

√ **50-Leaper** : 移動距離が√ 50 の地点に跳ぶ。(1,7)-Leaper+(5,5)-Leaper。

Berolina Pawn : 進むときは斜めに 1 マス、駒を取るときは直前にいる敵駒を取る、とした P。

Berolina Superpawn : 通常の Berolina Pawn の利きをどこまでも延長した駒。進むときは斜めに好きなだけ前進し、駒を取るときは前の何マス先の駒でも取れる。8 段目に到達すると、P と同じように成る。

BishopHopper : B の筋の線上で、一つ駒を跳び越して、その直後の地点に着地する駒。着地地点に敵の駒があれば取れる。

Dolphin : Grasshopper + Kangaroo。

Grasshopper : Q の筋で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する駒。そこに相手の駒があれば取れる。

Hunter : Hunter X/Y は、前進する場合は X で、後退する場合は Y という駒。横には動けない。

Kangaroo : Q の筋で、駒を 2 枚飛び越したその直後の地点に着地する駒。そこに相手の駒があれば取れる。

Leaper : S の様な動きの駒の総称。(x,y)-Leaper は駒の居る位置から縦横に (x,y) または (y,x) だけ離れた地点に着地する。間に駒があっても飛越えられる。例えば S は (1,2)-Leaper。

Leo: Chinese piece の一つ。Q のように動くが、駒を取るときはその線上で駒の一つ跳び越してその先 (直後でなくてもいい) にある駒を取る

Neutral : 白および黒のどちらからも動かせられる駒。取ったり取られたりすることもできる。n の記号で表し、nQ という風に表示する。nP は成ると Neutral 駒に成る。ただし、普通の P が Neutral 駒に成ることはできない。フェアリー駒が盤上に現れている場合は、nP はその Neutral フェアリー駒に成れる。

Nightrider : (1,2)-Rider。

Nightriderhopper : Nightrider の筋で、ある駒を 1 つ飛び越したその直後の地点に着地する駒。そこに相手の駒があれば取れる。

Pao: Chinese piece の一つ。R のように動くが、駒を取るときはその線上で駒の一つ跳び越してその先 (直後でなくてもいい) にある駒を取る

Princess : B + S。

Rider : R や B など一定の方向にどこまでも進めるが駒にぶつくとその先には進めない駒の総称。(x,y)-Rider は進める方向が (x,y)-Leaper の延長となる。例えば R は (0,1)-Rider。

Continued on p.3

第 90 号解答成績

	D	E	H	S	F	R	U	計
Max	15	35	130	15	60	35	30	320
内田 昭	15	2	81.5		5		15	118.5
及川弘典			120				20	140
小畑 勉	15		36					51
神在月生	15		21				20	56
九尾	10		105.5				25	140.5
黒川智記	15	1	82	5			30	133
小林看空			121.5					121.5
駒井信久			118.5				25	143.5
齋藤光平			52.5				30	82.5
則内誠一郎	15	18	125		33	12	25	228
太刀岡甫	15		76	5	16		25	137
原岡 望	10						0	10
星野健司	15		127.5	8			30	180.5
水野勝久	15		35		5		5	60
宮嶋亮一	15							15
若島 正		2						2
渡邊一雄			65					65

第 90 号の解答者は 17 名。成績は、1 位が則内誠一郎で 228 点（71%）で、2 位に星野健司さんが 180.5 点（56%）、3 位に駒井信久さんが 143.5 点（45%）で入りました。以下、九尾司さん（140.5 点）、及川弘典さん（140 点）、駒井信久さん（140 点）、太刀岡甫さん（137 点）、及川弘典さん（135 点）、黒川智記さん（133 点）、小林看空さん（121.5 点）、内田昭さん（118.5 点）が 100 点越えの好成績でした

今号も、みなさまの解答参加をお待ちしています！

お知らせ & Book Sale

これまで弊社で製作販売していた『この詰将棋がすごい！』等の詰将棋関係書は、すべて「つみき書店」(<http://kazemidori.fool.jp/>)に移管しましたので、ご購入はそちらでお願いいたします。

プロブレム関係の書籍やグッズは、従来どおり、当方で販売しております。

B-1 Yoshikazu Ueda, Aurora: A Collection of 100 Chess Problems 2000 円

在庫あり。英語。

B-2 Satoshi Hashimoto, 64 Proof Games 2000 円

在庫あり。英語 + 日本語。

B-3 WCCC 2012 ブックレット 1000 円

2012 年に神戸で行われた世界大会の記録をまとめた冊子。在庫あり。

B-4 WCCC 2012 記念 T シャツ 2000 円

M/L サイズ。在庫あり。